

(様式第10)

海大第576号
令和4年10月3日

厚生労働大臣 殿

北海道大学総長 寶金 清博

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
氏名	国立大学法人北海道大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人北海道大学 北海道大学病院

3 所在の場所

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
電話(011) 716 - 1161

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	<input checked="" type="radio"/>	2消化器内科	<input checked="" type="radio"/>	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科	<input checked="" type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	脳神経内科	3	循環器外科	4	形成外科	5	リハビリテーション科
6	病理診断科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
70	0	0	0	874	944	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	235	302.96	537.9
歯科医師	81	52.926	133.9
薬剤師	71	0	71
保健師	0	0	0
助産師	37	0	37
看護師	1001	20	1021
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	11	0	11
管理栄養士	7	0	7

職種	員数
看護補助者	113
理学療法士	17
作業療法士	12
視能訓練士	12
義肢装具士	0
臨床工学士	0
栄養士	0
歯科技工士	6
診療放射線技師	58

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	81
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	0	
その他の技術員	33	
事務職員	306	
その他の職員	148	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	65	眼科専門医	18
外科専門医	60	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	16	放射線科専門医	32
小児科専門医	35	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	14	整形外科専門医	30
泌尿器科専門医	15	麻酔科専門医	32
産婦人科専門医	18	救急科専門医	10
		合計	374

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (秋田 弘俊) 任命年月日 平成 31 年 4 月 1 日

「医療安全管理委員会」 副病院長 平成28年4月1日～ 病院長 平成31年4月1日～令和4年3月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	677.45 人	14.58 人	692.03 人
1日当たり平均外来患者数	2399.73 人	619.9 人	3019.63 人
1日当たり平均調剤数	1447		剤
必要医師数	205		人
必要歯科医師数	33		人
必要薬剤師数	24		人
必要(准)看護師数	448		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	人工呼吸装置	その他の救急蘇生装置	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー
集中治療室	942 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	8 床	有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	222	m ²	病床数	6 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	13		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	93 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)		生化学自動分析装置	
細菌検査室	173 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)		オートクレーブ	
病理検査室	799 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)		切り出し台	
病理解剖室	208 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)		剖検台	
研究室	2031 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)		安全キャビネット	
講義室	37 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	50 人
図書室	136 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	3 室	蔵書数	1670 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	93.1	%	逆紹介率	54.1	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,525		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,856		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,449		人
	D: 初診の患者の数		18,234		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	日村・橋場法律相談事務所	○	法律に関する識見を有する者	無	1
橋本 暁佳	札幌医科大学		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
萩原 正子	日本医療大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受けるもの	無	2
生駒 一憲	北海道大学病院		医療を提供する者	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学ホームページ及び本院ホームページへの掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	17	85	血栓性血小板減少性紫斑病	1
2	筋萎縮性側索硬化症	50	86	原発性免疫不全症候群	78
3	脊髄性筋萎縮症	7	87	IgA腎症	79
4	原発性側索硬化症	1	88	多発性嚢胞腎	280
5	進行性核上性麻痺	26	89	黄色靱帯骨化症	6
6	パーキンソン病	398	90	後縦靱帯骨化症	212
7	大脳皮質基底核変性症	7	91	広範脊柱管狭窄症	6
8	ハンチントン病	6	92	特発性大腿骨頭壊死症	203
9	神経有棘赤血球症	4	93	下垂体性ADH分泌異常症	84
10	シャルコー・マリエ・トウス病	5	94	下垂体性TSH分泌亢進症	9
11	重症筋無力症	144	95	下垂体性PRL分泌亢進症	27
12	多発性硬化症/視神経脊髄炎	170	96	クッシング病	51
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	30	97	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	134
14	封入体筋炎	7	98	下垂体前葉機能低下症	486
15	クドウ・深瀬症候群	7	99	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	5
16	多系統萎縮症	41	100	先天性副腎皮質酵素欠損症	54
17	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	252	101	先天性副腎低形成症	2
18	ライソゾーム病	18	102	アジソン病	5
19	副腎白質ジストロフィー	4	103	サルコイドーシス	357
20	ミトコンドリア病	20	104	特発性間質性肺炎	89
21	もやもや病	207	105	肺動脈性肺高血圧症	67
22	プリオン病	1	106	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	86
23	HTLV-1関連脊髄症	4	107	リンパ脈管筋腫症	38
24	全身性アミロイドーシス	40	108	網膜色素変性症	53
25	遠位型ミオパチー	1	109	バッド・キアリ症候群	3
26	自己食食空胞性ミオパチー	1	110	特発性門脈圧亢進症	2
27	神経線維腫症	67	111	原発性胆汁性肝硬変	147
28	天疱瘡	132	112	原発性硬化性胆管炎	28
29	表皮水疱症	22	113	自己免疫性肝炎	84
30	膿疱性乾癬(汎発型)	17	114	クローン病	255
31	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	115	潰瘍性大腸炎	448
32	高安動脈炎	68	116	好酸球性消化管疾患	8
33	巨細胞性動脈炎	30	117	腸管神経節細胞減少症	3
34	結節性多発動脈炎	33	118	CFC症候群	1
35	顕微鏡的多発血管炎	105	119	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	2
36	多発血管炎性肉芽腫症	51	120	筋ジストロフィー	42
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	67	121	脊髄空洞症	8
38	悪性関節リウマチ	23	122	脊髄髄膜瘤	5
39	バージャー病	13	123	アイザックス症候群	1
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	25	124	脳表ヘモジデリン沈着症	1
41	全身性エリテマトーデス	887	125	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	2
42	皮膚筋炎/多発性筋炎	345	126	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	3
43	全身性強皮症	205	127	前頭側頭葉変性症	1
44	混合性結合組織病	84	128	アレキサンダー病	1
45	シェーグレン症候群	660	129	限局性皮質異形成	1
46	成人スチル病	51	130	ドラベ症候群	1
47	再発性多発軟骨炎	19	131	ミオクロニー欠伸てんかん	3
48	ベーチェット病	302	132	レノックス・ガストー症候群	22
49	特発性拡張型心筋症	181	133	ウエスト症候群	2
50	肥大型心筋症	90	134	ラスムッセン脳炎	4
51	拘束型心筋症	2	135	レット症候群	1
52	再生不良性貧血	63	136	結節性硬化症	20
53	自己免疫性溶血性貧血	11	137	先天性魚鱗癬	9
54	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	138	家族性良性慢性天疱瘡	2
55	特発性血小板減少性紫斑病	149	139	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	90
56	特発性後天性全身性無汗症	11	140	フェニルケトン尿症	1
57	弾性線維性仮性黄色腫	1	141	グルタル酸血症1型	1
58	マルファン症候群	10	142	尿素サイクル異常症	3
59	ウィルソン病	21	143	リジン尿性蛋白不耐症	3
60	クルーゾン症候群	2	144	複合カルボキシラーゼ欠損症	3
61	歌舞伎症候群	2	145	肝型糖原病	2
62	無脾症候群	1	146	原発性高カイトミクロン血症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

63	ウェルナー症候群	3	147	家族性地中海熱	31
64	修正大血管転位症	1	148	強直性脊椎炎	47
65	完全大血管転位症	3	149	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1
66	単心室症	13	150	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
67	三尖弁閉鎖症	5	151	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	5
68	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	152	後天性赤芽球癆	1
69	ファロー四徴症	6	153	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
70	両大血管右室起始症	1	154	クロンカイト・カナダ症候群	6
71	アルポート症候群	1	155	総排泄腔遺残	1
72	急速進行性糸球体腎炎	8	156	胆道閉鎖症	16
73	抗糸球体基底膜腎炎	3	157	IgG4関連疾患	31
74	一次性ネフローゼ症候群	119	158	黄斑ジストロフィー	10
75	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	5	159	レーベル遺伝性視神経症	2
76	紫斑病性腎炎	14	160	若年発症型両側性感音難聴	2
77	先天性腎性尿崩症	3	161	好酸球性副鼻腔炎	55
78	間質性膀胱炎(ハンナ型)	15	162	進行性白質脳症	1
79	オスラー病	26	163	三頭酵素欠損症	2
80	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	164	シリン欠損症	1
81	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	2	165	遺伝性自己炎症疾患	4
82	副甲状腺機能低下症	2	166	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	10
83	偽性副甲状腺機能低下症	2	167	特発性多中心性キャッスルマン病	18
84	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	17			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	167
合計患者数(人)	9352

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 1.一般病棟の場合 イ.7対1入院基本料	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料 3.精神病棟の場合 ハ.13対1入院基本料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・臨床研修病院入院診療加算 1 基幹型	・ハイリスク妊娠管理加算
・救急医療管理加算 1、2	・ハイリスク分娩等管理加算 (ハイリスク分娩管理加算)
・超急性期脳卒中加算	・呼吸ケアチーム加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・後発医薬品使用体制加算2
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算1・2
・医師事務作業補助体制加算1 ハ:25対1	・データ提出加算2イ
・急性期看護補助者体制加算1 25対1(看護補助者5割以上)	・入退院支援加算2
・夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算	・認知症ケア加算2
・看護職員夜間配置加算1 12対1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護補助加算2	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算2イ
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1・2	・地域医療体制確保加算
・放射線治療病室管理加算 (治療用放射性同位元素による治療の場合)	・救命救急入院料1
・緩和ケア診療加算	・小児加算
・精神科応急入院施設管理加算	・早期離床・リハビリテーション加算
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料(ICU)2
・精神科リエゾンチーム加算	・算定上限日数延長
・摂食障害入院医療管理加算	・小児加算
・がん拠点病院加算 1イ がん診療連携拠点病院 2 小児がん拠点病院加算	・早期離床・リハビリテーション加算
・がんゲノム拠点病院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料(MFICU)
・医療安全対策加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料(NICU)
・感染対策向上加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)
・指導強化加算	・小児入院医療管理料2

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・プレイルーム加算	
・無菌治療管理加算1・2	
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	
・歯科外来診療環境体制加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・ニコチン依存症管理料
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・がん治療連携計画策定料
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・喘息治療管理料	・外来排尿自立指導料
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料イ	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料ロ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ハ	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料1
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・精神科退院時共同指導料1及び2
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・一般不妊治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・生殖補助医療管理料2	・遺伝学的検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・骨髄微小残存病変量測定
・二次性骨折予防継続管理料3	・BRCA1/2遺伝子検査
・下肢創傷処置管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来放射線照射診療料	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・CT透視下気管支鏡検査加算
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・経気管支凍結生検法
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・画像診断管理加算1
・国際標準検査管理加算	・画像診断管理加算2
・遺伝カウンセリング加算	・ポジトロン断層撮影
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・CT撮影及びMRI撮影
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・冠動脈CT撮影加算
・胎児心エコー法	・外傷全身CT加算
・ヘッドアップティルト試験	・心臓MRI撮影加算
・人工臓器検査、人工臓器療法	・乳房MRI撮影加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・小児鎮静下MRI撮影加算
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・脳磁図(その他のもの)	・外来化学療法加算1
・脳磁図(自発活動を測定するもの)	・無菌製剤処理料
・脳波検査判断料1	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・遠隔脳波診断	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・神経学的検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・黄斑局所網膜電図	・がん患者リハビリテーション料
・全視野精密網膜電図	・療養生活環境整備指導加算
・ロービジョン検査判断料	・療養生活継続支援加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・認知療法・認知行動療法1
・内服・点滴誘発試験	・精神科作業療法
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・医療保護入院等診療料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・硬膜外自家血注入	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・角結膜悪性腫瘍切除術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・角膜移植術(内皮移植加算)
・人工腎臓	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))及び緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・磁気による膀胱等刺激法	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術	・網膜再建術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・センチネルリンパ節加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・皮膚移植術(死体)	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・自家脂肪注入	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経皮的僧帽弁クリップ術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテルの手術によるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膝頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・生体部分肝移植術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・同種死体肝移植術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・同種死体腓移植術、同種死体腓腎移植術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・同種心移植術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的下肢動脈形成術	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	・生体腎移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・高エネルギー放射線治療
・人工尿道括約筋植込・置換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・精巣内精子採取術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下仙骨陰固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・粒子線治療
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・粒子線治療適応判定加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・粒子線治療医学管理加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・病理診断管理加算2
・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・歯科治療時医療管理料
・無心体双胎焼灼術	・医療機器安全管理料(歯科)
・胎児輸血術及び臍帯穿刺	・有床義歯咀嚼機能検査
・体外式膜型人工肺管理料	・咀嚼能力検査
・輸血管理料Ⅰ	・咬合圧検査
・コーディネート体制充実加算	・精密触覚機能検査
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・睡眠時歯科筋電図検査
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・歯科画像診断管理加算 1
・麻酔管理料(Ⅰ)	・歯科画像診断管理加算 2
・周術期薬剤管理加算	・歯科口腔リハビリテーション料2

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血清・肝組織の網羅的クオミクス等による、肝線維化の病態を効率的に評価・予後予測するバイオマーカーの探索	坂本 直哉	消化器内科	15,115,385	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高純度同種間葉系幹細胞(REC)と硬化性ゲルを用いた腰部脊柱管狭窄症に対する細胞治療	須藤 英毅	整形外科	12,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	11,400,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児急性リンパ性白血病に対する標準的治療法の確立:フォローアップ課題	真部 淳	小児科	6,911,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
末梢神経の軸索再生を支える細胞機構と接着因子の解明	角家 健	整形外科	12,332,266	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果 ープラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験	渡利 英道	婦人科	7,800,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
バイオマテリアルを用いたがんの不均一性制御の研究開発	田中 伸哉	病理診断科	14,730,770	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
水疱性類天疱瘡の発症機序の解明と発症リスク因子の同定	氏家 英之	皮膚科	9,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
酸素の安定同位体O-17標識水による筋萎縮性側索硬化症の早期診断MRI	工藤 與亮	放射線診断科	36,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
量子線手術(クオラム・ビーム・サージェリー)と放射線照射後手術における治療術中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発	白土 博樹	放射線治療科	27,269,200	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
分子病態に基づく脊髄小脳失調症 I 型遺伝子治療の医師主導治験	矢部 一郎	脳神経内科	65,493,820	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
T細胞性リンパ腫増殖・生存必須遺伝子に対する新規阻害剤の探索	中川 雅夫	血液内科	5,480,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳田血慢性期患者に対する自家骨髄間葉系幹細胞とスキャフォールドからなる再生医療製品を用いた研究開発 (RAINBOW-HX)	藤村 幹	脳神経外科	35,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
変異型新型コロナウイルスに対する診断・予防・治療法研究プラットフォームの開発	豊嶋 崇徳	血液内科	118,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
基盤研究(A)高機能ゲルによるがん幹細胞リプログラミングと治療薬開発基盤の創出	田中 伸哉	病理診断科	7,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)自己免疫惹起性T細胞の分子病理学的解析と診断・治療への展開	外丸 詩野	病理診断科	2,600,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)(繰越)GABA持続抑制不全の多様性がもたらすアンジェルマン症候群の病態解明と治療法開発	江川 潔	小児科	1,500,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)陽子線CT搭載型ヘリウム・陽子線混合治療装置と免疫賦活照射法の研究開発	白土 博樹	放射線治療科	2,400,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)(繰越)陽子線CT搭載型ヘリウム・陽子線混合治療装置と免疫賦活照射法の研究開発	白土 博樹	放射線治療科	700,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)肝硬変の組織学的進展・軽快を担う間質微小環境因子の包括的解析	坂本 直哉	消化器内科	3,900,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)DGK α / ζ を標的とした消化器がんに対する次世代免疫療法の開発研究	武富 紹信	消化器外科 I	4,200,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)(繰越)DGK α / ζ を標的とした消化器がんに対する次世代免疫療法の開発研究	武富 紹信	消化器外科 I	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)内臓脂肪の潜在能力:循環と免疫賦活におけるhyper 2-way player	山本 有平	形成外科	4,500,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)移植組織制御による新規脊髄再生方法の開発	角家 健	整形外科	4,600,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)(繰越)移植組織制御による新規脊髄再生方法の開発	角家 健	整形外科	2,500,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)Bassoon proteinopathyの病態解析研究	矢部 一郎	脳神経内科	4,300,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)左室駆出率が保持された心不全に対する個別化医療を目指した多分野融合研究	安斉 俊久	循環器内科	6,200,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)抗リン脂質抗体による中枢神経障害メカニズムの解明	渥美 達也	リウマチ・腎臓内科	3,600,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)Glycer-AGEによる網膜神経病態の機序解明と糖尿病網膜症に対する創薬	石田 晋	眼科	3,400,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)(繰越)Glycer-AGEによる網膜神経病態の機序解明と糖尿病網膜症に対する創薬	石田 晋	眼科	2,568,189	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)モーションキャプチャを用いた熟練の腹腔鏡手術手技の言語化・見える化と手術教育支援	安部 崇重	泌尿器科	5,600,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
基盤研究(B)T細胞性腫瘍におけるIRF4転写因子発現の統合的解析とCAR-T細胞療法への応用	中川 雅夫	血液内科	6,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)CCL11による大脳の老化促進仮説に着目した統合失調症の認知機能障害の病態解明	久住 一郎	精神科神経科	5,000,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)MRIと同位体顕微鏡を用いたマルチスケールの水分子イメージング	工藤 興亮	放射線診断科	4,700,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)加齢に着目した皮膚の免疫自己寛容破綻機序の解明	氏家 英之	皮膚科	4,300,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)造血幹細胞移植後の免疫寛容と組織寛容の機序の解明とその制御法の開発研究	豊嶋 崇徳	血液内科	3,600,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)破骨細胞に発現する免疫チェックポイント分子シグレック-15の機能と治療応用	高畑 雅彦	整形外科	4,400,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)加齢黄斑変性におけるセリン/スレオニンキナーゼLRRK2の病態意義解明	野田 航介	眼科	3,600,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(B)自家骨髄濃縮液による低侵襲椎間板組織再生誘導法の開発と組織再生メカニズムの解明	須藤 英毅	整形外科	4,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)青年期の抑うつ症状と社交不安症状に関する包括的、縦断的検討	朝倉 聡	精神科神経科	200,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)死後CT・MRIを用いた薬毒物検査の有用性に関する研究	兵頭 秀樹	放射線診断科	700,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)グルココキナーゼの制御による膵β細胞量調節メカニズムの解明	中村 昭伸	糖尿病・内分泌内科	700,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)低悪性度神経膠腫に対する蛍光診断:ポルフィリン代謝分子に対する機能解析	山口 秀	脳神経外科	800,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)後縦靭帯骨化症における肥満/耐糖能異常に関連する遺伝素因と環境因子の探索	遠藤 努	整形外科	700,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)新規免疫チェックポイント分子B7H3経路による子宮体癌転移能獲得の分子基盤解明	井平 圭	婦人科	1,000,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)コンピュータ分子設計PAI-1阻害薬を用いたぶどう膜炎モデル軽症化の検討	岩田 大樹	眼科	1,000,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)タイト結合のジスルフィド結合を介した機能調節:酸化還元シグナルの入り口として	田中 敏	病理診断科	1,000,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)目標生成の障害を含む陰性症状と社会認知機能が統合失調症患者の社会機能に及ぼす影響	橋本 直樹	精神科神経科	900,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)半導体PETと深層学習を利用したFDG PETからの腫瘍血流・代謝の同時定量	平田 健司	核医学診療科	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)遺伝性葉酸吸収不全症の早期の診断と治療開始による予後の改善を目的とした研究	山田 雅文	小児科	900,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)B型肝炎ウイルス宿主制限因子を標的とした新規抗ウイルス治療の開発	森川 賢一	消化器内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)喘息-COPDオーバーラップ病態におけるIL-33/ST2シグナルの役割の解明	鈴木 雅	呼吸器内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)易傷害性心臓グラフトの体外灌流修復法と非侵襲的グラフト機能評価法の開発	深井 原	消化器外科 I	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)頭部外傷特異的な免疫応答と二次性感染症におけるインフラマソーム制御機構の解明	和田 剛志	救急科	800,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)頭部外傷特異的な免疫応答と二次性感染症におけるインフラマソーム制御機構の解明	和田 剛志	救急科	600,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)シロスタゾールを用いたもやもや病における内因性幹細胞賦活と血管新生促進療法の開発	藤村 幹	脳神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)脳出血慢性期モデルに対する幹細胞と Scaffold合剤の有効性評価	川堀 真人	脳神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)好酸球性副鼻腔炎新規治療開発のためのSIRT1活性化剤の基礎的研究	中丸 裕爾	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)全身主要血管壁内における歯周病原性菌の存在分布-脳血管障害による死亡例をもとに	竹内 明子	歯科放射線科	900,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)環境因子と高血圧の関連に及ぼす遺伝因子の影響に関する検討	平田 匠	糖尿病・内分泌内科	800,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)Effects of fish consumption on clinical response to targeted therapies in Japanese and Spanish patients with rheumatoid arthritis	Amengual Olga(アメンゲアル オルガ)	リウマチ・腎臓内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)手術トレーニングおよびナビゲーションへ向けた術中意思決定情報分析	倉島 庸	消化器外科 II	300,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)切除検体を基にした網羅的糖鎖解析による肝細胞癌悪性度解析と新規バイオマーカー開発	神山 俊哉	消化器外科 I	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)アドリアマイシン心筋症における免疫老化の果たす役割の解明と早期検出法の開発	石森 直樹	循環器内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)肝臓オルガノイドを用いたGVHDにおけるマクロファージによる組織幹細胞障害の検討	橋本 大吾	血液内科	1,200,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
基盤研究(C)膵島移植における免疫寛容誘導を目的とした細胞治療法の開発	渡辺 正明	消化器外科 I	1,500,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)CA19-9を標的とした共有結合DNAアプタマーによる膵癌新規治療法の開発	中村 透	消化器外科 II	1,200,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)統合的ストレス応答が敗血症関連脳障害に果たす役割の解明	森本 裕二	麻酔科	1,700,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)ハイドロゲルを用いたがん幹細胞形質の誘導と新規治療標的の探索	渡利 英道	婦人科	1,200,000	補委 日本学術振興会
基盤研究(C)医療機器開発における献体使用の基盤構築	七戸 俊明	消化器外科 II	1,000,000	補委 日本学術振興会
挑戦的研究(萌芽)加齢による慢性炎症に関連する炎症惹起細胞の解析と炎症制御標的候補分子の探索	外丸 詩野	病理診断科	2,500,000	補委 日本学術振興会
挑戦的研究(萌芽)画期的マウスモデルを用いた皮膚免疫寛容の破綻機序の解明	氏家 英之	皮膚科	2,000,000	補委 日本学術振興会
挑戦的研究(萌芽)肝組織間質蛋白の糖鎖修飾構造を標的とした肝線維化に対する糖鎖創薬の基盤形成	坂本 直哉	消化器内科	2,500,000	補委 日本学術振興会
挑戦的研究(萌芽)R-Spondinによる肝幹細胞を標的とした造血幹細胞移植後肝傷害の治療開発	豊嶋 崇徳	血液内科	1,500,000	補委 日本学術振興会
挑戦的研究(萌芽)消化器がんの抗がん剤耐性克服を目指したDGK α エピゲノム制御機構の解明	武富 紹信	消化器外科 I	3,000,000	補委 日本学術振興会
挑戦的研究(萌芽)VIPR2による中心性漿液性脈絡網膜症における分子病態の解明	石田 晋	眼科	2,400,000	補委 日本学術振興会
挑戦的研究(萌芽)電荷による細胞応答制御法の創出ーチャージハイドロゲルでウイルス感染症・がんを治す	田中 伸哉	病理診断科	2,500,000	補委 日本学術振興会
若手研究好酸球形副鼻腔炎におけるSIRT1によるサイトカイン発現制御機序の解明	鈴木 正宣	耳鼻咽喉科	800,000	補委 日本学術振興会
若手研究がん患者末梢血浮遊DNAの全身性炎症反応への役割の解明	野口 卓郎	腫瘍内科	800,000	補委 日本学術振興会
若手研究過小肝移植の肝再生を賦活する体外灌流治療の開発とメカニズム探索	川村 典生	消化器外科 I	600,000	補委 日本学術振興会
若手研究小脳性運動失調症における自己抗体解析研究	矢口 裕章	脳神経内科	800,000	補委 日本学術振興会
若手研究双極性障害寛解期における認知機能障害に関する研究	豊島 邦義	精神科神経科	800,000	補委 日本学術振興会
若手研究双極性障害寛解期における認知機能障害に関する研究	豊島 邦義	精神科神経科	800,000	補委 日本学術振興会
若手研究新規生体吸収性シートを用いた内視鏡的絆創膏の開発	大野 正芳	消化器内科	900,000	補委 日本学術振興会
若手研究水疱性類天疱瘡においてDPP-4阻害薬が免疫寛容の破綻に及ぼす影響についての研究	泉 健太郎	皮膚科	1,600,000	補委 日本学術振興会
若手研究慢性移植片対宿主病と肝類洞閉塞症候群に対する線維化特異的バイオマーカーの開発	大東 寛幸	血液内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
若手研究レバー病理による末梢神経障害の機序の解明	種井 善一	病理診断科	1,200,000	補委 日本学術振興会
若手研究画像上同定困難な表在性腫瘍を人工知能で自動描出する技術の開発	西岡 健太郎	放射線治療科	1,100,000	補委 日本学術振興会
若手研究不全心におけるSGLT阻害薬の致死性不整脈抑制効果の検討	鎌田 壘	循環器内科	1,500,000	補委 日本学術振興会
若手研究不全心におけるSGLT阻害薬の致死性不整脈抑制効果の検討	鎌田 壘	循環器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
若手研究メラノーマ免疫療法の賦活化 - 抗PD-1抗体と腫瘍溶解性ウイルスの併用療法	前田 拓	形成外科	2,000,000	補委 日本学術振興会
若手研究膝周囲骨切り術の最適化を目指した大規模バイオメカニクスデータベースの構築	岩崎 浩司	整形外科	1,700,000	補委 日本学術振興会
研究活動スタート支援深層学習による血管造影用カテーテルライゼーション難易度と最適なカテーテル形状の解明	森田 亮	放射線診断科	1,100,000	補委 日本学術振興会
研究活動スタート支援女性アスリート障害の病態解明とバイオマーカーの探索的研究	清水 幸衣	放射線診断科	1,100,000	補委 日本学術振興会
眼科用デバイスの実用化検証に関する研究	石田 晋	眼科	1,000,000	補委 株式会社シート
Z室糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬からSGLT2阻害薬ルセオグリフロジンへの切り替えによる血圧・脈拍への影響に関する検討	三好 秀明	糖尿病・内分泌内科	976,453	補委 大正製薬株式会社
ゲノタイプ2型C型肝炎合併透析患者におけるglecaprevir/pibrentasvirの効果・安全性の検討	坂本 直哉	消化器内科	700,000	補委 アツヴィ合同会社
先進イメージングアプリケーションの研究	工藤 興亮	放射線診断科	7,692,307	補委 富士フイルムヘルスケア株式会社
骨修復能が低下した高齢者に対するヒト歯髄由来幹細胞を用いた骨折治癒促進治療法の開発	高畑 雅彦	整形外科	2,089,600	補委 株式会社ジーンシテクノサイエンス

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腰椎椎間板ヘルニア手術の臨床成績及びMRIによる椎間板変性評価に関する研究、及び腰椎椎間板ヘルニア患者におけるdMD-001の安全性及び性能についての探索的臨床試験	須藤 英毅	整形外科	24,969,209	補委 持田製薬株式会社
非アルコール性脂肪肝炎(NASH)由来肝線維化マーカーの開発	坂本 直哉	消化器内科	1,000,000	補委 住友ベークライト株式会社
混合性腰部脊柱管狭窄症に対する細胞治療法の開発	須藤 英毅	整形外科	2,640,000	補委 持田製薬株式会社
腰椎椎間板ヘルニア患者におけるdMD-001の安全性及び性能についての探索的臨床試験	須藤 英毅	整形外科	6,536,544	補委 持田製薬株式会社
ミトコンドリア・ナノメディスンによる免疫細胞機能修飾法の開発	豊嶋 崇徳	血液内科	2,307,692	補委 ルカ・サイエンス株式会社
次世代型高精度粒子線治療システムの研究(3)	白土 博樹	放射線治療科	4,230,769	補委 株式会社日立製作所研究開発グループテクノ
もやもや病モデル動物に対する羊膜間葉系幹細胞の有効性評価	藤村 幹	脳神経外科	1,263,900	補委 株式会社カネカ
合成装置を用いた[68Ga]Ga-PSMA-11注射薬の治験プロトコルの確立	工藤 興亮	放射線診断科	3,120,000	補委 AMS企画株式会社
Cardiac Sarcoidosis Multi-Center Randomized Controlled Trial(CHASM- CS RCT)	永井 利幸	循環器内科	15,111,426	補委 Ottawa Heart Institute Research
腰部脊柱管狭窄症に対するREC/dMD-001の安全性と有効性に係る探索的医師主導治験にかかる研究開発	須藤 英毅	整形外科	4,700,000	補委 持田製薬株式会社
大腸癌患者のQOLが就労活動や日常諸活動に及ぼす影響に関する前向き観察研究	武富 紹信	消化器外科 I	6,600,000	補委 株式会社ツムラ
膝関節機能再建分野	岩崎 浩司	整形外科	25,442,185	補委 オリンパス株式会社 モバイオマテリアル株式会社
バイオマテリアル機能再生分野	岩崎 倫政	整形外科	7,171,375	補委 持田製薬株式会社
消化器疾患に対する漢方薬の改善機序の解明	武富 紹信	消化器外科 I	7,000,000	補委 株式会社ツムラ ツムラ先端技術研究所
トホロンカルアータ解析を活用したコンピュータ断層撮影(CT)によるCOVID-19肺炎の人工知能(AI)診断支援	工藤 興亮	放射線診断科	2,500,000	補委 NECフューションイノベーション株式会社
認知症診断支援技術の開発	工藤 興亮	放射線診断科	1,153,800	補委 株式会社 Splink
Trail Making Test、Stroop Test、California Verbal Learning Test 日本語版の標準化に関する臨床研究	久住 一郎	精神科神経科	1,537,936	補委 大日本住友製薬株式会社
日本の高リスク転移性ホルモン療法感受性前立腺癌患者の臨床転帰を観察するレジストリ試験	松本 隆児	泌尿器科	169,230	補委 キャンセンプォーマ株式会社
リアルワールドにおける転移性去勢抵抗性前立腺癌(mCRPC)患者の相対組換え修復(HRR)関連遺伝子変異保有率及び予後に関する観察研究(ZENSHIN study)	松本 隆児	泌尿器科	469,615	補委 株式会社リニカル
CRP遺伝子多型解析による食道癌リンパ節転移リスク診断キットの開発(B-37)	平野 聡	消化器外科 II	152,307	補委 国立大学法人秋田大学
子宮頸癌患者におけるペバシズマブ使用後の瘻孔形成に関する臨床研究	渡利 英道	婦人科	84,615	補委 イービーエス株式会社
Separation of graft-versus-leukemia effect from graft-versus-host disease using KRP203 in combination with cyclosporine A	豊嶋 崇徳	血液内科	2,523	補委 Priothera SAS
肺高血圧症患者レジストリ Japan Pulmonary Hypertension Registry: JAPHR	辻野 一三	呼吸器内科	488,442	補委 特定非営利活動法人Japan PH Registry
CRISPR knockout library screening for identification of genes involved in BCL2/BCL-XL/MCL1 inhibitor sensitization and resistance in human peripheral T-	中川 雅夫	血液内科	2,307,693	補委 アツヴィ合同会社
深層学習を用いた体軸性脊椎関節炎の探索的画像評価研究	渥美 達也	リウマチ・腎臓内科	69,230	補委 国立大学法人大阪大学 大学院医学系研究
左室補助人工心臓装着患者における心室性不整脈発生の危険因子と予後転帰	安斉 俊久	循環器内科	990,000	補委 日本メトロニック株式会社
放射線治療の予後予測関連データに関する国際標準化	白土 博樹	放射線治療科	3,944,000	補委 株式会社三菱総合研究所
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	250,000	補委 国立研究開発法人 国立がん研究セン
KRP203 as prophylaxis and treatment of chronic GVHD	豊嶋 崇徳	血液内科	2,499,946	補委 Priothera SAS
ソフトウェア機能評価	工藤 興亮	放射線診断科	500,000	補委 富士フイルムメディカル株式会社 営業本
臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成	七戸 俊明	消化器外科 II	13,030,000	補委 文部科学省
咽壁癌に対する再生医療等製品の美用化に向けた自動細胞培養による新規製法の確立及び周辺技術の開発	川堀 真人	脳神経外科	15,475,860	補委 日本医療研究開発機構
橋渡し研究_A157_DPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡自己抗体の診断のための新規ELISAキットの確立	泉 健太郎	皮膚科	1,800,000	補委 日本医療研究開発機構
消化管穿孔に対する内視鏡下での予防・治療のための生体吸収性シートの開発	大野 正芳	消化器内科	1,800,000	補委 日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規末梢神経再生方法の開発	角家 健	整形外科	2,500,000	補委 日本医療研究開発機構
改変転写因子導入による新規CAR-T細胞の開発	中川 雅夫	血液内科	1,355,000	補委 日本医療研究開発機構
産科医・小児科医養成支援特別対策事業	渡利 英道	婦人科	961,000	補委 北海道
産科医・小児科医養成支援特別対策事業	真部 淳	小児科	481,000	補委 北海道
医学生等地域医療体験実習支援事業	高橋 誠	整形外科	3,038,000	補委 北海道
ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業	高橋 誠	整形外科	24,988,000	補委 文部科学省
革新的口腔領域用生体材料を目的としたインテリジェントカーボンナノマテリアルの創製	横山 敦郎	義歯補綴科	4,300,000	補委 (独)日本学術振興会
低酸素分子イメージングに基づく新しい口腔癌治療戦略の構築	北川 善政	口腔内科	3,800,000	補委 (独)日本学術振興会
通いの場における状態別の口腔機能向上・栄養改善プログラムに関する地域介入研究	山崎 裕	高齢者歯科	2,600,000	補委 (独)日本学術振興会
オーラルフレイルに関する高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する研究	渡邊 裕	高齢者歯科	2,800,000	補委 (独)日本学術振興会
手掌腱膜の繊維化における炎症増幅回路活性化分子の解析	松井 雄一郎	整形外科	1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
光殺菌と組織再生効果を併せ持つ新しい歯周病治療用ゲル剤の開発	加藤 昭人	歯周・歯内療法科	1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
幼少期に身体抑制を経験したラットの成長後のストレス反応性亢進を緩和できるか。	吉原 俊博	小児・障害者歯科	1,200,000	補委 (独)日本学術振興会
インプラント周囲炎治療を可能とする光応答性ナノカーボンインプラントの開発	平田 恵理	義歯補綴科	1,200,000	補委 (独)日本学術振興会
早期咬合負荷を目的としたカーボンナノホーンコーティングチタンインプラントの開発	山本 悟	義歯補綴科	1,200,000	補委 (独)日本学術振興会
ストレス・自律神経活動が口腔癌の発癌・増殖に与える影響の解明	佐藤 淳	口腔内科	1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
複雑な乳歯根管系の制御ー歯根外部吸収への修復機構の誘導と歯根安定の獲得ー	八若 保孝	小児・障害者歯科	1,100,000	補委 (独)日本学術振興会
高周波電流によるファイル未到達根管における歯髄の蒸散と根管の殺菌	菅谷 勉	歯周・歯内療法科	1,100,000	補委 (独)日本学術振興会
ジルコニアクラウンへのAM導入による歯科CAD/CAM革命-条件最適化への挑戦-	上田 康夫	冠橋義歯補綴科	1,200,000	補委 (独)日本学術振興会
マルチサンプル長期観察による睡眠時ブラキシズムの経時変動実態とその関連要因の解明	山口 泰彦	冠橋義歯補綴科	1,700,000	補委 (独)日本学術振興会
ポドプラニン依存性メカトランスダクションによる歯槽骨の常態制御機構の研究	金井 壮律	矯正歯科	1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
自閉スペクトラム症関連分子と体性感覚系神経回路発達に関する組織学的解析	高崎 千尋	小児・障害者歯科	1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
エナメル質を保全できる矯正歯科治療ー量子力学・錯体化学・プラズマ物理学的展開ー	山方 秀一	矯正歯科	600,000	補委 (独)日本学術振興会
歯髄の治療促進と硬組織接着性を併せ持つ革新的直接覆髄材の探索研究	佐野 英彦	歯冠修復科	700,000	補委 (独)日本学術振興会
バイオメカニクス的手法による姿勢制御、顎口腔と身体の機能の関連性と因果関係の解明	坂口 究	義歯補綴科	500,000	補委 (独)日本学術振興会
口腔がんの転移に関わる口腔常在菌の解析	大廣 洋一	口腔外科	700,000	補委 (独)日本学術振興会
緑茶カテキンを利用した新規生活歯髄切断材料は作れるかー歯髄作用機構の解析からー	中村 光一	小児・障害者歯科	700,000	補委 (独)日本学術振興会
“はがせる”新規歯科矯正用接着材の開発	中西 康	矯正歯科	900,000	補委 (独)日本学術振興会
ブラキシズム(歯ぎしり)と各種顎口腔領域臨床症状の関連性の解明	山口 泰彦	冠橋義歯補綴科	350,000	補委 (株)ジーシー
温度応答性ポリマーを用いた歯科用解体性接着材の開発	中西 康	矯正歯科	400,000	補委 (公財)北海道科学技術総合振興センター
布少かんに対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究(MASTER KEY Project)	秋田弘俊	腫瘍内科	7,307,692	補委 国立研究開発法人国立がん研究センター
札幌市児童精神科医療提供体制構築・運用に関する共同研究事業	齊藤卓弥	児童思春期精神医学研究部門	2,300,000	補委 札幌市
遺伝性間質性肺疾患等の遺伝子検査に関する報告書作成支援	長和俊	周産母子センター	218,999	補委 公益財団法人かずさDNA研究所
T細胞細胞内代謝に注目した全身性エリテマトーデスの病態解明	河野通仁	リウマチ・腎臓内科	14,030,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づくBRCA変異を有する胆道がんに対する医師主導治験	川本泰之	腫瘍センター	77,800,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AMED橋渡し:新規医療技術の持続的創出を実現するオープンアクセス型拠点形成	佐藤典宏	臨床研究開発センター	82,600,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療技術:安全性確保に立脚した新規医療技術開発推進に関する研究	佐藤典宏	臨床研究開発センター	238,948,734	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床研究総合促進事業:臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム	佐藤典宏	臨床研究開発センター	10,170,000	補委 厚生労働省
臨床研究総合促進事業:先進医療等実用化促進プログラム	佐藤典宏	臨床研究開発センター	8,860,000	補委 厚生労働省
高分解能PET装置を用いた冠動脈プラーク炎症病変の可視化と心筋梗塞発症の機序解明	納谷 昌直	循環器内科	3,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
もやもや病のエピゲノム血液バイオマーカー探索ー血漿microRNAの包括的検証ー	伊東 雅基	脳神経外科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
易傷害性肝グラフトの至適体外灌流法と非侵襲的グラフト機能評価法の開発	嶋村 剛	臓器移植医療部(消化器外科I)	4,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腫瘍特異的血管新生阻害剤とドラッグリポジショニングによる新規肺癌治療の開発	樋田 泰浩	地域医療連携福祉センター(循環器・呼吸器外科)	5,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
スタチン類のhMCTsを介した抗悪性腫瘍効果メカニズムの網羅的評価	山口 敦史	薬剤部	470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
断層心エコー法による新たなスコアリングシステムを用いた拡張期心不全患者の予後予測	村山 迪史	超音波センター(検査・輸血部)	470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
可動式スリーブプリントの製作を標準化するデジタルシステムの構築	西川 圭吾	生体技工部	460,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤を用いたH. suis感染リンパ腫抑制効果の検討	山本 幸司	先進消化器がん分子標的治療・予防学研究部門(消化器内科)	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規血管作動性物質の動脈硬化促進機序の解明と虚血性心疾患のバイオマーカーへの応用	佐藤 健吾	検査・輸血部	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の認知機能障害に対する新規の聴覚・視覚訓練の開発と改善効果の検討	豊巻 敦人	精神科神経科	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
IMPTを用いた「辛い」頭頸部癌放射線治療法の開発	安田 耕一	放射線治療科	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞を用いた放射性口内炎の治療法の開発	結城 敏志	消化器内科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
レポーターアッセイによる新規・大規模抗HBV薬スクリーニング系を用いた薬剤開発	須田 剛生	消化器内科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリア心筋症の新規診断法の確立	武田 充人	小児科	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
自己免疫疾患における補体の新たな働きの解明	岩田 浩明	皮膚科	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
単球で合成されるプロトンピンが関与する抗リン脂質抗体産生機序の解明	藤枝 雄一郎	リウマチ・腎臓内科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒトマウスによる難治性胆汁うっ滞性疾患と移植後HLA抗体の病態解明と治療法開発	後藤 了一	消化器外科I	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
増殖型レトロウイルスベクターを用いた胆道癌に対する新規遺伝子治療の開発	岡村 圭祐	消化器外科II	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
低悪性度神経膠腫に対する蛍光診断:ポルフィリン代謝分子に対する機能解析	山口 秀	脳神経外科	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
後縦靭帯骨化症における肥満/耐糖能異常に関連する遺伝素因と環境因子の探索	遠藤 努	整形外科	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
手掌腱膜の繊維化における炎症増幅回路活性化分子の解析	松井 雄一郎	整形外科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規免疫チェックポイント分子B7H3経路による子宮体癌転移能獲得の分子基盤解明	井平 圭	婦人科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
卵巣がんの血管新生阻害薬耐性の発生を予防するためのCCR2阻害薬併用療法の開発	三田村 卓	婦人科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ぶどう膜炎における上皮増殖因子受容体依存性局所炎症増幅回路の検討	南場 研一	眼科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
根面う蝕の撲滅を目指して!バイオメディック法を用いたセメント質強化法の確立	田中 佐織	口腔総合治療部(歯周・歯内療法科)	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
睡眠時ブラキシズムに影響する測定環境要因の解明ー真のブラキシズム発現数を求めて	三上 紗季	高次口腔医療センター(顎関節)(冠橋義歯補綴科)	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
一軸配向化高靱性合成コラーゲン繊維束の生体内再構築に関する適応制御機序の解明	近藤 英司	スポーツ医学診療センター(整形外科)	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エピジェネティクス機構によるDNA修復機構制御を標的とした新たな癌治療法の開発	菊地 英毅	呼吸器内科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
SWI/SNF異常を有する固形がんに対するEZH2阻害療法最適化	木下 一郎	がん遺伝子診断部(腫瘍内科)	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マイクログリア、免疫・炎症因子異常からみた統合失調症の精神刺激薬モデル研究	伊藤 侯輝	精神科神経科	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎、新規診断マーカー・治療標的としての糖鎖修飾解析	小川 浩司	消化器内科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒト羊膜MSCが持つ新規抗炎症物質の同定ならびに治療効果の検討	山本 桂子	光学医療診療部(消化器内科)	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
シクロフィリンDをターゲットとしたANCA関連血管炎の新規治療開発	中沢 大悟	血液浄化部(リウマチ・腎臓内科)	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
多発性嚢胞腎進展に対するアミノ酸の関与と治療法の解明	西尾 妙織	リウマチ・腎臓内科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
難治性白血病発症機序の解明	小野澤 真弘	臨床研修センター(血液内科)	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
オートファジー受容体オプチニューリンを標的とした新しい関節破壊制御法の開発	加藤 将	リウマチ・腎臓内科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
補体異常を介する自己免疫性自閉症モデルマウスの作成	奥 健志	内科Ⅱ	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
癌幹細胞におけるエネルギー代謝の制御と化学・放射線療法感受性に関する基礎的研究	蒲池 浩文	消化器外科Ⅰ	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胆道悪性腫瘍に対するアミノレブリン酸の有用性実証のための探索的研究	田中 公貴	消化器外科Ⅱ	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ゲノム・遺伝子変異プロファイル解析を用いた膵癌における新規治療戦略の構築	浅野 賢道	消化器外科Ⅱ	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷急性期に対する間葉系幹細胞静脈投与に対する脊髄腸相関に関する研究	関 俊隆	脳神経外科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脳出血慢性期モデルに対する幹細胞とScaffold合剤の有効性評価	川堀 真人	神経細胞治療研究部門(脳神経外科)	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
抗炎症性マクロファージ由来因子と骨関連細胞に着目した新規骨粗鬆症メカニズムの解明	高橋 大介	整形外科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ANCA関連血管炎性中耳炎における好中球細胞外トラップの役割と臨床応用	森田 真也	耳鼻咽喉科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
低酸素応答システム活性化薬剤を用いた下肢慢性創傷の新治療	大澤 昌之	形成外科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
“舌の老い”とは？エピジェネティクスの視点からオーラルフレイルに迫る	浮田 万由美	冠橋義歯補綴科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
力学・機能評価による最適化アタッチメントに基づくインプラント支持部分床義歯の構築	野川 敏史	予防歯科	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
遺伝子情報に基づいたインプラント周囲炎の画期的治療法の開発	堀内 留美	義歯補綴科	500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
振動解析を用いた関節頭の機能的な位置付けへの挑戦-顎変形症、骨折、再建において-	松下 和裕	高次口腔医療センター(顎口腔)(口腔外科)	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
唾液中の炎症サイトカイン測定による新しいインプラント予後評価法の開発	石川 誠	高次口腔医療センター(インプラント)(口腔内科)	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
がん幹細胞血管ニッチを標的とした口腔がん治療への応用	佐藤 千晴	口腔内科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
オキサゾリジノン系抗MRSA薬の唾液中濃度による治療モニタリングと投与量最適化	武隈 洋	薬剤部	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マウス肺癌モデルを用いたCD73を標的とした赤外光線免疫療法の確立	畑中 豊	ゲノム・コンパニオン診断研究部門(病理部)	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ハイパースキャニングを用いたコミュニケーション障害機序の解明	柳生 一自	児童思春期精神医学研究部門	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌の個別化医療に向けた腫瘍特性の非侵襲的画像化と人工知能解析の融合	藤間 憲幸	放射線診断科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
4D Flow-MRIによる門脈塞栓術後の残肝肥大予測法確立と先制IVRの開発	阿保 大介	放射線部(放射線診断科)	2,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
乳癌の再発転移予測に向けたMRIと半導体PETのバイオマーカーによる微小環境評価	加藤 扶美	放射線診断科	1,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
光免疫療法のためのナビゲーションシステムの開発	曾山 武士	放射線部(放射線診断科)	2,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒストン脱メチル化酵素阻害剤による膵管癌に対する新たな腫瘍免疫療法の開発	川久保 和道	消化器内科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
羊膜MSC由来HSPB6陽性エクソソームを用いた炎症性腸疾患への治療効果の検討	桂田 武彦	光学医療診療部(消化器内科)	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肝癌幹細胞の維持・免疫寛容機構の解明と治療最適化の検討	荘 拓也	消化器内科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
末梢血単核球ミトコンドリア機能を筋ジストロフィーの重症度評価・治療に応用する。	山澤 弘州	小児科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
PHRを活用した機械学習モデルによる心血管病の重症化予防を目指した研究	横田 卓	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
AIを用いた肺癌病変の腫瘍含有割合をリアルタイムに予測するEBUSシステムの開発	品川 尚文	呼吸器先端医療機器開発研究部門(呼吸器内科)	2,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小細胞肺癌におけるProx1によるNotch pathwayの制御機構、治療開発	榊原 純	呼吸器内科	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小児・AYA世代におけるMDSの発生病機と治療戦略の解明	平林 真介	小児科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
DGK α 制御による革新的大腸がん集学的治療法の開発	高橋 典彦	手術部(消化器外科I)	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胃癌に対する新規腹腔鏡用蛍光スペクトル測定システムを用いた術中転移診断法の確立	海老原 裕磨	低侵襲外科診断治療学研究部門(消化器外科II)	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肺がん糖鎖抗原を用いた光免疫とiRGDナノ粒子によるsiRNA送達システムの開発	加藤 達哉	循環器・呼吸器外科	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
CyTOFを用いた集中治療後症候群の病態解明と予防法開発に向けた基盤研究	前川 邦彦	救急科	1,700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
外傷急性期の凝固活性因子の由来と凝固活性性能の違い、その放出のタイミング	早川 峰司	救急科	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心停止蘇生後の線溶因子が中枢神経系に与える影響の解明とその制御	太安 孝允	救急科	1,700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
多次元先端映像解析を駆使した顕微鏡手術「複雑性」の解明	杉山 拓	脳神経外科	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎移植における慢性抗体関連型拒絶反応の早期診断法の開発とメカニズム解析	堀田 記世彦	泌尿器科	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
カルシニューリン阻害薬の慢性腎毒性へ対するステロイドの有用性と新規マーカーの開発	田邊 起	血液浄化部(泌尿器科)	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病網膜症病態におけるミューラー細胞の α B-クリスタリンの発現	加瀬 諭	眼科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
CPCを用いたSARS-CoV-2をはじめとするウイルスを対象とした臨床研究	川本 千春	歯冠修復科	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
近赤外光線免疫療法における3次元データ応用による治療補助システムの開発	足利 雄一	口腔外科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨内における上皮間葉転換のメカニズムの解明	田中 宗一	口腔外科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
障害児・者の歯科治療時におけるストレスモニターとしての自律神経活動の測定	大島 昇平	小児・障害者歯科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ICTを活用した医療者-患者双方に対するストレスフリーな歯科治療の実現	竹生 寛恵	歯周・歯内療法科	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
最新のデジタル半導体PET装置に対応した心臓動態ファントムの開発と撮像技術の確立	孫田 恵一	放射線部	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
3Dシミュレーションシステムによる高難度吻合技術教育および評価ツールの開発	松井 あや	消化器外科II	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
シクロオキシゲナーゼ2選択的阻害薬がシスプラチン起因性腎障害に与える影響の検討	齋藤 佳敬	薬剤部	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Advanced dynamic statistical parametric mapping to identify minimum epileptogenic lesion for seizure freedom	中島 翠	小児科	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肺動脈性肺高血圧症の新規治療法の開発	永井 礼子	小児科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
移植片対宿主病による肝幹細胞傷害の有無と肝組織再生に与える影響についての検討	高橋 秀一郎	検査・輸血部	0	補委 独立行政法人日本学術振興会
吸入麻酔薬の血中および脳内濃度の簡便な測定法の開発と臨床への応用	長谷 由理	歯科麻酔科	500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肥満モデルマウスにおける術後認知機能障害の検討-機序およびその予防-	内田 洋介	麻酔科	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎癌転移における腫瘍血管内皮細胞-がん細胞クラスターの役割解明	菊地 央	泌尿器科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
母体環境化学物質曝露が児の性分化に与える影響と遺伝子多型による修飾	今 雅史	泌尿器科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
妊娠・出産に伴う血中ケトン体の役割:胎児の成長と産後うつ病の回避	馬詰 武	産科	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
IL-12による好酸球性副鼻腔炎の病態制御機構の解明	中菌 彬	耳鼻咽喉科	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
遺伝子解析による鼻副鼻腔悪性黒色腫新規治療標的分子の同定	対馬 那由多	耳鼻咽喉科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
バイオインフォマティクスアプローチによる後天性中耳真珠腫シグナル伝達機構の解析	福田 篤	耳鼻咽喉科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔内で長期間の薬剤徐放を実現する新規な薬剤キャリアガラスファイバーの開発	成徳 英理	歯冠修復科	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腫瘍血管の異常性獲得に乳酸アシドーシスが及ぼす影響の検討	北條 敬之	歯科麻酔科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高難度新規手術に対するハイブリッドシミュレーション修練モデルの実証研究	渡邊 祐介	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構(消化器外科II)	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小細胞肺癌におけるDLL3の機能及び遺伝子異常の検討	古田 恵	呼吸器内科	2,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
拡散強度画像による、躁うつ病と大うつ病患者の脳白質構造差異について	成田 尚	精神科神経科	500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
免疫治療における効果予測・評価のための低酸素イメージングバイオマーカーの確立	渡邊 史郎	核医学診療科	1,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小児特発性ネフローゼ症候群治療における耐糖能異常の病態解明	高橋 俊行	臨床研究開発センター(小児科)	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
BET阻害によるDNA損傷修復阻害効果を用いた新たな肺癌治療の開発	高島 雄太	呼吸器内科	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
重症喘息におけるエンドタイプと増悪の関連性についての検討	木村 孔一	呼吸器内科	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
慢性移植片対宿主病と肝類洞閉塞症候群に対する線維化特異的バイオマーカーの開発	大東 寛幸	血液内科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ニューロメジンB受容体拮抗薬はクッシング病の新規治療薬となるか	亀田 啓	糖尿病・内分泌内科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
膵β細胞における細胞内代謝変化に着目した糖尿病病態の解明	野本 博司	糖尿病・内分泌内科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
直腸癌術前化学放射線療法前後の免疫担当細胞のプロファイリングに関する基礎的研究	吉田 雅	消化器外科 I	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
敗血症における細胞外DNA分解に対する血漿中DNaseの役割と補充効果の検証	吉田 知由	集中治療部(救急科)	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
革新的ソフトバイオマテリアルによる椎間板性疼痛の制御	山田 勝久	整形外科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
特発性大腿骨頭壊死症の発生・圧潰と自然免疫異常の関連	清水 智弘	整形外科	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
末梢神経再生に至適な線維芽細胞の同定	遠藤 健	整形外科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
成長板軟骨損傷後の修復過程におけるケモカインCCR7/CCL21の果たす役割	松岡 正剛	整形外科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
SIRT1を介した時計遺伝子によるアレルギー性鼻炎病態制御の解明	本間 あや	耳鼻咽喉科	500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
機能的MRIを用いた痛覚過敏型ドライアイの新しい分類と診断法の確立	田川 義晃	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構(眼科)	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞を用いた糖尿病足病変の感染制御	北條 正洋	形成外科	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Breakthrough in Oncoplastic Skin Surgery	石川 耕資	形成外科	1,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
う蝕象牙質に対する修復治療の予後向上を目指した多面的基礎研究	松本 真理子	歯冠修復科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小児の口腔と腸内の細菌叢は自閉スペクトラム症に関連しているか	豊田 有希	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構(小児・障害者歯科)	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
在宅療養する医療的ケア児の口腔に存在するリスク評価と新たな口腔管理システムの開発	高井 理人	小児・障害者歯科	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
内在性線維芽細胞・基質複合体被覆下における液性因子処理移植腱再構築促進の機序解明	後藤 佳子	スポーツ医学診療センター(整形外科)	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脳内のエネルギー利用パターンの変化に着目した摂食障害の新規治療法の探索	石川 修平	精神科神経科	1,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心不全患者における非侵襲的陽圧換気を併用した運動療法の有効性の検討	神谷 究	循環器内科	2,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
皮膚有棘細胞癌におけるFAM83Hの機能解析	北村 真也	皮膚科	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肝臓GVHDにおける腸内細菌叢と肝臓免疫担当細胞とのクロストークの解明	荒 隆英	血液内科	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ミクログリアに注目した精神神経ループスの病態解明	河野 通仁	リウマチ・腎臓内科	2,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胸部悪性疾患に対するCD44-IR700結合体を用いた近赤外光線免疫治療法の確立	氏家 秀樹	循環器・呼吸器外科	1,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
敗血症関連脳障害に対する早期運動療法の可能性ー海馬シナプス応答解析を中心に	千野 晃嗣	麻酔科	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ラット脊髄腫瘍モデルに対する羊水幹細胞シート移植を用いた治療効果の検証	山崎 和義	脳神経外科	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症による脊髄障害の病態解明研究	鈴木 裕貴	整形外科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
神経薬理学的手法を用いた低活動膀胱の病態解明	千葉 博基	泌尿器科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
網膜色素変性における抗網膜抗体の解析と病態修飾の解明	田中 孝幸	眼科	1,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規核酸増幅法を用いた口腔がん特異的な唾液由来miRNAの検出	坂田 健一郎	口腔内科	1,700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
カンジダ性義歯性口内炎予防のための義歯への介入研究	尾崎 公哉	高齢者歯科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
もやもや病の病因探索; iPS細胞由来の血管内皮細胞と血管平滑筋細胞の共培養モデル	東海林 菊太郎	脳神経外科	0	補委 独立行政法人日本学術振興会
肝浸潤リンパ球の網羅的解析を応用したNAFLD肝細胞癌に対する革新的治療法の開発	坂本 謙	消化器外科 I	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
シスプラチン耐性肺癌における免疫プロテアソーム阻害剤治療の開発	庄司 哲明	呼吸器内科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ぶどう膜炎におけるリン脂質酸化物の動態と網膜障害軽症化の試み	長谷 敬太郎	眼科	0	補委 独立行政法人日本学術振興会
カーボンナノホーンをDDSキャリアとするインプラント周囲炎への革新的治療法の開発	前田 由佳利	義歯補綴科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小径腎腫瘍に対する集学的画像情報解析による生物学的特徴の予測	宮崎 将也	泌尿器科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
カーボンナノホーン修飾チタン上における骨形成とリモデリング機構の解明	木村 貞仁	義歯補綴科	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新型コロナウイルスパンデミック下の造血幹細胞移植ドネーションを推進するためのシステム改革のための研究	豊嶋 崇徳	検査・輸血部	7,038,461	補委 厚生労働省
細胞内エネルギー代謝の観点から探る糖尿病膵β細胞の新規生存戦略	野本 博司	糖尿病・内分泌内科	400,000	補委 公益財団法人北海道科学技術総合振興セ
人工知能を用いた乳児股関節脱臼検診の自動解析システム開発	清水 智弘	整形外科	400,000	補委 公益財団法人北海道科学技術総合振興セ
国内唯一:カダバーラボで医療機器開発が可能な拠点	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	18,181,818	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計316件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Abe Y,Suzuki M,Makita H,他	呼吸器内科	One-year clinically important deterioration and long-term clinical course in Japanese patients with COPD:	BMC Pulm Med. 2021 May 12;21(1):159.	Original Article
2	Abe Y,Suzuki M,Shima H,他	呼吸器内科	Annual body weight change and prognosis in chronic obstructive pulmonary disease	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis,2021.11	Original Article
3	Asahina H,Tanaka K,Morita S,他	呼吸器内科	A Phase II Study of Osimertinib Combined With Platinum Plus Pemetrexed in Patients With EGFR-	Clin Lung Cancer. 2021 Mar;22(2):147-151.	Original Article
4	Goudarzi H,Kimura H,Makita H,他	呼吸器内科	Association of abdominal visceral adiposity with sputum IL-5 levels in asthma	Allergol Int. 2022 Jan;71(1):137-139.	Original Article
5	Ito S,Asahina H,Honjo O,他	呼吸器内科	Prognostic factors in patients with advanced non-small cell lung cancer after long-term Anti-PD-1 therapy	Lung Cancer. 2021 Jun;156:12-19.	Original Article
6	Matsumoto-Sasaki M,Simizu K,Suzuki M,他	呼吸器内科	Clinical Characteristics of Patients and Factors Associated with Switching Biologics in Asthma	J Asthma Allergy. 2022 Feb 9;15:187-195.	Original Article
7	Shoji T,Niida Y,Osawa T,他	呼吸器内科	Resolution of multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia with everolimus in a patient with tuberous sclerosis	Respir Med Case Rep. 2021 Oct 6;34:101526.	Original Article
8	Suzuki M,Cole JJ,Konno S,他	呼吸器内科	Large-scale plasma proteomics can reveal distinct endotypes in chronic obstructive pulmonary disease and	Clin Transl Allergy. 2021 Dec;11(10):e12091.	Original Article
9	Takei N,Suzuki M,Tanabe N,他	呼吸器内科	Combined assessment of pulmonary arterial enlargement and coronary calcification predicts the prognosis of	Respir Med. 2021 Aug-Sep;185:106520.	Original Article
10	Yamamoto G,Asahina H,Honjo O,他	呼吸器内科	First-line osimertinib in elderly patients with epidermal growth factor receptor-mutated advanced non-small cell lung	Sci Rep. 2021 Nov 30;11(1):23140.	Original Article
11	Miyoshi H,Baxter M,Kimura T,他	糖尿病・内分泌内科	A real-world, observational study of the initiation, use, and effectiveness of basal-bolus or premixed insulin in	Diabetes Ther. 12:1341-1357, 2021	Original Article
12	Nakamura A,Miyoshi H,Ukawa S,他	糖尿病・内分泌内科	Inverse correlation between serum high-molecular-weight adiponectin and proinsulin level in a Japanese population:	J Diabetes Investig. 12: 63-66, 2021	Original Article
13	Nakamura A,Omori K,Terauchi Y	糖尿病・内分泌内科	Glucokinase activation or inactivation: Which will lead to the treatment of type 2 diabetes?	Diabetes Obes Metab. 23: 2199-2206, 2021	Original Article
14	Nakamura A,Terauchi Y	糖尿病・内分泌内科	Impaired insulin secretion and related factors in East Asian individuals.	J Diabetes Investig. 2022 Feb;13(2):233-235.	Original Article
15	Cho KY,Nakamura A,Omori K,他	糖尿病・内分泌内科	Favorable effect of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor, dapagliflozin, on non-alcoholic fatty liver disease	J Diabetes Investig. 12: 1272-1277, 2021	Original Article
16	Cho KY,Nomoto H,Nakamura A,他	糖尿病・内分泌内科	Improved time in range and postprandial hyperglycemia with canagliflozin in combination with tenelectin:	Diabetes Investig. 12: 1417-1424, 2021	Original Article
17	Nomoto H,Oba-Yamamoto C,Takahashi Y,他	糖尿病・内分泌内科	Effects of switching from liraglutide or dulaglutide to subcutaneous semaglutide on glucose metabolism and treatment	Diabetes Ther. 12: 955-964, 2021	Original Article
18	Miya A,Nakamura A,Handa T,他	糖尿病・内分泌内科	Log-linear relationship between endogenous insulin secretion and glycemic variability in patients with type	Sci Rep. 11: 9057, 2021	Original Article
19	Miya A,Nakamura A,Handa T,他	糖尿病・内分泌内科	Impaired insulin secretion predicting unstable glycemic variability and Time-Below-Range in type 2 diabetes	J Diabetes Investig. 12: 738-746, 2021	Original Article
20	Miya A,Nakamura A,Cho KY,他	糖尿病・内分泌内科	Impact of endogenous insulin secretion on the improvement of glucose variability in Japanese patients type 2	J Diabetes Investig. 12: 1395-1399, 2021	Original Article
21	Miyoshi A,Kameda H,Nagai S,他	糖尿病・内分泌内科	Beneficial effects of switching to denosumab from bisphosphonates or selective estrogen receptor modulators	J Diabetes Investig. 12: 1293-1300, 2021	Original Article
22	Hashimoto-Kameda R,Cho KY,Nomoto H,他	糖尿病・内分泌内科	Lowering of blood pressure and pulse rate by switching from DPP-4 inhibitor to luseoglitazone in patients with type 2	Diabetes Res Clin Pract. 180: 109069, 2021	Original Article
23	Omori K,Nakamura A,Miyoshi H,他	糖尿病・内分泌内科	Glucokinase inactivation paradoxically ameliorates glucose intolerance by increasing beta-cell mass in db/db mice.	Diabetes. 70: 917-931, 2021	Original Article
24	Kawata S,Nakamura A,Miyoshi H,他	糖尿病・内分泌内科	Glucokinase activation leads to an unsustained hypoglycaemic effect with hepatic triglyceride accumulation in	Diabetes Obes Metab. 2022 Mar;24(3):391-401.	Original Article
25	Tsuchida K,Nakamura A,Miyoshi H,他	糖尿病・内分泌内科	Glucokinase is required for high-starch diet-induced beta cell mass expansion in mice.	J Diabetes Investig. 12:1545-1554, 2021	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
26	Handa T,Nakamura A,Miya A,他	糖尿病・内分泌内科	The association between hypoglycemia and glycemic variability in elderly patients with type 2 diabetes: a	Diabetol Metab Syndr. 13: 37, 2021	Original Article
27	Sekizaki T,Kameda H,Nomoto H,他	糖尿病・内分泌内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor may exacerbate Graves' disease: a multicenter observational study.	J Diabetes Investig. 12: 1978-1982, 2021	Original Article
28	Yamauchi Y,Kameda H,Omori K,他	糖尿病・内分泌内科	Severe infection including disseminated herpes zoster triggered by subclinical Cushing's disease: a case report.	BMC Endocr Disord. 21:84, 2021	Case report
29	Chiba K,Nomoto H,Nakamura A,他	糖尿病・内分泌内科	SGLT2 inhibitors reduce day-to-day glucose variability in patients with type 1 diabetes.	J Diabetes Investig. 12: 176-183, 2021	Original Article
30	Chiba K,Kameda H,Miya A,他	糖尿病・内分泌内科	False hypercortisolemia due to abnormal albumin-cortisol binding in a patient with familial dysalbuminemic	Thyroid. 2022 Feb;32(2):219-220.	Case report
31	Oe Y,Nomoto H,Nakamura A,他	糖尿病・内分泌内科	Switching from insulin degludec plus dipeptidyl peptidase-4 inhibitor to insulin degludec/liraglutide improves	J Diabetes Res. 2022 Jan 19;2022:5603864.	Original Article
32	Baba N,Kameda H,Nakamura A,他	糖尿病・内分泌内科	Silent pituitary adenoma and metabolic disorders: obesity, abnormal glucose tolerance, hypertension and	Endocr J. 68:195-200, 2021	Original Article
33	Takahashi Y,Kameda H,Miya A,他	糖尿病・内分泌内科	Lymphocytic panhypophysitis and anti-rabphilin-3A antibody with pulmonary sarcoidosis.	Pituitary. 2022 Apr;25(2):321-327.	Case report
34	Suzuki K,Suda G,Yamamoto Y,他	糖尿病・内分泌内科	Tenofovir disoproxil fumarate modulates lipid metabolism via hepatic CD36/PPAR-alpha activation in	J Gastroenterol. 56: 168-180, 2021	Original Article
35	Kimura Y,Higuchi I,Kobayashi M,他	糖尿病・内分泌内科	The association between SLC16A11 haplotype and lipid metabolism in Japanese patients with type 2 diabetes.	Drug Metab Pharmacokin. 37: 100376, 2021	Original Article
36	Tokairin K,Osana T,Fujima N,他	糖尿病・内分泌内科	Use of magnetic resonance venography for inferior petrosal sinus sampling.	J Vasc Access. 24: 1129729821997263, 2021	Original Article
37	Nakamura H,Fujieda Y,Nakamura A,他	リウマチ・腎臓内科	How should rheumatologists manage glucocorticoid-induced hyperglycemia? Mod Rheumatol.	Mod Rheumatol. 2021 May;31(3):519-528.	Original Article
38	Atsumi T,Tanaka Y,Matsubara T,他	リウマチ・腎臓内科	Efficacy and safety of filgotinib alone and in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid	Mod Rheumatol. 2022 Feb 28;32(2):273-283.	Original Article
39	Amengual O,Atsumi T	リウマチ・腎臓内科	COVID-19 pandemic in Japan.	Rheumatology International. 41(1):1-5, 2021.	Original Article
40	Ogata Y,Fujieda Y,Sugawara M,他	リウマチ・腎臓内科	Morbidity and mortality in antiphospholipid syndrome based on cluster analysis: a 10-year longitudinal	Rheumatology (Oxford). 60(3):1331-1337.2021	Original Article
41	Kono Michihito,Yoshida N and Tsokos GC	リウマチ・腎臓内科	Amino acid metabolism in Lupus.	Frontiers in Immunology. 12:623844. 2021.	Original Article
42	Abe N,Kono M,Iwata I,他	リウマチ・腎臓内科	Lupus-induced autoimmune chloride channelopathy like myotonia congenita, successfully treated with	Rheumatology (Oxford). 2021 Dec 24;61(1):e4-e5.	Case report
43	Abe N,Kono M,Kono M,他	リウマチ・腎臓内科	Glycogen synthase kinase 3beta/CCR6-positive bone marrow cells correlate with disease activity in multicentric	Br J Haematol. 2022 Mar;196(5):1194-1204.	Original Article
44	Murakami K,Kamimura D,Hasebe R,他	リウマチ・腎臓内科	Rhodobacter azotoformans LPS (RAP99-LPS) Is a TLR4 Agonist That Inhibits Lung Metastasis and Enhances TLR3-	Front Immunol. 12: 675909, 2021.	Original Article
45	Ninagawa K,Kato M,Ohira H,他	リウマチ・腎臓内科	The assessment of left heart disease in patients with systemic sclerosis and pulmonary hypertension.	Clinical and Experimental Rheumatology. Jul-Aug 2021;39 Suppl 131(4):103-	Original Article
46	Sugawara M,Fujieda Y,Noguchi A,他	リウマチ・腎臓内科	Prediction of the intolerance or non-responder to JAK inhibitors in patients with rheumatoid arthritis: a preliminary	Clin Exp Rheumatol. 2022 Sep;40(9):1674-1680.	Original Article
47	Nakazawa D,Kudo T	リウマチ・腎臓内科	Novel Therapeutic Strategy Based on Neutrophil Subset and Its Function in Autoimmune Disease.	Front Pharmacol. 2021 Jun 7;12:684886.	Original Article
48	Mina Takatsu,Ken Natsuga,Fumihiko Hattanda,他	リウマチ・腎臓内科	IgA nephropathy preceded by erythroderma with eosinophilia.	Eur J Dermatol. 2022 Feb 15. doi: 10.1684/ejd.2022.4199.	Case report
49	Nishio S,Tsuchiya K,Nakatani S,他	リウマチ・腎臓内科	Committee of Clinical Practical Guideline for Polycystic Kidney Disease 2020.	A digest from evidence-based Clinical Practice Guideline for Polycystic Kidney	Original Article
50	Tokuchi Y	消化器内科	Changes in the estimated renal function after hepatitis C virus eradication with direct-acting antiviral agents: Impact of	J Viral Hepat. 2021 May;28(5):755-763.	Original Article
51	Maehara O	消化器内科	FGFR2 maintains cancer cell differentiation via AKT signaling in esophageal squamous cell carcinoma	Cancer Biol Ther. 2021 Jun 3;22(5-6):372-380.	Original Article
52	Sonoe Yoshida ,Goki Suda,Masatsugu Ohara,他	消化器内科	Frequency and Characteristics of Overestimated Renal Function in Japanese Patients with Chronic Liver	Nutrients. 2021 Jul 14;13(7):2415.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
53	Akinori Kubo ,Goki Suda,Megumi Kimura,他	消化器内科	Characteristics and Lenvatinib Treatment Response of Unresectable Hepatocellular Carcinoma with Iso-High	Cancers (Basel). 2021 Jul 20;13(14):3633.	Original Article
54	Tokuchi Y	消化器内科	Possible correlation between increased serum free carnitine levels and increased skeletal muscle mass following HCV	Sci Rep. 2021 Aug 16;11(1):16616.	Original Article
55	Takuya Sho ,Goki Suda,Koji Ogawa,他	消化器内科	Early response and safety of atezolizumab plus bevacizumab for unresectable hepatocellular carcinoma in	Hepatol Res. 2021 Sep;51(9):979-989.	Original Article
56	Takuya Sho ,Kenichi Morikawa,Akinori Kubo,他	消化器内科	Prospect of lenvatinib for unresectable hepatocellular carcinoma in the new era of systemic chemotherapy	World J Gastrointest Oncol. 2021 Dec 15;13(12):2076-2087.	Review
57	Yang Z	消化器内科	Changes in Serum Growth Factors during Lenvatinib Predict the Post Progressive Survival in Patients with	Cancers (Basel). 2022 Jan 4;14(1):232.	Original Article
58	Masato Nakai ,Yoshiya Yamamoto,Masaru Baba,他	消化器内科	Prediction of hepatocellular carcinoma using age and liver stiffness on transient elastography after hepatitis C virus	Sci Rep. 2022 Jan 27;12(1):1449.	Original Article
59	Masaki Kuwatani ,Naoya Sakamoto	消化器内科	Clinical and Image Characteristics of IgG4-Related Sclerosing Cholecystitis.	Diagnostics (Basel). 2021 Jul 28;11(8):1358	Original Article
60	Masaki Kuwatani ,Kazumichi Kawakubo,Kazuya	消化器内科	Trial protocol: a randomised controlled trial to verify the non-inferiority of a partially covered self-expandable metal	BMJ Open. 2021 Jul 8;11(7):e045698.	Original Article
61	Ryo Sugiura,Masaki Kuwatani,Tsuyoshi Hayashi,他	消化器内科	Endoscopic Nasobiliary Drainage Comparable with Endoscopic Biliary Stenting as a Preoperative Drainage	Digestion. 2022;103(3):205-216.	Original Article
62	Masaki Kuwatani ,Naoya Sakamoto	消化器内科	Endoscopic treatment for hepaticojejunostomy anastomotic stricture: Advantages and disadvantages	Dig Endosc. 2022 Mar;34(3):462-463.	Original Article
63	Kosuke Nagai ,Masaki Kuwatani,Yunosuke Takishin,他	消化器内科	Immunoglobulin G4-related cholecystitis mimicking gallbladder cancer diagnosed by EUS-guided biopsy.	Endosc Ultrasound. 2021 Sep 3.	Case report
64	Hajime Hirata ,Masaki Kuwatani,Daisuke Abo	消化器内科	Sharp recanalization and rendezvous technique for biliary occlusions due to spacious bile leak after hepatectomy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021 Aug;28(8):e38-e39.	Case report
65	Masaki Kuwatani ,Kazumichi Kawakubo,Naoya	消化器内科	Possible reasons for the regrettable results of patency of an inside stent in endoscopic transpapillary biliary	Dig Endosc. 2022 Jan;34(2):334-344.	Original Article
66	Masaki Kuwatani ,Kosuke Nagai,Yunosuke	消化器内科	Endoscopic ultrasonography-guided pancreaticoduodenostomy with a lumen-apposing metal stent to treat main	Endoscopy. 2022 Mar;54(3):E113-E114.	Case report
67	Masaki Kuwatani ,Naoya Sakamoto	消化器内科	Endoscopic Papillectomy for Adenocarcinoma at the Duodenal Papilla - Will It Still Open a Pandora's Box?	Intern Med. 2021 Aug 15;60(16):2523-2524.	Original Article
68	Hajime Hirata ,Masaki Kuwatani,Tomoko Mitsuhashi	消化器内科	A case with eosinophilic cholangitis which presented the unique cholangioscopic findings.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021 Jul;28(7):e24-e25.	Case report
69	Shinsuke Otagiri,Takehiko Katsurada,Kensuke	消化器内科	Endoscopic balloon dilations for strictures of rectum, ileocecal valve and duodenum in a patient with X-linked	Intestinal Research 2022;20(2):274-277.	Case report
70	Ono S,Ieko M,Tanaka I,他	消化器内科	Bleeding After Gastric Endoscopic Submucosal Dissection Focused on Management of Xa Inhibitors	J Gastric Cancer. 2022 Mar;22(1):47-55.	Original Article
71	Kinowaki S,Shimizu Y,Ono M,他	消化器内科	Experiment on endoscopic balloon dilation for esophageal stenosis after endoscopic submucosal dissection in	J Gastroenterol. 2021 Jun;56(6):527-536.	Original Article
72	Tanaka I,Ono S,Shimoda Y,他	消化器内科	Eradication of Helicobacter pylori may improve dyspepsia in the elderly for the long term	BMC Gastroenterol. 2021 Nov 25;21(1):445.	Original Article
73	Miyamoto S,Suda G,Ishikawa M,他	消化器内科	Genomic profiling of intestinal/mixed-type superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors.	JGH Open. 2021 Aug 3;5(9):1071-1077. doi: 10.1002/jgh3.12632.	Original Article
74	Nishino H,Iwano H,Sarashina M,他	循環器内科	Clinical significance of end-diastolic opening of pulmonary valve in a case complicating left ventricular systolic	J Echocardiography 2021 Mar	Case report
75	Konishi T,Hotta D,Tanaka S,他	循環器内科	A Rare Combination: Cardiac Myxoma and Aortic Stenosis	Intern Med. 2021 Mar 15;60(6):961-962.	Case report
76	Koyanagawa K,Naya M,Aikawa T,他	循環器内科	The rate of myocardial perfusion recovery rate after steroid therapy and its implication for cardiac events in	J Nucl Cardiol. 2021 Aug;28(4):1745-1756.	Original Article
77	Chiba Y,Iwano H,Kaga S,他	循環器内科	Influence of advanced pulmonary vascular remodeling on accuracy of echocardiographic parameters of left	Pulm Circ. 2021 Jan 20;11(1):2045894020983723.	Original Article
78	Komoriyama H,Kamiya K,Nagai T,他	循環器内科	Blood flow dynamics with four-dimensional flow cardiovascular magnetic resonance in patients with aortic	J Cardiovasc Magn Reson. 2021 Jun 28;23(1):81.	Original Article
79	Omote K,Yokota I,Nagai T,他	循環器内科	High-Density Lipoprotein Cholesterol and Cardiovascular Events in Patients with Stable Coronary Artery Disease	J Atheroscler Thromb. 2022 Jan 1;29(1):50-68.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
80	Kobayashi Y, Sato T, Nagai T, 他	循環器内科	Association of high serum soluble interleukin 2 receptor levels with risk of adverse events in cardiac sarcoidosis.	ESC Heart Fail. 2021 Dec;8(6):5282-5292.	Original Article
81	Tamaki Y, Tsujinaga S, Iwano H, 他	循環器内科	Paravalvular leak vanishing at end-diastole during transcatheter aortic valve replacement.	J Echocardiogr. 2021 Oct 6. doi: 10.1007/s12574-021-00553-6.	Case report
82	Ishigaki T, Wakasa S, Shingu Y, 他	循環器内科	Reduction of tethering distance by papillary muscle tugging approximation with mitral valve replacement for non-	J Cardiol. 2022 Apr;79(4):530-536.	Original Article
83	Watanabe M, Yokoshiki H, Noda T, 他	循環器内科	Electrical Storm as an Independent Mortality Risk in Patients with Preserved or Moderately Reduced Left	Int Heart J. 2021 Nov 30;62(6):1249-1256.	Original Article
84	Koya T, Watanabe M, Kamada R, 他	循環器内科	Hybrid epicardial ventricular tachycardia ablation with lateral thoracotomy in a patient with a history of left ventricular	J Cardiol Cases. 2021 Jul 3;25(1):37-41.	Case report
85	Sato T, Wakita M, Matsushima M, 他	循環器内科	A Novel Deletion of the Dystrophin Gene in a Patient without Muscle-related Symptoms.	Eur Heart J. 2021 Apr 21;42(16):1638.	Case report
86	Tada A, Sorimachi H, Omote K	循環器内科	Different Prognostic Impact of the Morning Blood Pressure Surge in Heart Failure With Reduced vs. Preserved	Circ J. 2021 Aug 25;85(9):1543-1544.	Original Article
87	Tsuchida T, Mizuguchi Y	循環器内科	Pseudo-cardiac tamponade owing to a large hiatal hernia.	Oxf Med Case Reports. 2021 Oct 26;2021(10):omab090.	Case report
88	Natsui H, Konishi T, Saiin K, 他	循環器内科	Vulnerable plaque derived from aspirated thrombi in recurrent acute coronary syndrome with familial	Cardiol J. 2022;29(2):362-363.	Case report
89	Naito S, Tsujinaga S, Kamiya K, 他	循環器内科	Fulminant cardiac and renal sarcoidosis revealed by electron microscope: challenging aspect of diagnosis.	Eur Heart J Case Rep. 2021 Jul 28;5(11):ytab298.	Case report
90	Konishi T, Funayama N, Yamamoto T, 他	循環器内科	Takotsubo syndrome in association with acute myocardial infarction: diagnostic caveats and clinical implications.	Kardiol Pol. 2021 Jan 25;79(1):96.	Case report
91	Konishi T, Saiin K, Tamaki Y, 他	循環器内科	The effectiveness of drug-coated balloons for two dissimilar calcific lesions assessed by near-infrared	Cardiol J. 2021;28(5):794-795.	Case report
92	Saito A, Ishimori N, Tokuhara S, 他	循環器内科	Activation of invariant natural killer T cells by alpha-galactosylceramide attenuates the development of	Front Cardiovasc Med. 2021 May 10;8:659418.	Original Article
93	Ohmura Y, Ishimori N, Saito A, 他	循環器内科	Natural killer T cells are involved in atherosclerotic plaque instability in apolipoprotein-E knockout mice.	Int J Mol Sci. 2021 Nov 18;22(22):12451.	Original Article
94	Chiba Y, Iwano H, Tsuneta S, 他	循環器内科	Determinants of altered left ventricular structure in pre-capillary pulmonary hypertension	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2022 Sep 10;23(10):1399-1406.	Original Article
95	Konishi T, Saiin K, Tamaki Y, 他	循環器内科	The effectiveness of drug-coated balloons for two dissimilar calcific lesions assessed by near-infrared	Cardiol J. 2021;28(5):794-795.	Case report
96	Takenaka S, Konishi T, Sato T, 他	循環器内科	Acute Myocardial Infarction of the Left Main Coronary Artery Presenting with Cardiogenic Shock and Pulmonary	Case Rep Cardiol. 2021 Aug 13;2021:5460816.	Case report
97	Tada A, Nagai T, Omote K, 他	循環器内科	Performance of the H 2 FPEF and the HFA-PEFF scores for the diagnosis of heart failure with preserved ejection	Int J Cardiol. 2021 Nov 1;342:43-48.	Original Article
98	Takenaka S, Kobayashi Y, Nagai T, 他	循環器内科	Applicability of the AHA/ACC/HRS Guideline for Implantable Cardioverter Defibrillator Implantation in Japanese	JACC Clin Electrophysiol. 2021 Nov;7(11):1410-1418.	Original Article
99	Kobayashi Y, Nagai T, Takenaka S, 他	循環器内科	Long-Term Prognostic Significance of Ventricular Repolarization Dispersion in Patients with Cardiac Sarcoidosis	Am J Cardiol. 2021 Aug 1;152:125-131.	Original Article
100	Hagiwara H, Watanabe M, Kamada R, 他	循環器内科	Epsilon wave disappearance by catheter ablation for ventricular arrhythmia from the left ventricular outflow tract	HeartRhythm Case Rep. 2021 Mar 12;7(5):343-346.	Case report
101	Ishizaka S, Iwano H, Motoi K, 他	循環器内科	Influence of left ventricular systolic dysfunction on occurrence of pulsus tardus in patients with aortic stenosis	J Cardiol. 2021 Oct;78(4):322-327.	Original Article
102	Kadosaka T, Kamiya K, Nagai T, 他	循環器内科	Takotsubo Syndrome After Transcatheter Mitral Valve Repair	Circ J. 2021 Jun 25;85(7):1100.	Case report
103	Kadosaka T, Nagai T, Suzuki S, 他	循環器内科	Association of Low Body Weight with Clinical Outcomes in Elderly Atrial Fibrillation Patients Receiving	Cardiovasc Drugs Ther. Epub 2021 Apr 8.	Original Article
104	Komoriyama H, Kamiya K, Kobayashi Y, 他	循環器内科	4-Dimensional Flow Cardiovascular Magnetic Resonance Imaging of Changes in Blood Flow Dynamics After Surgery	Circ J. 2021 May 25;85(6):954.	Case report
105	Anzai T, Sato T, Fukumoto Y, 他	循環器内科	JCS/JHFS 2021 Statement on Palliative Care in Cardiovascular Diseases.	Circ J. 2021 Apr 23;85(5):695-757.	Original Article
106	Murayama M, Iwano H, Nishino H, 他	循環器内科	Simple Two-Dimensional Echocardiographic Scoring System for the Estimation of Left Ventricular Filling	J Am Soc Echocardiogr. 2021 Jul;34(7):723-734.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
107	Nagai T,Nakao M,Anzai T	循環器内科	Risk Stratification Towards Precision Medicine in Heart Failure - Current Progress and Future Perspectives	Circ J. 2021 Apr 23;85(5):576-583.	Original Article
108	Takahashi M,Yokoshiki H,Mitsuyama H,他	循環器内科	SK channel blockade prevents hypoxia-induced ventricular arrhythmias through inhibition of Ca ²⁺ /voltage uncoupling in	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2021 Apr 1;320(4):H1456-H1469.	Original Article
109	Mizuguchi Y,Konishi T,Nagai T,他	循環器内科	Prognostic value of admission serum magnesium in acute myocardial infarction complicated by malignant ventricular	Am J Emerg Med. 2021 Jun;44:100-105.	Original Article
110	Konishi T,Hotta D,Tanaka S,他	循環器内科	A Rare Combination: Cardiac Myxoma and Aortic Stenosis.	Intern Med. 2021 Mar 15;60(6):961-962.	Case report
111	Koyanagawa K,Kobayashi Y,Aikawa T,他	循環器内科	Myocardial T1-mapping and Extracellular Volume Quantification in Patients and Putative Carriers of	Magn Reson Med Sci. 2021 Sep 1;20(3):320-324.	Original Article
112	Oguri S,Fujisawa S,Kamada K,他	血液内科	Effect of varying storage conditions on diagnostic test outcomes of SARS-CoV-2	J Infect 2021 Jul;83(1):119-145 doi: 101016/j.jinf 2021 3 26 Epub 2021 Apr 3	Case report
113	Yokota I,Sakurazawa T,Sugita J,他	血液内科	Performance of Qualitative and Quantitative Antigen Tests for SARS-CoV-2 Using Saliva	Infect Dis Rep 2021 Aug 24;13(3):742-747 doi: 103390/idr13030069	Case report
114	Yokota I,Shane PY,Okada K,他	血液内科	Mass Screening of Asymptomatic Persons for Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 Using Saliva	Clin Infect Dis 2021 Aug 2;73(3):e559-e565 doi: 101093/cid/ciaa1388	Case report
115	Teshima T,Yuchi Y,Suzuki R,他	血液内科	Immunomodulatory Effects of Canine Adipose Tissue Mesenchymal Stem Cell-Derived Extracellular Vesicles on	J Immunol Res 2021 Aug 14;2021:2993043 doi: 101155/2021/2993043	Case report
116	Yokota I,Shane PY,Okada K,他	血液内科	A novel strategy for SARS-CoV-2 mass screening with quantitative antigen testing of saliva: a diagnostic accuracy	Lancet Microbe 2021 Aug;2(8):e397-e404 doi: 101016/S2666-	Case report
117	Shiratori S,Sugita J,Fuji S,他	血液内科	Low-dose antithymocyte globulin inhibits chronic graft-versus-host disease in peripheral blood stem cell	Bone Marrow Transplant 2021 Sep;56(9):2231-2240 doi: 101038/s41409-021-	Case report
118	Souichi Shiratori ,Mio Kurata,Junichi Sugita, 他	血液内科	Graft-Versus-Host Disease Prophylaxis Using Low-Dose Antithymocyte Globulin in Peripheral Blood Stem Cell	Transplant Cell Ther 2021 Dec;27(12):995 e1-995 e6 doi:101016/j.jtct2021 8 29	Case report
119	Shiratori S,Kurata M,Sugita J,他	血液内科	Tisagenlecleucel in adult relapsed or refractory follicular lymphoma: the phase 2 ELARA trial	Nat Med 2021 Dec 17 doi: 101038/s41591-021-01622-0 Online ahead of print	Case report
120	Takanori Teshima	血液内科	Learning to mellow out GVHD	Blood 2021 Mar 4;137(9):1142-1143 doi: 101182/blood2020009315	Original Article
121	Takahide Ara ,Daigo Hashimoto	血液内科	Novel Insights Into the Mechanism of GVHD-Induced Tissue Damage	Front Immunol 2021 Aug 27;12:713631 doi: 103389/fimmu2021713631	Original Article
122	Takanori Teshima ,Geoffrey R Hill	血液内科	The Pathophysiology and Treatment of Graft-Versus-Host Disease: Lessons Learnt From Animal Models	Front Immunol 2021 Aug 19;12:715424 doi: 103389/fimmu2021715424	Original Article
123	Makoto Murata ,Takanori Teshima	血液内科	Treatment of Steroid-Refractory Acute Graft-Versus-Host Disease Using Commercial Mesenchymal Stem Cell	Front Immunol 2021 Aug 19;12:724380 doi: 103389/fimmu2021724380	Original Article
124	Keito Suto ,Junichi Sugita,Daigo Hashimoto, 他	血液内科	Extramedullary hematopoiesis of the cranial dura	Int J Hematol 2021 Mar;113(3):315-317 doi: 101007/s12185-020-03057-	Case report
125	Shinsuke Otagiri ,Sae Nakajima,Takehiko Katsurada, 他	血液内科	Chronic Diarrhea as the Presenting Feature of Amyloidosis with Multiple Myeloma: A Case Report Diagnosed by a	Intern Med 2021 Apr 15;60(8):1197-1203 doi: 102169/internalmedicine6038	Case report
126	Zixuan Zhang ,Yuta Hasegawa,Daigo Hashimoto, 他	血液内科	Gilteritinib enhances graft-versus-leukemia effects against FLT3-ITD mutant leukemia after allogeneic	Bone Marrow Transplant. 2022 May;57(5):775-780	Case report
127	Shinpei Harada ,Masahiro Onozawa,Daisuke	血液内科	Dynamic change in peripheral blood WT1 mRNA levels within three cycles of azacitidine predict treatment response in	Ann Hematol. 2022 Jun;101(6):1239-1250	Case report
128	Nakano K,Sugita J,Mafune N,他	血液内科	Rescue extracranial-intracranial bypass for ischemic stroke secondary to progressive human immunodeficiency	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2022 Feb 22	Case report
129	Mizushima M,Sugiyama T,Eguchi K, 他	血液内科	Genome-wide CRISPR screen identifies CDK6 as a therapeutic target in Adult T-cell leukemia/lymphoma.	Blood . 2022 Mar 10;139(10):1541-1556.	Case report
130	Shiratori S,Ohigashi H,Ara T, 他	血液内科	High lymphocyte counts before antithymocyte globulin administration predict acute graft-versus-host disease.	Ann Hematol. 2021 May;100(5):1321-1328. doi: 10.1007/s00277-020-04347-	Case report
131	Miyashita N,Onozawa M,Suto K, 他	血液内科	Aleukemic extramedullary blast crisis as an initial presentation of chronic myeloid leukemia with E1A3 BCR-ABL1 fusion	Intern Med. 2021 Sep 11. doi: 10.2169/internalmedicine.83	Case report
132	Kiuchi T,Tomaru U,Ishizu A, 他	腫瘍内科	Expression of the immunoproteasome subunit beta5i in non-small cell lung carcinomas	J Clin Pathol. 2021 May;74(5):300-306.	Original Article
133	Oizumi S,Takamura K,Harada T, 他	腫瘍内科	Phase II study of carboplatin-paclitaxel alone or with bevacizumab in advanced sarcomatoid carcinoma of the lung:	Int J Clin Oncol. 2022 Apr;27(4):676-683	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
134	Asahi Y,Kamiyama T,Kakisaka T,他	消化器外科学 I	Outcomes of reduction hepatectomy combined with postoperative multidisciplinary therapy for advanced	World J Gastrointest Surg 2021; 13(10):1245-1257.	Original Article
135	Fujii Y,Kamachi H,Matsuzawa F,他	消化器外科学 I	Early administration of amatuximab, a chimeric high-affinity anti-mesothelin monoclonal antibody, suppresses liver	Invest New Drugs 2021; 39(5):1256-1266.	Original Article
136	Ganchiku Y,Goto R,Kanazawa R,他	消化器外科学 I	Functional roles of graft-infiltrating lymphocytes during early-phase post-transplantation in mouse cardiac	Transpl Int 2021; 34(12):2547-2561.	Original Article
137	Ichikawa N,Homma S,Yoshida T,他	消化器外科学 I	Modified complete mesocolic excision with central vascular ligation by the squeezing approach in laparoscopic right	Langenbecks Arch Surg 2022; 407(1):409-419.	Original Article
138	Matsui H,Homma S,Hatanaka K C,他	消化器外科学 I	Novel Prognostic Stratification Factor Based on the Pathological Profile of the Invasive Front in Colorectal Cancer.	Anticancer Res 2021; 41(7):3429-3438.	Original Article
139	Ohira M,Yokoo H,Ogawa K,他	消化器外科学 I	Serum fatty acid-binding protein 5 is a significant factor in hepatocellular carcinoma progression independent of	Carcinogenesis 2021; 42(6):794-803.	Original Article
140	Okada N,Sugiyama K,Shichi S,他	消化器外科学 I	Combination therapy for hepatocellular carcinoma with diacylglycerol kinase alpha inhibition and anti-programmed	Cancer Immunol Immunother 2021.	Original Article
141	Orimo T,Kamiyama T,Kakisaka T,他	消化器外科学 I	Central Hepatectomy Versus Major Hepatectomy for Centrally Located Hepatocellular Carcinoma: A Propensity	Ann Surg Oncol 2021; 28(11):6769-6779.	Original Article
142	Shibuya K,Watanabe M,Goto R,他	消化器外科学 I	The Efficacy of the Hepatocyte Spheroids for Hepatocyte Transplantation.	Cell Transplant 2021; 30:9636897211000014.	Original Article
143	Shimada S,Kamiyama T,Kakisaka T,他	消化器外科学 I	Impact of gadolinium-ethoxybenzyl-diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced magnetic resonance imaging on	GH Open 2021; 5(1):41-49.	Original Article
144	Shimada S,Kamiyama T,Orimo T,他	消化器外科学 I	High HbA1c is a risk factor for complications after hepatectomy and influences for hepatocellular carcinoma	Hepatobiliary Surg Nutr 2021; 10(4):454-463.	Original Article
145	Yoshida T,Homma S,Ichikawa N,他	消化器外科学 I	Preoperative Elemental Diet before Laparoscopic Anterior Resection in Patients with Advanced Stenotic Rectal	J Anus Rectum Colon 2021; 5(4):395-404.	Original Article
146	Mizunoya K,Yagi Y,Kamachi H,他	消化器外科学 I	Diagnostic timing dependent characteristics of acute kidney injury following hepatectomy: a retrospective	HPB (Oxford). 2021 Dec;23(12):1897-1905.	Original Article
147	Yoshida Y,Yoshio S,Yamazoe T,他	消化器外科学 I	Phenotypic characterization by single-cell mass cytometry of human intrahepatic and peripheral NK cells in	Cells. 2021 Jun 14;10(6):1495	Original Article
148	Ichikawa N,Homma S,Funakoshi T,他	消化器外科学 I	The survival impact of preoperative FOLFOX for resectable locally advanced rectal cancer: the R-NAC-01 study.	Surg Today. 2022 Jan 5. doi: 10.1007/s00595-021-02447-7. Online ahead of print.	Original Article
149	Goto R,Ito M,Kawamura N,他	消化器外科学 I	The impact of preformed donor-specific antibodies in living donor liver transplantation according to graft	Immun Inflamm Dis. 2022 Mar;10(3):e586.	Original Article
150	Kamiyama T,Orimo T,Wakayama K,他	消化器外科学 I	Preventing Recurrence of Hepatocellular Carcinoma After Curative Hepatectomy With Active Hexose-correlated	ntegr Cancer Ther. 2022 Jan-Dec;21:15347354211073066.	Original Article
151	Taketomi A	消化器外科学 I	Hepatic Resection for Hepatocellular Carcinoma in the Era of Molecular-targeted Agents and Immune Checkpoint	JMA J 2021; 4(3):241-245.	Original Article
152	Kamiyama T,Kakisaka T,Orimo T	消化器外科学 I	Current role of intraoperative ultrasonography in hepatectomy.	Surg Today 2021; 51(12):1887-1896.	Original Article
153	Asahi Y,Kamiyama T,Kakisaka T,他	消化器外科学 I	Hepatectomy and immune checkpoint inhibitor treatment for liver metastasis originating from non-cutaneous	Int Cancer Conf J 2021; 10(4):274-279.	Case report
154	Kii S,Kamachi H,Abo D,他	消化器外科学 I	Combined treatment of an aortosplenic bypass followed by coil embolization in the treatment of pancreaticoduodenal	Surg Case Rep 2021; 7(1):174.	Case report
155	Matsui H,Ichikawa N,Homma S,他	消化器外科学 I	Combined Laparoscopic and Transperineal Endoscopic Pelvic Tumor Resection with Sacrectomy for Locally	J Anus Rectum Colon 2021; 5(3):327-333.	Case report
156	Matsui H,Yoshida T,Homma S,他	消化器外科学 I	Ursodeoxycholic Acid Triggers Primary Enterolith Growth in a Crohn's Disease Patient with Jejunal Stenosis.	J Anus Rectum Colon 2021; 5(4):433-438.	Case report
157	Sakamoto Y,Shimada S,Kamiyama T,他	消化器外科学 I	A case of laparoscopic hepatectomy for a primary hepatic neuroendocrine tumor.	Clin J Gastroenterol 2021; 14(3):876-880.	Case report
158	Shirakawa C,Watanabe M,Shimamura T,他	消化器外科学 I	A case report of percutaneous direct injection of N-butyl-2-cyanoacrylate (NBCA) to treat a pancreatic duodenal	Surg Case Rep 2021; 7(1):139.	Case report
159	Shibata K,Ebinuma S,Sakamoto S,他	消化器外科学 I	Two-time perforation of the ileal J-pouch 6 and 18 years after restorative proctocolectomy and ileal pouch-anal	Surg Case Rep. 2022 Jan 4;8(1):2.	Case report
160	Tsuzaka S,Asahi Y,Kamiyama T,他	消化器外科学 I	Laparoscopic liver resection for liver metastasis of leiomyosarcoma of the thigh: a case report.	Surg Case Rep. 2022 Mar 21;8(1):47.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
161	Nakanishi Y, Oba M, Hirano S	消化器外科 II	ASO Author Reflections: Can Invasive Tumor Thickness Stratify the Postoperative Prognosis of Perihilar	Ann Surg Oncol. 2021 Apr;28(4):2010-2011.	Original Article
162	Oba M, Nakanishi Y, Amano T, 他	消化器外科 II	Stratification of Postoperative Prognosis by Invasive Tumor Thickness in Perihilar Cholangiocarcinoma.	Ann Surg Oncol. 2021 Apr;28(4):2001-2009.	Original Article
163	Ebihara Y, Noji T, Tanaka K, 他	消化器外科 II	Laparoscopic real-time vessel navigation using indocyanine green fluorescence during the laparoscopic-Warshaw	J Minim Access Surg. 2021 Apr-Jun;17(2):226-229.	Original Article
164	Tatsumi M, Kumagai S, Abe T, 他	消化器外科 II	Sarcopenia in a patient with most serious complications after highly invasive surgeries treated with nutrition,	J Pharm Health Care Sci. 2021 Apr 6;7(1):16.	Case report
165	Abiko T, Ebihara Y, Takeuchi M, 他	消化器外科 II	Laparoscopic distal pancreatectomy for pancreatic arteriovenous malformation complicated with portal hypertension.	J Minim Access Surg. 2021 Jul-Sep;17(3):373-375.	Case report
166	Kuwatani M, Imamura M, Hayashi T, 他	消化器外科 II	A drainage strategy for postoperative pancreatic fistula after left-sided pancreatectomy based on the wall status	Langenbecks Arch Surg. 2021 May;406(3):743-751	Original Article
167	Hashimoto A, Handa H, Hata A, 他	消化器外科 II	Inhibition of mutant KRAS-driven overexpression of ARF6 and MYC by an eIF4A inhibitor drug improves the	Cell Commun Signal. 2021 May 17;19(1):54.	Original Article
168	Kushiya H, Nakamura T, Asano T, 他	消化器外科 II	Predicting the Outcomes of Postoperative Pancreatic Fistula After Pancreatoduodenectomy Using	J Gastrointest Surg. 2021 Jun;25(6):1445-1450.	Original Article
169	Nitta T, Ebihara Y, Hirano S	消化器外科 II	Postoperative Outcomes of Closed Versus Nonclosed Mesentery Laparoscopic Colectomy: A	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2021 Jun 23;31(6):703-706.	Original Article
170	Aljohani E, Almadi F, Watanabe Y, 他	消化器外科 II	Knowledge Assessment among Surgeons about Energy Devices safe use: A Multicenter Cross Sectional Study.	Int Surg. 2021 Jun	Original Article
171	Endo A, Saida F, Mochida Y, 他	消化器外科 II	Planned Versus On-Demand Relaparotomy Strategy in Initial Surgery for Non-occlusive Mesenteric Ischemia.	J Gastrointest Surg. 2021 Jul;25(7):1837-1846.	Original Article
172	Okawa Y, Ebata N, Kim NKD, 他	消化器外科 II	Actionability evaluation of biliary tract cancer by genome transcriptome analysis and Asian cancer knowledgebase.	Oncotarget. 2021 Jul 20;12(15):1540-1552.	Original Article
173	Kurashima Y, Hirano S, Yamaguchi S	消化器外科 II	Can general surgeons perform laparoscopic surgery independently within 10 years of training? A nationwide	Surg Today. 2021 Aug;51(8):1328-1334.	Original Article
174	Ebina K, Abe T, Higuchi M, 他	消化器外科 II	Motion analysis for better understanding of psychomotor skills in laparoscopy: objective assessment-based simulation	Surg Endosc. 2021 Aug;35(8):4399-4416.	Original Article
175	Ebihara Y, Kurashima Y, Murakami S, 他	消化器外科 II	Robotic Distal Gastrectomy With a Novel "Preemptive Retropancreatic Approach" During Dissection of	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2021 Apr 23;31(4):457-461.	Original Article
176	Noji T, Tanaka K, Matsui A, 他	消化器外科 II	Transhepatic Direct Approach to the "Limit of the Division of the Hepatic Ducts" Leads to a High R0 Resection	J Gastrointest Surg. 2021 Sep;25(9):2358-2367.	Original Article
177	Ebihara Y, Kurashima Y, Murakami S, 他	消化器外科 II	Short-term outcomes of robotic distal gastrectomy with the "preemptive retropancreatic approach": a propensity	J Robot Surg. 2022 Aug;16(4):825-831.	Original Article
178	Yamamoto H, Ebihara Y, Tanaka K, 他	消化器外科 II	Robot-assisted thoracoscopic esophagectomy for gastrointestinal stromal tumor of the esophagus: A case	Int J Surg Case Rep. 2021 Sep;86:106335.	Case report
179	Watanabe K, Nakamura Y, Low SK	消化器外科 II	Clinical implementation and current advancement of blood liquid biopsy in cancer.	J Hum Genet. 2021 Sep;66(9):909-926.	Original Article
180	Uemura S, Shichinohe T, Kurashima Y, 他	消化器外科 II	Effects of preoperative psoas muscle index and body mass index on postoperative outcomes after video-	Asian J Endosc Surg. 2021 Oct;14(4):739-747.	Original Article
181	Kimura K, Ebihara Y, Tanaka K, 他	消化器外科 II	Initial Results of Laparoscopic Proximal Gastrectomy With Double-tract Reconstruction Using Oblique	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2021 May 27;31(5):603-607.	Original Article
182	Ebihara Y, Shichinohe T, Kurashima Y, 他	消化器外科 II	Laparoscopic real-time vessel navigation using indocyanine green fluorescence during laparoscopy-assisted gastric tube	J Minim Access Surg. 2021 Oct-Dec;17(4):576-579.	Original Article
183	Hane Y, Tsuchikawa T, Takeuchi S, 他	消化器外科 II	Long-term survival after repetitive lymphadenectomy for nodal recurrence of pancreatic neuroendocrine neoplasms:	J Surg Case Rep. 2021 Oct 13;2021(10):rjab446.	Case report
184	Yamada T, Nakanishi Y, Hayashi H, 他	消化器外科 II	Targeted amplicon sequencing for primary tumors and matched lymph node metastases in patients with extrahepatic	HPB (Oxford). 2022 Jul;24(7):1035-1043.	Original Article
185	Noji T, Inoue A, Nakanishi Y, 他	消化器外科 II	99m Tc-GSA Scintigraphy Could Predict Post-Hepatectomy Liver Failure-Related Death in Biliary Surgery.	J Gastrointest Surg. 2021 Dec;25(12):3236-3238.	Original Article
186	Okawa Y, Tanaka K, Nakanishi Y, 他	消化器外科 II	The assessment of risk factors for postoperative delirium using cubic spline curves in gastroenterological surgery.	Surg Today. 2021 Dec;51(12):1969-1977.	Original Article
187	Tsuda M, Noguchi M, Kurai T, 他	消化器外科 II	Aberrant expression of MYD88 via RNA-controlling CNOT4 and EXOSC3 in colonic mucosa impacts generation of	Cancer Sci. 2021 Dec	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
188	Ebihara Y, Kurashima Y, Watanabe Y, 他	消化器外科 II	Outcomes of laparoscopic total gastrectomy in elderly patients: a propensity score matching analysis.	Langenbecks Arch Surg. 2022 Jun;407(4):1461-1469.	Original Article
189	Wada H, Murakawa K, Ono K, 他	消化器外科 II	Laparoscopic ultrasound guided wedge resection of the stomach: a novel procedure for gastric submucosal tumor.	Updates Surg. 2022 Feb;74(1):367-372.	Original Article
190	Shichinohe T, Kobayashi E	消化器外科 II	Cadaver surgical training in Japan: its past, present, and ideal future perspectives.	Surg Today. 2022 Feb;52(2):354-358.	Original Article
191	Ebihara Y, Kurashima Y, Tanaka K, 他	消化器外科 II	A Multicenter Retrospective Study Comparing Surgical Outcomes Between the Overlap Method and Functional	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2021 Sep 20;32(1):89-95.	Original Article
192	Teramura K, Imai S, Watanabe Y, 他	消化器外科 II	Development of a performance rubric for transanal endoscopic rectal purse-string sutures.	Tech Coloproctol. 2022 Feb;26(2):109-115.	Original Article
193	Fukuda J, Tanaka K, Matsui A, 他	消化器外科 II	Bacteremia after hepatectomy and biliary reconstruction for biliary cancer: the characteristics of bacteremia according	Surg Today. 2022 Sep;52(9):1373-1381.	Original Article
194	Morimoto H, Hida Y, Maishi N, 他	消化器外科 II	Biglycan, tumor endothelial cell secreting proteoglycan, as possible biomarker for lung cancer.	Thorac Cancer. 2021 May; 12(9): 1347-1357. doi: 10.1111/1759-7714.13907.	Original Article
195	Shingu Y, Katoh N, Ooka T, 他	心臓血管外科	L-Carnitine supplementation for the prevention of postoperative atrial fibrillation in aortic valve surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Nov;69(11):1460-1466.	Original Article
196	Yoshinobu Watabe, Hideki Ujiiie, Yoshihiro	心臓血管外科	Rare Diagnosis of a Multilobular Pulmonary Mass	Chest. 2021 Jul;160(1):e63-e67.	Case report
197	Tetsuya Hieda, Yasushige Shingu, Satoshi	心臓血管外科	Effects of trehalose on recurrence of remodeling after ventricular reconstruction in rats with ischemic	Heart Vessels. 2022 Mar;37(3):528-537.	Original Article
198	Satoru Wakasa, Yoshiro Matsui	心臓血管外科	Diabetes Mellitus With Left Ventricular Dysfunction - Optimal Indication of Bilateral Internal Thoracic Artery	Circ J. 2021 Oct 25;85(11):2002-2003.	Others
199	Otsuka S, Ujiiie H, Kato T, 他	呼吸器外科	Pneumatosis Intestinalis After Living Donor Lung Transplantation Associated With Alpha-Glucosidase Inhibitor	Transplant Proc. 2021 Mar 9; S0041-1345(21)00117-2.	Case report
200	Hiroshi Yamasaki, Hideki Ujiiie, Tatsuya Kato, 他	呼吸器外科	Prediction of Pulmonary Embolism Following Resection of Pulmonary Infarction: A Case Series	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2021 May 14; doi: 10.5761/atcs.0a.20-00396.	Case report
201	Shiia H, Nakajima J, Date H, 他	呼吸器外科	Outcomes of lung transplantation for idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	Surg Today. 2021 Feb 12; doi: 10.1007/s00595-021-02232-6. Epub ahead of	Others
202	Jenny Lou, Masato Aragaki, Nicholas Bernards, 他	呼吸器外科	Repeated porphyrin lipoprotein-based photodynamic therapy controls distant disease in mouse mesothelioma via the	Nanophotonics 2021; 10 (12):3279-3294 published online August 2, 2021	Original Article
203	Akihiro Sasaki, Tatsuya Kato, Hideki Ujiiie, 他	呼吸器外科	Thymoma-Related Stiff-Person Syndrome with Successfully Treated by Surgery	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 July 16; cr.21-00052	Case report
204	Haruhiko Shiia, Hideki Ujiiie, Yasuhiro Hida, 他	呼吸器外科	Elevated serum CYFRA 21-1 level as a diagnostic marker for thymic carcinoma	Thorac Cancer. 2021 Nov;12(21):2933-2942. doi: 10.1111/1759-7714.14158.	Original Article
205	Shinya Otsuka, Tatsuya Kato, Hideki Ujiiie, 他	呼吸器外科	Surgical treatment for tracheal stent prolapse in a patient with blunt tracheal trauma	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Sep 28; Online ahead of print	Case report
206	Fujiwara-Kuroda A, Nozomu Iwashiro, Ohara M, 他	呼吸器外科	Successful Treatment for a Large Chronic Expanding Hematoma Treated by Pneumonectomy after Arterial	Case Rep Pulmonol. 2022 Feb 18;2022:1932420.	Case report
207	Naka T, Hatanaka Y, Tabata Y, 他	呼吸器外科	Identification of Novel Diagnostic Markers for Malignant Pleural Mesothelioma Using a Reverse	Diagnostics (Basel). 2022 Jan 27;12(2):316.	Original Article
208	Otsuka S, Hiraoka K, Ohtaka K, 他	呼吸器外科	Small-sized peripheral squamous cell lung carcinoma with chest wall invasion.	Respir Med Case Rep. 2022 Jan 29;36:101589.	Case report
209	Motohashi Y, Kato T, Kato N, 他	呼吸器外科	Intralobar pulmonary sequestration associated with left main coronary artery obstruction and mitral regurgitation.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Dec;69(12):1575-1579.	Case report
210	Aragaki M, Hida Y, Kato T, 他	呼吸器外科	Feasibility of limited resection for peripheral small-sized non-small cell lung cancer: a retrospective single-	J Cancer Res Clin Oncol. 2021 May;147(5):1519-1527.	Original Article
211	Aragaki M, Kaga K, Hida Y, 他	呼吸器外科	A novel approach for the complete extraction of large tumours in video-assisted thoracoscopic surgery.	J Minim Access Surg. 2021 Jul-Sep;17(3):299-304.	Original Article
212	Shiia H, Suzuki Y, Yamazaki S, 他	呼吸器外科	Thoracoscopic Bronchial Artery Resection for Multiple Bronchial Artery Aneurysms.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Aug 20;27(4):260-263.	Case report
213	Matsumae G, Shimizu T, Tian Y, 他	整形外科	Targeting thymidine phosphorylase as a potential therapy for bone loss associated with periprosthetic	Bioeng Transl Med. 2021 Jun 8;6(3):e10232.	Original Article
214	Endo T, Kadoya K, Suzuki T, 他	整形外科	Mature but not developing Schwann cells promote axon regeneration after peripheral nerve injury.	NPJ Regenerative Medicine. 7:12, 2022.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
215	Iwasaki K,Kondo E,Endo K,他	整形外科	Effect of High Tibial Osteotomy on the Distribution of Subchondral Bone Density Across the Proximal Tibial	Am J Sports Med. 2021 May;49(6):1561-1569.	Original Article
216	Matsubara,Onodera T,Iwasaki K,他	整形外科	Discrepancy in the distribution patterns of subchondral bone density across the ankle joint after medial opening-wedge	Am J Sports Med. 2022 Feb;50(2):478-485.	Original Article
217	Xu L,Urita A,Onodera T,他	整形外科	Ultrapurified Alginate Gel Containing Bone Marrow Aspirate Concentrate Enhances Cartilage and Bone	Am J Sports Med. 2021 Jul;49(8):2199-2210.	Original Article
218	Matsubara S,Onodera T,Iwasaki K,他	整形外科	Hallux Valgus with Second Brachymetatarsia Discovered Accidentally: A Case Report.	J Foot Ankle Surg. 2021 Sep-Oct;60(5):1060-1062.	Case report
219	Tian Y,Onodera T,Terkawi MA,他	整形外科	Local Administration of Low-Dose Nerve Growth Factor Antibody Reduced Pain in a Rat Osteoarthritis Model.	Int J Mol Sci. 2021 Mar 4;22(5):2552.	Original Article
220	Ohnishi T,Ogawa Y,Suda K,他	整形外科	Molecular Targeted Therapy for the Bone Loss Secondary to Pyogenic Spondylodiscitis Using Medications for	Int J Mol Sci. 2021 Apr 24;22(9):4453.	Original Article
221	Tachi H,Kato K,Abe Y,他	整形外科	Surgical outcome prediction using a four-dimensional planning simulation system with finite element analysis	Front Bioeng Biotechnol. 2021 Oct 12;9:746902,2021	Original Article
222	Ebata T,Terkawi MA,Hamasaki M,他	整形外科	Flightless I is a catabolic factor of chondrocytes that promotes hypertrophy and cartilage degeneration in	iScience. 2021 Jun;24(6):102643.	Original Article
223	Ukeba D,Yamada K,Tsujimoto T,他	整形外科	Bone Marrow Aspirate Concentrate Combined with in Situ Forming Bioresorbable Gel Enhances	J Bone Joint Surg Am. 2021 Apr 21;103(8):e31.	Original Article
224	Yokota S,Sakamoto K,Shimizu Y,他	整形外科	Evaluation of whole-body modalities for diagnosis of multifocal osteonecrosis-a pilot study	Arthritis Res Ther. 2021 Mar 11;23(1):83.	Original Article
225	Shimoyama S,Nakagawa I,Jiang JJ,他	整形外科	Sjögren's syndrome-associated SNPs increase GTF2I expression in salivary gland cells to enhance inflammation	Int Immunol. 2021 Jul 23;33(8):423-434. doi: 10.1093/intimm/dxab025.	Original Article
226	Hamasaki M,Terkawi MA,Onodera T,他	整形外科	A Novel Cartilage Fragments Stimulation Model Revealed that Macrophage Inflammatory Response Causes an	Cartilage. 2021 Jul;12(3):354-61.	Original Article
227	Liang D,Onodera T,Hamasaki M,他	整形外科	Quantification of Cartilage Surface Degeneration by Curvature Analysis Using 3D Scanning in a Rabbit Model.	Cartilage. 2021 Dec;13(2_suppl):1734S-1741S	Original Article
228	Numaguchi K,Momma D,Matsui Y,他	整形外科	Changes in elbow joint contact area in symptomatic valgus instability of the elbow in baseball players.	Sci Rep. 2021 Oct 5;11(1)	Original Article
229	Momma D,Espinoza Orías AA,Irie T,他	整形外科	Four-dimensional computed tomography evaluation of shoulder joint motion in collegiate baseball pitchers.	Sci Rep. 2022 Feb 25;12(1):3231.	Original Article
230	Yokota S,Matsumae G,Shimizu T,他	整形外科	Cardiotrophin Like Cytokine Factor 1 (CLCF1) alleviates bone loss in osteoporosis mouse models by	Bone. 2021 Dec;153:116140.	Original Article
231	Kaibara T,Wang L,Tsuda M,他	整形外科	Hydroxyapatite-hybridized double-network hydrogel surface enhances differentiation of bone marrow-derived	J Biomed Mater Res A. 2022 Apr;110(4):747-760.	Original Article
232	Hontani K,Matsui Y,Kawamura D,他	整形外科	Stress distribution pattern in the distal radioulnar joint before and after ulnar shortening osteotomy in patients with	Sci Rep. 2021 Sep 9;11(1):17891.	Original Article
233	Ura K,Yamada K,Tsujimoto T,他	整形外科	Ultra-purified alginate gel implantation decreases inflammatory cytokine levels, prevents intervertebral disc	Sci Rep. 2021 Jan 12;11(1):638.	Original Article
234	Endo T,Koike Y,Miyoshi H,他	整形外科	Close association between non-alcoholic fatty liver disease and ossification of the posterior longitudinal ligament of the	Sci Rep. 2021 Aug 31;11(1):17412.	Original Article
235	Sudo H,Tachi H,Kokabu T,他	整形外科	In vivo deformation of anatomically pre-bent rods in thoracic adolescent idiopathic scoliosis.	Sci Rep. 2021 Jun 16;11(1):12622.	Original Article
236	Miura S,Iwasaki K,Kondo E,他	整形外科	Stress on the posteromedial region of the proximal tibia increased over time after anterior cruciate ligament injury.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2022 May;30(5):1744-1751.	Original Article
237	Kokabu T,Kanai S,Kawakami N,他	整形外科	An algorithm for using deep learning convolutional neural networks with three dimensional depth sensor imaging in	Spine J 21(6):980-987, 2021	Original Article
238	Hao W,Zhao W,Kimura T,他	整形外科	Association of gait with global cognitive function and cognitive domains detected by MoCA-J among community-dwelling	BMC Geriatrics. 2021 Oct 2;21(1):523.	Original Article
239	Kobayashi H,Fujita R,Hiratsuka S,他	整形外科	Differential effects of anti-RANKL monoclonal antibody and zoledronic acid on necrotic bone in a murine model of	J Orthop Res. 2022 Mar;40(3):614-623	Original Article
240	Tsujimoto T,Endo T,Menjo Y,他	整形外科	Exceptional Conditions for Favorable Neurological Recovery After Laminoplasty in Cases with Cervical	Spine (Phila Pa 1976). 2021 Aug 1;46(15):990-998.	Original Article
241	Matsuoka M,Onodera T,Yokota I,他	整形外科	Surgical Resection of Primary Tumor in the Extremities Improves Survival for Metastatic Soft-Tissue Sarcoma	Clin Transl Oncol. 2021 Dec;23(12):2474-2481.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
242	Irie TY,Irie T,Espinoza Orías AA,他	整形外科	Micro-computed tomography analysis of the lumbar pedicle wall.	PLoS One. 2021 Jul 8;16(7):e0253019	Original Article
243	Yamada K,Nagahama K,Abe Y,他	整形外科	Morphological analysis of Kambin's triangle using 3D CT/MRI fusion imaging of lumbar nerve root created	Eur Spine J. 2021 Aug;30(8):2191-2199.	Original Article
244	Ishizu H,Shimizu H,Shimizu T,他	整形外科	Rheumatoid Arthritis is a Risk Factor for Refracture in Patients with Fragility Fractures	Mod Rheumatol. [published online ahead of print, 2021 Dec 3]	Original Article
245	Fujieda Y,Horita T,Nishimoto N,他	整形外科	Efficacy and safety of sodium Risedronate for glucocorticoid-induced Osteoporosis with rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2021 May;31(3):593-599.	Original Article
246	Endo T,Imagama S,Kato S,他	整形外科	Association Between Vitamin A Intake and Disease Severity in Early-Onset Heterotopic Ossification of the Posterior	Global Spine J. 2021 Jan 25:2192568221989300.	Original Article
247	Endo T,Koike Y,Hisada Y,他	整形外科	Aggravation of Ossified Ligamentum Flavum Lesion Is Associated With the Degree of Obesity.	Global Spine J. 2021 Oct 6:21925682211031514.	Original Article
248	Momma D,Onodera T,Kawamura D,他	整形外科	An Acellular Cartilage Repair Technique Based on Ultrapurified Alginate Gel Implantation for Advanced Capitellar	Orthop J Sports Med. 2021 Mar 11;9(3):2325967121989676.	Original Article
249	Numaguchi K,Momma D,Matsui Y,他	整形外科	Stress distribution pattern across the glenohumeral joint in collegiate and professional baseball players: A	Orthop J Sports Med. 9(6):23259671211009185,2021	Original Article
250	Matsui Y,Horie T,Iwasaki N	整形外科	Ulnar nerve morphology during elbow flexion in patients with and without cubital tunnel syndrome: a sonographic	J Hand Surg Eur Vol. 2022 Feb;47(2):218-220.	Original Article
251	Shimizu T,Arita K,Murota E,他	整形外科	Effects after starting or switching from bisphosphonate to romosozumab or denosumab in Japanese postmenopausal	J Bone Miner Metab. 2021 Sep;39(5):868-875.	Original Article
252	Nakamura Y,Shimizu T,Asano T,他	整形外科	Short-term efficacy and safety of zoledronate acid or denosumab in Japanese patients with postmenopausal	J Bone Miner Metab. 2021 Sep;39(5):824-832.	Original Article
253	Kato M,Michigami T,Kato M,他	整形外科	Novel Mutation in the ALPL Gene with a Dominant Negative Effect in a Japanese Family.	J Bone Miner Metab, 2021 Sep;39(5):804-809.	Original Article
254	Kameda T,Kondo E,Onodera T,他	整形外科	Changes in the Contact Stress Distribution Pattern of the Patellofemoral Joint After Medial Open-	Orthop J Sport Med. 2021;9(4):232596712199805.	Original Article
255	Itoga R,Matsuoka M,Onodera T,他	整形外科	Brain Metastasis in Soft Tissue Sarcoma at Initial Presentation.	Anticancer Res. 2021 Nov;41(11):5611-5616.	Original Article
256	Ike S,Matsuoka M,Onodera T,他	整形外科	Primary Malignant Osseous Neoplasms in the Hand.	Anticancer Res. 2022 Mar;42(3):1635-1640.	Original Article
257	Kataoka Y,Shimizu T,Takeda R,他	整形外科	Effects of unweighting on gait kinematics during walking on a lower-body positive-pressure treadmill in patients with hip	BMC Musculoskelet Disord. 2021 Jan 8;22(1):46. d	Original Article
258	Takahashi D,Noyama Y,Asano T,他	整形外科	Finite element analysis of double-plate fixation using reversed locking compression-distal femoral plates for	BMC Musculoskelet Disord. 2021 Mar 13;22(1):276.	Original Article
259	Kondo E,Kawaguchi Y,Yokota M,他	整形外科	Implantation of autogenous meniscal fragments wrapped with a fascia sheath induces fibrocartilage regeneration in a	Orthop Traumatol Surg Res in press	Original Article
260	Yamaguchi J,Yasuda K,Kondo E,他	整形外科	Extrusion of the medial meniscus is a potential predisposing factor for post-arthroscopy osteonecrosis of the knee.	BMC Musculoskeletal Disorders. 2021 Oct 5;22(1):852	Original Article
261	Matsui Y,Horie T,Funakoshi T,他	整形外科	Dynamic Evaluation of Intraneural Microvasculature of the Ulnar Nerve Using Contrast-Enhanced	J Hand Surg Am. 2021. In press.	Original Article
262	Suzuki R,Koike Y,Ota M,他	整形外科	Thrombocytopenia Associated with Unrecognized Non-Alcoholic Fatty Liver Disease Is an Independent Predictor of	World Neurosurg. 2021 Nov;155:e797-e804.	Original Article
263	Ohnishi T,Suda K,Komatsu M,他	整形外科	Morphologic Changes in the Vertebral Artery Subsequent to Cervical Spine Degeneration and Aging: Analyses by	World Neurosurg. 2021 Jun;150:e686-e695.	Original Article
264	Kokabu T,Abe Y,Yamada K,他	整形外科	Impact of multilevel facetectomy on segmental spinal flexibility in patients with thoracic adolescent idiopathic	Clin Biomech. 2021 Mar;83:105296	Original Article
265	Oe Y,Kameda H,Nomoto H,他	整形外科	Favorable effects of beروسuab on tumor-induced osteomalacia caused by an undetectable tumor.	Medicine (Baltimore). 2021 Nov 19;100(46):e27895.	Original Article
266	Kaibara T,Kondo E,Matsuoka M,他	整形外科	Medial closed-wedge distal femoral osteotomy with local bone grafts for large collapsed steroid-induced	J Orthop Sci. 2021 Aug 4: S0949-2658(21)00213-X.	Case report
267	Matsui Y,Momma D,Suenaga N,他	整形外科	Computed tomography revealed the correlation between radiolucency and alignment of all-polyethylene pegged	J Orthop Sci. 2021 Nov24;S0949-2658(21)00358-1	Original Article
268	Daisho T,Kagami K,Yamazaki K,他	整形外科	Therapeutic drug monitoring-enabled long-term use of linezolid for the successful treatment of refractory	J Orthop Sci. 2021 Dec 15:S0949-2658(21)00384-5.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
269	Fujita R,Oda I,Takeuchi H,他	整形外科	Accuracy of pedicle screw placement using patient-specific template guide system.	J Orthop Sci. 2022 Mar;27(2):348-354.	Original Article
270	Ota M,Urita A,Shibayama H,他	整形外科	Glenohumeral joint preservation using continuous intramedullary perfusion of high-concentration antibiotics in a	J Orthop Sci. 2021 Oct 26;S0949-2658(21)00337-7.	Case report
271	Itoga R,Matsuoka M,Onodera T,他	整形外科	Delayed Onset of Infectious Foreign Body Granuloma for Nonabsorbable Sutures After Open Achilles Tendon	J Foot Ankle Surg. 2021 Nov-Dec;60(6):1297-1300.	Case report
272	Yamada K,Takahata M,Ito M,他	整形外科	Risk factors of multidrug-resistant pyogenic spondylitis in thoraco-lumbar spine: A retrospective study of 122	J Orthop Sci. 2022 Jan;27(1):95-100.	Original Article
273	Yamamoto T,Hasegawa T,Fraitas PHL,他	整形外科	Histochemical characteristics on minimodeling-based bone formation induced by anabolic drugs for	Biomed Res. 2021;42(5):161-171.	Original Article
274	Hashimoto K,Hasegawa T,Yamamoto T,他	整形外科	Histological observation on the initial stage of vascular invasion into the secondary ossification of murine femoral	Biomed Res. 2021;42(4):139-151.	Original Article
275	Yamada K,Nagahama K,Abe Y,他	整形外科	Unintentional Fusion in Preserved Facet Joints without Bone Grafting after Percutaneous Endoscopic Transforaminal	Spine Surg Relat Res. 2021 Apr 14;5(6):390-396.	Original Article
276	Ishizu H,Arita K,Terkawi MA,他	整形外科	Risks vs. benefits of switching therapy in patients with postmenopausal osteoporosis.	Expert Rev Endocrinol Metab. 2021 Sep;16(5):217-228.	Original Article
277	Fukuda R,Matsuoka M,Kawamura D,他	整形外科	Intra-articular Osteoid Osteoma at the Elbow Mimicking Arthritis: A Case Report.	Ann Jt. In press.	Case report
278	Matsuoka M,Okamoto M,Soma T,他	整形外科	Impact of Smoking History on Pulmonary Metastasis-free Survival in Patients With Soft-tissue Sarcoma.	Cancer Diagnosis & Prognosis.2021 May 3;1(2):89-94.	Original Article
279	Yamada K,Maeda K,Ito YM,他	整形外科	Exploratory clinical trial on the safety and capability of dMD-001 in lumbar disc herniation: Study protocol for a	Contemp Clin Trials Commun. 2021 Jun 29;23:100805.	Original Article
280	Tanabe T,Hotta K,Iwahara N,他	泌尿器科	Spontaneous closure of arteriovenous fistula after kidney transplantation..	Int J Urol. 2021 Aug;28(8):872-873.	Original Article
281	Kikuchi H,Osawa T,Matsumoto R,他	泌尿器科	Efficacy of nivolumab plus ipilimumab as first-line therapy for primary tumors in patients with renal cell carcinoma.	Urol Oncol. 2022 Jan;40(1):13.e19-13.e27.	Original Article
282	Yamada S,Abe T,Sazawa A,他	泌尿器科	Comparative study of postoperative complications after radical cystectomy during the past two decades in Japan:	Urol Oncol. 2022 Jan;40(1):11.e17-11.e25.	Original Article
283	Kon M,Nakamura M,Moriya K,他	泌尿器科	What are the Optimal Renal Ultrasound Parameters for Detecting Small Kidney in Young Children?	Res Rep Urol. 2021 Oct 27;13:767-772.	Original Article
284	Kikuchi H,Abe T,Matsumoto R,他	泌尿器科	Outcomes of bacillus Calmette-Guérin therapy without a maintenance schedule for high-risk non-muscle-invasive	Int J Urol. 2022 Mar;29(3):251-258.	Original Article
285	Konno M,Osawa T,Hotta K,他	泌尿器科	Primary renal leiomyosarcoma with a tumor thrombus in the inferior vena cava.	IJU Case Rep. 2021 Nov 19;5(1):66-69.	Case report
286	Nakamura M,Moriya K,Kon M,他	泌尿器科	Girls and renal scarring as risk factors for febrile urinary tract infection after stopping antibiotic prophylaxis in	World J Urol. 2021 Jul;39(7):2587-2595.	Original Article
287	Kusakabe N,Kitta T,Chiba H,他	泌尿器科	A case of pubic osteomyelitis after implantation of an artificial urinary sphincter	Low Urin Tract Symptoms. 2022 Jan;14(1):78-81.	Case report
288	Iwahara N,Abe T,Nagai S,他	泌尿器科	Postoperative thyroid storm after radical nephrectomy for renal cell carcinoma with inferior vena cava tumor thrombus.	IJU Case Rep. 2021 Jul 13;4(5):330-332. doi: 10.1002/iju5.12341	Case report
289	Kazuyuki Mizunoya,Yasunori Yagi,Yuji Morimoto,他	麻酔科	Altered microvascular reactivity assessed by near-infrared spectroscopy after hepato-biliary-pancreatic surgery	Journal of clinical monitoring and computing 2021 Apr 7	Original Article
290	Yusuke Itosu,Yasunori Kubo,Mamoru Morikawa,他	麻酔科	Changes of cerebral oxygenation indices measured by near infrared time-resolved spectroscopy after spinal anesthesia for	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 47(7);2371-2379:2021	Original Article
291	Katsuhiko Aikawa,Isao Yokota,Yosuke Maeda,他	麻酔科	Evaluation of anesthetized dermatomes obtained by the modified-thoracoabdominal nerves block through	Regional Anesthesia & Pain Medicine 2022 Feb ;47(2):134-135.	Original Article
292	Takashi Soejima,Kazuyuki Mizunoya,Yuki Izumi,他	麻酔科	Clinical significance of leukopenia just after endovascular surgery.	Journal of Anesthesia.2021 Nov 13.	Original Article
293	Yosuke Uchida,Toshikazu Hashimoto,Hitoshi	麻酔科	Neonatal isoflurane exposure disturbs granule cell migration in the rat dentate gyrus	Biomedical research Tokyo 2022;43(1):1-9.	Original Article
294	T Maeda,E Funayama,Y Yamamoto,他	形成外科	Long-term outcomes and recurrence-free interval after the treatment of keloids with a standardized protocol	J Tissue Viability . 2021 Feb;30(1):128-132. doi: 10.1016/j.jtv.2020.11.003.	Original Article
295	Hiroko Takahashi,Shunsuke Ohnishi,Yuhei	形成外科	Topical Application of Conditioned Medium from Hypoxically Cultured Amnion-Derived Mesenchymal Stem	Plast Reconstr Surg . 2021 Jun 1;147(6):1342-1352. doi: 10.1097/PRS.00000000000007	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
296	Takahiro Miura ,Yuhei Yamamoto,Naoki Muraο,他	形成外科	Combined internal and external negative pressure wound therapy: breakthrough treatment for lymphocutaneous	Surg Today . 2021 Oct;51(10):1630-1637. doi: 10.1007/s00595-021-02283-	Original Article
297	Toshihiko Hayashi,Taku Maeda,Yuhei	形成外科	New Design Concept of Nasolabial Flap for the Reconstruction of a Complex Defect in the Alar Base	Facial Plast Surg . 2021 Feb;37(1):134-135. doi: 10.1055/s-0040-1717090.	Case report
298	Masayuki Osawa,Yuhei Yamamoto,Munezumi Fujiita,他	形成外科	Novel Surgical Technique for Correction of Incomplete Median Cleft Lip Deformity in Oral-Facial-Digital	J Craniofac Surg . 2021 Nov-Dec;32(8):e741-e742.	Case report
299	Kosuke Ishikawa,Munezumi Fujiita,Satoru Sasaki	形成外科	Auricular Arteriovenous Malformation With Macrotia Treated With Transcatheter Arterial Embolization,	J Craniofac Surg . 2021 Jul-Aug;32(5):e489-e490.	Case report
300	KosukeIshikawa,Taku Maeda,ToshihikoHaya shi,他	形成外科	Iatrogenic third-degree burn caused by off-label use of an infrared radiant heat lamp in a patient with accidental	BurnsOPEN Volume 5, Issue 1, January 2021, Pages 21-24	Case report
301	Shinya Otsuka ,Hideki Ujiie ,Kosuke Ishikawa 他	形成外科	Novel Treatment of Widespread Empyema Necessitatis	Ann Thorac Surg . 2021 Dec;112(6):e471. doi: 10.1016/j.athoracsur.2021.0	Case report
302	Riri Ito,Yuhei Yamamoto,Taku Maeda,他	形成外科	Breast reconstruction via fat grafting for a patient with bilateral congenital amastia (Finlay-Marks syndrome)	Congenit Anom (Kyoto) . 2021 Jul;61(4):142-143. doi: 10.1111/cga.12416. Epub	Case report
303	Erika Guilpain Kusajima,Taku Maeda,Naoki Muraο,	形成外科	Cleft lip in oto-palato-digital syndrome type I	Congenit Anom (Kyoto) . 2021 May;61(3):103-104. doi: 10.1111/cga.12409.	Case report
304	Gando S,Wada T	救急科	Thromboplasminflammation in COVID-19 Coagulopathy: Three Viewpoints for Diagnostic and Therapeutic Strategies	Front Immunol. 2021 Jun 11;12:649122.	Original Article
305	Tsuchida T,Wada T,Gando S	救急科	Coagulopathy Induced by Venο-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation Is Associated With a Poor Outcome in	Front Med (Lausanne). 2021 Apr 30;8:651832.	Original Article
306	Wada T,Gando S	救急科	Disseminated intravascular coagulation immediately after trauma predicts a poor prognosis in severely injured patients	Sci Rep. 2021 May 26;11(1):11031.	Original Article
307	Tsuchida T,Maekawa K,Wada T,他	救急科	Simultaneous external validation of various cardiac arrest prognostic scores: a single-center retrospective study	Scand J Trauma Resusc Emerg Med 2021.8	Original Article
308	Hayakawa M,Tsuchida T,Honma Y,他	救急科	Fibrinolytic system activation immediately following trauma was quickly and intensely suppressed in a rat model	Sci Rep. 2021 Oct 13;11(1):20283.	Original Article
309	Wada T,Gando S	救急科	Pathophysiology of Coagulopathy Induced by Traumatic Brain Injury Is Identical to That of Disseminated	Front Med (Lausanne). 2021 Nov 15;8:767637.	Original Article
310	Tsuchida T	救急科	Erratum to: Pseudo-cardiac tamponade owing to a large hiatal hernia	Oxf Med Case Reports. 2021 Dec 28;2021(11-12):omab140.	Case report
311	Gando S,Wada T	救急科	Pathomechanisms Underlying Hypoxemia in Two COVID-19-Associated Acute Respiratory Distress Syndrome	Shock. 2022 Jan 1;57(1):1-6.	Original Article
312	Oshima Y,Takahashi- Iwata I,Sato S,他	脳神経内科	Pearls & Oy-sters: Adult-Onset Alexander Disease With Transient Swelling of the Medulla Oblongata.	Neurology. 2021 May 26;10.1212/WNL.0000000000012268. doi:	Others
313	Eguchi K,Shirai S,Matsushima M,他	脳神経内科	Correlation of active contact location with weight gain after subthalamic nucleus deep brain stimulation: a case	BMC Neurol 21(1):351, 2021.09	Original Article
314	Iwami K,Takahashi- Iwata I,Eguchi K,他	脳神経内科	Anti-myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated encephalitis with cortical hyperintensity	Neuroimmunology Reports Volume 1, December 2021, 100032	Case report
315	Eguchi K,Shirai S,Matsushima M,他	脳神経内科	Chronic deep brain stimulation reduces cortical beta-gamma phase amplitude-coupling in patients with Parkinson's	Parkinsonism Relat Disord 89:148-150, 2021.08	Original Article
316	Fukutsu K,Kase S,Iwata D,他	眼科	The Expression of Matrix Metalloproteinases in Eyes with Intraocular Lymphoma	Ocul Immunol Inflamm. 2021 Aug 11:1-5	Original Article
317	Kase S,Endo H,Takahashi M,他	眼科	Choroidal vascular structures in diabetic patients: a meta-analysis	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2021 Dec;259(12):3537-3548	Original Article
318	Kase S,Namba K,Iwata D,他	眼科	Clinical Features of Primary Vitreoretinal Lymphoma: A Single-center Study	Cancer Diagn Progn. 2021 May 3;1(2):69-75.	Original Article
319	Fukutsu K,Murata M,Kikuchi K,他	眼科	ROCK1 Mediates Retinal Glial Cell Migration Promoted by Acrolein	Front Med (Lausanne). 2021 Sep 3;8:717602.	Original Article
320	Shinkai A,Saito W,Hashimoto Y,他	眼科	Morphological features of macular telangiectasia type 2 in Japanese patients	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2021 May;259(5):1179-1189.	Original Article
321	Kanaya R,Kijima R,Shinmei Y,他	眼科	Surgical Outcomes of Trabeculectomy in Uveitic Glaucoma: A Long-Term, Single-Center, Retrospective Case-	J Ophthalmol. 2021 May 21;2021:5550776.	Original Article
322	Kase S,Noda K,Ishida S	眼科	Histological observation in pachyvessels in a patient with choroidal melanoma	Int J Ophthalmol. 2021 May 18;14(5):777-779.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
323	Hase K,Namba K,Wada H,他	眼科	Macrophage-like iPS-derived Suppressor Cells Reduce Th1-mediated Immune Response to a Retinal Antigen	Curr Eye Res. 2021 Dec;46(12):1908-1916.	Original Article
324	Kado R,Kase S,Suimon Y,他	眼科	A case of pleomorphic adenoma of the lacrimal gland invading the lower orbit	Orbit. 2021 Jun 21:1-3.	Original Article
325	Suzuki K,Namba K,Mizuuchi K,他	眼科	Development of cytomegalovirus retinitis after negative conversion of cytomegalovirus antigenemia due to	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2021 Apr;259(4):971-978.	Original Article
326	Yamashita Y,Hashimoto Y,Namba K,他	眼科	Optic Nerve Head Microcirculation in Eyes with Vogt-Koyanagi-Harada Disease Accompanied by Anterior	Case Rep Ophthalmol. 2021 Nov 8;12(3):899-908.	Case report
327	Hase K,Kase S,Kanda A,他	眼科	Expression of Vascular Endothelial Growth Factor-C in the Trabecular Meshwork of Patients with Neovascular	J Clin Med. 2021 Jul 2;10(13):2977.	Original Article
328	Yamamoto T,Kase S,Murata M,他	眼科	Serum advanced glycation end-products and alphaB-crystallin in diabetic retinopathy patients	Biomed Rep. 2022 Apr;16(4):28.	Original Article
329	Suzuki K,Namba K,Mizuuchi K,他	眼科	Correction to: Development of cytomegalovirus retinitis after negative conversion of cytomegalovirus	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2021 Apr;259(4):1083.	Original Article
330	Yamashita Y,Saito M,Hirooka K,他	眼科	Laser speckle flowgraphy findings in focal scleral nodule	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2022 Feb;260(2):697-700	Original Article
331	Shinkai A,Shinmei Y,Takahashi A,他	眼科	Cerebrospinal fluid hypovolemia syndrome mimicking ocular myasthenia gravis: A case report	Am J Ophthalmol Case Rep. 2022 Mar 15;26:101478.	Case report
332	Suzuki K,Namba K,Hase K,他	眼科	A case of Epstein-Barr virus acute retinal necrosis successfully treated with foscarnet	Am J Ophthalmol Case Rep. 2022 Jan 29;25:101363.	Case report
333	Kase S,Hasegawa A,Hirooka K,他	眼科	Laser speckle flowgraphy findings in a patient with radiation retinopathy	Int J Ophthalmol. 2022 Jan 18;15(1):172-174.	Original Article
334	Kase S,Endo H,Takahashi M,他	眼科	Involvements of choroidal vascular structures with local treatments in patients with diabetic macular edema	Eur J Ophthalmol. 2022 Jan;32(1):450-459.	Original Article
335	Hirooka K,Saito M,Yamashita Y,他	眼科	Imbalanced choroidal circulation in eyes with asymmetric dilated vortex vein	Jpn J Ophthalmol. 2022 Jan;66(1):14-18.	Original Article
336	Kase S,Namba K,Iwata D,他	眼科	Diagnostic Accuracy of Cell Block Preparations and Clinical Features Affecting It in Vitreoretinal Lymphoma	J Clin Med. 2022 Mar 3;11(5):1391.	Original Article
337	Shinagawa M,Namba K,Mizuuchi K,他	眼科	The Steroid-Sparing Effect of Adalimumab in the Treatment for the Recurrent Phase of Vogt-Koyanagi-	Ocul Immunol Inflamm. 2022 Feb 25:1-5.	Original Article
338	Mitamura M,Kase S,Suzuki Y,他	眼科	Follicular lymphoma of the ocular adnexa: Clinicopathological findings with flow cytometry analysis of eight cases	Eur J Ophthalmol. 2022 May;32(3):1760-1765.	Original Article
339	Mitamura M,Noda K,Kase S,他	眼科	Retinal hypoperfusion detected by wide-field optical coherence tomographic angiography in a case of retinal	Retin Cases Brief Rep. 2022 Mar 2.	Case report
340	Suimon Y,Kase S,Mitsuhashi T,他	眼科	Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma of the Conjunctiva: A Case Report and Review of the Literature	Cancer Diagn Progn. 2022 Mar 3;2(2):232-239.	Case report
341	Wu DI,Kase S,Liu YE,他	眼科	Downregulation of AlphaB-crystallin in Retinal Pigment Epithelial Cells Exposed to Diabetes-related Stimuli In Vivo and	In Vivo. 2022 Jan-Feb;36(1):132-139.	Original Article
342	Tanaka T,Kase S,Ishida S	眼科	A case of spontaneous avulsion of primary pterygium analyzed with anterior segment optical coherence tomography	Am J Ophthalmol Case Rep. 2022 Feb 19;26:101438.	Case report
343	Fujita Y,Kase S,Ishida S	眼科	Molluscum contagiosum of the corneal limbus in an AIDS patient: a clinicopathological case report	BMC Ophthalmol. 2022 Feb 21;22(1):83.	Case report
344	Suzuki M,Suzuki T,Watanabe M,他	耳鼻咽喉科	Role of intracellular zinc in molecular and cellular function in allergic inflammatory diseases.	Allergol Int. 70:190-200,2021	Original Article
345	Suzuki M,Cooksley C,Suzuki T,他	耳鼻咽喉科	TLR Signals in Epithelial Cells in the Nasal Cavity and Paranasal Sinuses.	Frontiers in Allergy. 22 November 2021 https://doi.org/10.3389/falga	Original Article
346	Suzuki M,Connell J,Psaltis AJ	耳鼻咽喉科	Pediatric allergic fungal rhinosinusitis: optimizing outcomes.	Curr Opin Otolaryngol Head Neck Surg. 29: 510-516, 2021	Original Article
347	Kano S,Tsushima N,Suzuki T,他	耳鼻咽喉科	Predictors of the need for prophylactic percutaneous endoscopic gastrostomy in head and neck cancer patients treated	Int J Clin Oncol 2021 Jul;26(7):1179-1187. doi: 10.1007/s10147-021-01889-	Original Article
348	Fujiwara K,Morita S,Fukuda A,他	耳鼻咽喉科	Usefulness of the Video Head Impulse Test for the Evaluation of Vestibular Function in Patients With Otitis Media	Otol Neurotol 2021 Apr 1;42(4):e483-e488. doi: 10.1097/MAO.0000000000000000	Original Article
349	Fujiwara K,Morita S,Fukuda A,他	耳鼻咽喉科	Characteristics of and Prognosis for Facial Palsy in Patients With Otitis Media With ANCA-Associated	Characteristics of and Prognosis for Facial Palsy in Patients With Otitis Media	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
350	Suzuki M, Ramezanpour M, Cooksley C, 他	耳鼻咽喉科	Metallothionein-3 is a clinical biomarker for tissue zinc levels in nasal mucosa.	Auris Nasus Larynx. 2021 Oct;48(5):890-897. doi: 10.1016/j.anl.2021.01.019.	Original Article
351	Suzuki M, Vyskocil E, Ogi K, 他	耳鼻咽喉科	Remote Training of Functional Endoscopic Sinus Surgery With Advanced Manufactured 3D Sinus	Front Surg 2021 Oct 1;8:746837. doi: 10.3389/fsurg.2021.746837.	Original Article
352	Nakazono A, Nakamaru Y, Ramezanpour M, 他	耳鼻咽喉科	Fluticasone Propionate Suppresses Poly(I:C)-Induced ACE2 in Primary Human Nasal Epithelial Cells.	Front Cell Infect Microbiol 2021 Apr 26;11:655666. doi: 10.3389/fcimb.2021.655666.	Original Article
353	Fukuda A, Kano S, Nakamaru Y, 他	耳鼻咽喉科	Notch Signaling in Acquired Middle Ear Cholesteatoma.	Otol Neurotol 2021 Oct 1;42(9):e1389-e1395. doi: 10.1097/MAO.0000000000000000	Original Article
354	Yokokawa T, Ariizumi Y, Hiramatsu M, 他	耳鼻咽喉科	Management of tracheostomy in COVID-19 patients: The Japanese experience.	Auris Nasus Larynx 2021 Jun;48(3):525-529. doi: 10.1016/j.anl.2021.01.006.	Original Article
355	Fujiwara K, Fukuda A, Morita S, 他	耳鼻咽喉科	Psychological evaluation for patients with non-cured facial nerve palsy.	Auris Nasus Larynx 2022 Feb;49(1):53-57. doi: 10.1016/j.anl.2021.04.007.	Case report
356	Morita S, Nakamaru Y, Fukuda A, 他	耳鼻咽喉科	The Quantification of Extracellular Trap Cell Death-Derived Products as Diagnostic Biomarkers for Otitis Media	Otol Neurotol 2022 Mar 1;43(3):e337-e343. doi: 10.1097/MAO.0000000000000000	Case report
357	Tsushima N, Kano S, Suzuki T, 他	耳鼻咽喉科	Salvage surgery improves the treatment outcome of patients with residual/recurrent maxillary sinus cancer	Eur Arch Otorhinolaryngol 2022 Feb;279(2):899-905. doi: 10.1007/s00405-021-	Case report
358	Kimura S, Suzuki M, Honma A, 他	耳鼻咽喉科	Objective evaluation of caudal deviation of the nasal septum and selection of the appropriate septoplasty technique.	Auris Nasus Larynx 2022 Feb;49(1):67-76. doi: 10.1016/j.anl.2021.04.012.	Case report
359	Fujimura Y, Watanabe M, Ohno K, 他	皮膚科	Hair follicle stem cell progeny heal blisters while pausing skin development.	EMBO reports 22: e50882, 2021.	Original Article
360	Fujita Y, Komatsu M, Lee SE, 他	皮膚科	Intravenous injection of Muse cells as a potential therapeutic approach for epidermolysis bullosa.	J Invest Dermatol 141: 198-202, 2021.	Review
361	Fujita Y, Nohara T, Takashima S, 他	皮膚科	Intravenous allogeneic multilineage-differentiating stress-enduring cells in adults with dystrophic epidermolysis	J Eur Acad Dermatol Venereol 35: e528-e531, 2021.	Letter
362	Imafuku K, Kamaguchi M, Natsuga K, 他	皮膚科	Zonula occludens-1 demonstrates a unique appearance in buccal mucosa over several layers.	Cell Tissue Res 384: 691-702, 2021.	Original Article
363	Inamura E, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	A rare site of subcutaneous lipoma on the middle finger: Case report and analysis of affected sites in 126 cases at	Dermatol Ther 34: e14973, 2021.	Case report
364	Inamura E, Tsujiwaki M, Ujiie H, 他	皮膚科	Bullous pemphigoid associated with psoriasis showing marked neutrophilic infiltrates.	J Dtsch Dermatol Ges 19: 105-108, 2021.	Letter
365	Inamura E, Yamaguchi Y, Fujimura Y, 他	皮膚科	A case of drug-induced amicrobial pustulosis of the folds.	J Dtsch Dermatol Ges 19: 430-433, 2021.	Case report
366	Iwata H, Haga N, Sugai T, 他	皮膚科	Serum Krebs von den Lungen-6 levels in psoriatic patients under treatment with biologics.	J Dermatol 48: 376-379, 2021.	Others
367	Iwata H, Haga N, Ujiie H	皮膚科	Possible role of epiregulin from dermal fibroblasts in the keratinocyte hyperproliferation of psoriasis.	J Dermatol 48: 1433-1438, 2021.	Others
368	Kawamura T, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Dermoscopic features of sebaceous carcinoma of the nipple.	J Dermatol 48: e327-e328, 2021.	Letter
369	Kawamura T, Kitamura S, Mai Y, 他	皮膚科	A case of vesiculobullous adult T-cell leukemia/lymphoma with a poor prognosis.	J Dermatol 48: e196-e197, 2021.	Case report
370	Miyamoto K, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Sorafenib-Related Basal Cell Carcinoma.	Dermatol Surg 47: 1269-1270, 2021.	Case report
371	Miyamoto K, Yanagi T, Maeda T, 他	皮膚科	Dermoscopic features of haemorrhagic schwannoma.	Australas J Dermatol 62: e322-e323, 2021.	Case report
372	Miyauchi T, Suzuki S, Takeda M, 他	皮膚科	Altered replication stress response due to CARD14 mutations promotes recombination-induced revertant	Am J Hum Genet 108: 1026-1039, 2021.	Original Article
373	Narahira A, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Multiple squamous cell carcinomas arising on an epidermal nevus harboring HRAS p.G13R mutation.	J Dermatol 48: e92-e93, 2021.	Case report
374	Nohara T, Yanagi T, Yabe I, 他	皮膚科	Familial chilblain lupus with TREX1 mutation and cerebrovascular disease.	Lancet Rheumatology 2: e724, 2021.	Others
375	Nohara T, Natsuga K, Yasuoka A, 他	皮膚科	Unilateral Naevoid Telangiectasia Associated with Oral Contraceptive.	Acta Dermato-Venereologica 101: adv00595, 2021.	Others
376	Orita A, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Ultrasonographic features of myxoid neurofibroma: Report of a case on the abdomen.	J Dermatol 48: e9-e10, 2021.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
377	Shimano M, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Pigmented eccrine poroma on the palm mimicking seborrheic keratosis: Dermoscopic findings and a review of	Australas J Dermatol 62: e477-e479, 2021.	Case report
378	Shimano M, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Spindle cell lipoma with a palisading pattern: A case report.	J Dermatol 48: e351-e352, 2021.	Case report
379	Shimano M, Miyauchi T, Yanagi T, 他	皮膚科	Development of Verruca Plana from Human Papillomavirus 78 Dependent on Host Immune State.	Acta Derm Venereol 101: adv00608, 2021.	Others
380	Tokuchi K, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Loss of FAM83H promotes cell migration and invasion in cutaneous squamous cell carcinoma via impaired	J Dermatol Sci 104: e112-e121, 2021.	Original Article
381	Ujiiie I, Iwata H, Yoshimoto N, 他	皮膚科	Clinical characteristics and outcomes of bullous pemphigoid patients with versus without oral prednisolone treatment.	J Dermatol 48: 502-510, 2021.	Original Article
382	Watanabe M, Kosumi H, Osada SI, 他	皮膚科	Type XVII collagen interacts with the aPKC-PAR complex and maintains epidermal cell polarity.	Exp Dermatol 30: 62-67, 2021.	Others
383	Yoshimoto N, Takashima S, Kawamura T, 他	皮膚科	A case of non-bullous pemphigoid induced by IgG4 autoantibodies targeting BP230.	J Eur Acad Dermatol Venereol 35: e282-e285, 2021.	Case report
384	Yoshimoto N, Ujiiie I, Inamura E, 他	皮膚科	A case of mucous membrane pemphigoid with anti-BP230 autoantibodies alone.	Int J Dermatol 60: e92-e94, 2021.	Case report
385	Youh J, Imafuku K, Yanagi T, 他	皮膚科	Macrolide/fluoroquinolone-resistant Campylobacter jejuni-induced cellulitis in a patient with X-linked	Dermatol Ther 34: e15176, 2021.	Letter
386	Mai S, Yanagi T, Shimano M, 他	皮膚科	Case of hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer showing multiple cutaneous leiomyomas harboring a	J Dermatol 49: e42-e43, 2022.	Case report
387	Orita A, Kitamura S, Maeda T, 他	皮膚科	Hidradenitis suppurativa successfully treated with two-stage surgery under disease control with adalimumab.	J Dermatol 49: e1-e2, 2022.	Case report
388	Natsuga K	皮膚科	Prevention of chemotherapy-induced hair loss by PPARgamma modulation.	Br J Dermatol 186:14-14, 2022	Others
389	Kitamura S, Yanagi T, Maeda T, 他	皮膚科	Cyclin-dependent kinase 4/6 inhibitors suppress tumor growth in extramammary Paget's disease.	Cancer Sci: 113; 802-807, 2022.	Case report
390	Sugai T, Yamaguchi Y, Narahira A, 他	皮膚科	A toe ulcer in a patient with essential thrombocythemia successfully treated with a combination of anagrelide and	Dermatol Ther: 35:e15221. 2022.	Letter
391	Seo T, Kitamura S, Yanagi T, 他	皮膚科	Efficacy of a combination of paclitaxel and radiation therapy against cutaneous angiosarcoma: A single-institution	J Dermatol 49: 383-386, 2022	Others
392	Orita A, Miyauchi T, Ujiiie I, 他	皮膚科	Characteristic Linear and Zigzag Purpuric Lesions in a Patient with Long-term and Repeated Exposure to Bedbug	Acta Derm Venereol 102: adv00661, 2022.	Others
393	Hashimoto N, Takeda H, Fujii Y, 他	精神科神経科	Effectiveness of suicide prevention gatekeeper training for university teachers in Japan	Asian Journal of Psychiatry 60,102661,2021	Original Article
394	Ozaki T, Toyomaki A, Hashimoto N*, 他	精神科神経科	Quantitative Resting State Electroencephalography in Patients with Schizophrenia Spectrum Disorders	Clinical Psychopharmacology and Neuroscience 19(2),313-322,2021	Original Article
395	Hashimoto N, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, 他	精神科神経科	Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive	Asian Journal of Psychiatry 63,102744,2021	Original Article
396	Watanabe S, Mitsui N*, Asakura S, 他	精神科神経科	Predictors of social anxiety disorder with major depressive episodes among Japanese university students	PLoS One 16(9),e0257793,2021	Original Article
397	Fujii Y, Asakura S, Takanobu K, 他	精神科神経科	Prevalence of depressive symptoms and psychological distress in Japanese university-enrolled students before and	Psychiatry and Clinical Neurosciences 75(9),294-295,2021	Original Article
398	Toyoshima K, Inoue T, Shimura A, 他	精神科神経科	Mediating Roles of Cognitive Complaints on Relationships between Insomnia, State Anxiety, and Presenteeism in	International Journal of Environmental Research and Public Health	Original Article
399	Toyoshima K, Ichiki M, Inoue T, 他	精神科神経科	The Role of Cognitive Complaints in the Relationship Between Trait Anxiety, Depressive Symptoms, and Subjective	Neuropsychiatric Disease and Treatment 17,1299-1309,2021	Original Article
400	Toyoshima K, Inoue T, Shimura A, 他	精神科神経科	The mediating effects of perceived cognitive disturbances on reported sleep disturbance, presenteeism, and	Journal of Affective Disorders Reports 5,100180,2021	Original Article
401	Toyoshima K, Inoue T, Shimura A, 他	精神科神経科	The Relationship among Sleep Reactivity, Job-Related Stress, and Subjective Cognitive Dysfunction: A	Industrial Health 59(4),229-238,2021	Original Article
402	Toyoshima K, Inoue T, Baba T, 他	精神科神経科	Associations of cognitive complaints and depressive symptoms with health-related quality of life and perceived overall	International Journal of Environmental Research and Public Health	Original Article
403	Toyoshima K, Ichiki M, Inoue T, 他	精神科神経科	Subjective cognitive impairment and presenteeism mediate the associations of rumination with subjective well-being	BioPsychoSocial Medicine 15(1),15,2021	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
404	Takanobu K,Mitsui N,Watanabe S,他	精神科神経科	Character configuration, major depressive episodes, and suicide-related ideation among Japanese undergraduates	PLoS One 16(5),e0251503,2021	Original Article
405	Ishi Y,Shimizu A,Takakuwa E,他	脳神経外科	High-grade neuroepithelial tumor with BCL6 corepressor-alteration presenting pathological and radiological	Pathol Int. 2021 May;71(5):348-354. doi: 10.1111/pin.13083. Epub	Case report
406	Ishi Y,Okada H,Okamoto M,他	脳神経外科	Distinct TERT promoter C228T and C250T mutations in a patient with an oligodendroglioma: A case report.	Neuropathology. 2021 Apr 26. doi:10.1111/neup.12727. Epub ahead of print.	Case report
407	Ishi Y,Harada T,Kameda H,他	脳神経外科	Variations and natural history of primary intraparenchymal lesions associated with neurofibromatosis type 2.	Neuroradiology. 2021 Nov 23. doi: 10.1007/s00234-021-02809-5. Epub ahead of	Original Article
408	Asano H,Isoe T,Ito YM,他	産科・周産母子センター	Status of the Current Treatment Options and Potential Future Targets in Uterine Leiomyosarcoma: A Review	Cancers (Basel). 2022 Feb 24;14(5):1180. Published: 24 February 2022	Review
409	Cho K,Kobayashi S,Araki A,他	産科・周産母子センター	Prenatal alcohol exposure and adverse fetal growth restriction: findings from the Japan Environment and Children's	Pediatr Res. 2021 Jun 4. Online ahead of print.	Original Article
410	Nakagawa K,Umazume T,Mayama M,他	産科・周産母子センター	Survey of attitudes of individuals who underwent remote prenatal check-ups and consultations in response to the	J Obstet Gynaecol Res. 2021;47:2380-6	Original Article
411	Noshiro K,Umazume T,Hattori R,他	産科・周産母子センター	Hemoglobin Concentration during Early Pregnancy as an Accurate Predictor of Anemia during Late Pregnancy	Nutrients. 2022 Feb 17;14(4):839.	Original Article
412	Morikawa M,Matsunaga S,Makino S,他	産科・周産母子センター	Effect of hypofibrinogenemia on obstetrical disseminated intravascular coagulation in Japan in 2018: a	Int J Hematol. 2021;114:18-34	Original Article
413	Morikawa M,Mayama M,Noshiro K,他	産科・周産母子センター	Earlier onset of proteinuria or hypertension is a predictor of progression from gestational	Sci Rep. 2021;11:12708	Original Article
414	Morikawa M,Saito Y,Mayama M,他	産科・周産母子センター	Excessive gestational weight gain during the week prior to delivery as a predictor of maternal life-threatening	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Oct;47(10):3498-508	Original Article
415	Morikawa M,Ieko M,Nakagawa-Akabane K,他	産科・周産母子センター	Prevention of venous thromboembolism in pregnant women with congenital antithrombin deficiency: a retrospective	Int J Hematol. 2022 Jul;116(1):60-70. doi: 10.1007/s12185-022-03327-	Original Article
416	Saito Y,Umazume T,Watari H	産科・周産母子センター	Letter to "C-reactive protein level predicts need for medical intervention in pregnant women with SARS-CoV2	J Obstet Gynaecol Res. 2022 May;48(5):1285-1286. doi: 10.1111/jog.15207. Epub	Original Article
417	Saito Y,Kobayashi S,Ikeda-Araki A,他	産科・周産母子センター	Association between pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain and perinatal outcomes in pregnant	J Diabetes Investig. 2022 May;13(5):889-899. doi: 10.1111/jdi.13723. Epub	Original Article
418	Takaoka M,Umazume T,Watari H	産科・周産母子センター	Importance to release of the number of pregnant women with COVID-19 to help build the perinatal medical care system	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Nov;47(11):4127-4128.	Original Article
419	Umazume T,Miyagi E,Haruyama Y,他	産科・周産母子センター	The physical and mental burden on obstetricians and gynecologists during the COVID-19 pandemic: A September	J Obstet Gynaecol Res. 2021;47(9):3001-7	Original Article
420	Yamamoto R,Asano H,Umazume T,他	産科・周産母子センター	C-reactive protein level predicts need for medical intervention in pregnant women with SARS-CoV2 infection: A	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Apr;48(4):938-945. doi: 10.1111/jog.15181. Epub	Original Article
421	Dong P,Xiong Y,Konno Y,他	婦人科	Long non-coding RNA DLEU2 drives EMT and glycolysis in endometrial cancer through HK2 by competitively	J Exp Clin Cancer Res. 2021;40(1):216	Original Article
422	Yamazaki H,Mitamura T,Ihira K,他	婦人科	The difficulty to diagnose cervical cancer developing in the perinatal period with the first-trimester cytology: A	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Sep;47(9):3303-9	Original Article
423	Yamazaki H,Wada T,Asano H,他	婦人科	Comparison between Urine and Cervical High-Risk HPV Tests for Japanese Women with ASC-US.	Diagnostics (Basel). 2021 Oct 14;11(10):1895. Published: 14 October 2021	Original Article
424	Hanley SJB,Fujita H,Aoyama-Kikawa S,他	婦人科	Evaluation of partial genotyping with HPV16/18 for triage of HPV positive, e b0cytology negative women in the	J Gynecol Oncol. 2021 Nov;32(6):e86	Original Article
425	Yamazawa H,Takeda A,Izumi G,他	小児科	Sudden cardiac death prevention in an Emery-Dreifuss muscular dystrophy patient.	Pediatr Int (IF: 1.52; Q4). 2022 Jan;64(1):e15204. doi: 10.1111/ped.15204.	Original Article
426	Yamazawa H,Takeda A,Izumi G	小児科	Challenges in the primary prevention of sudden cardiac death in hypertrophic cardiomyopathy in the young.	Cardiol Young (IF: 1.09; Q4). 2022 Jan;32(1):156-157. doi:	Case report
427	Egawa K,Nakakubo S,Kimura S,他	小児科	Flurothyl-induced seizure paradigm revealed higher seizure susceptibility in middle-aged Angelman syndrome mouse	Brain Dev. 2021,143(4): 515-520,	Original Article
428	Egawa K,Saitoh S,Asahina N,他	小児科	Variance in the pathophysiological impact of the hemizyosity of gamma-aminobutyric acid type A receptor	Brain Dev. 2021, 43(4): 521-527	Original Article
429	Egawa K,Saitoh S,Asahina N,他	小児科	Short-latency somatosensory-evoked potentials demonstrate cortical dysfunction in patients with Angelman	eNeurologicalSci. 2021, eCollection 2021 Mar.	Original Article
430	Ueda Y,Fujishige S,Goto T,他	小児科	Adrenal function during long-term ACTH therapy for patients with developmental and epileptic	Epilepsia Open. 2022 Mar;7(1):194-200.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
431	Uchinami Y	放射線治療科	Treatment outcomes of stereotactic body radiation therapy using a real-time tumor-tracking radiotherapy system for	Hepatol Res. 2021 Aug;51(8):870-879	Original Article
432	Hiroshi Tamura ,Keiji Kobashi,Kentaro Nishioka,他	放射線治療科	Dosimetric advantages of daily adaptive strategy in IMPT for high-risk prostate cancer.	J Appl Clin Med Phys. 2022 Jan 19:e13531	Original Article
433	Hashimoto T	放射線治療科	In reply to "Comment on "Particle therapy using protons or carbon ions for cancer patients with cardiac implantable	Jpn J Radiol. 2022 Feb 19	Original Article
434	Yasuda K	放射線治療科	Construction of a detachable artificial trachea model for three age groups for use in an endotracheal suctioning	PLoS One. 2021 Apr 29;16(3):e0249010	Original Article
435	Takahiro Yamada ,Seishin Takao,Hidenori	放射線治療科	Validation of dose distribution for liver tumors treated with real-time-image gated spot-scanning	J Radiat Res. 2021 Jul 10;62(4):626-633	Original Article
436	Aoyama H	放射線治療科	A treatment planning study of urethra-sparing intensity-modulated proton therapy for localized prostate cancer.	Phys Imaging Radiat Oncol. 2021 Oct 8;20:23-29	Original Article
437	Kentaro Nishioka Kento Gotoh ,Takayuki	放射線治療科	Are simple verbal instructions sufficient to ensure that bladder volume does not deteriorate prostate position	BJR Open.2021 Oct 26	Original Article
438	Risa Hayashi ,Koichi Miyazaki,Seishin Takao,他	放射線治療科	Real-time CT image generation based on voxel-by-voxel modeling of internal deformation by utilizing the displacement	Med Phys. 2021 Sep;48(9):5311-5326	Original Article
439	Tsuneta S,Oyama-Manabe N,Hirata K,他	放射線診断科	Texture analysis of delayed contrast-enhanced computed tomography to diagnose cardiac sarcoidosis.Jpn	J Radiol. 2021 May; 39(5):442-450	Original Article
440	Fujima N,Andreu-Arasa VC,Onoue K,他	放射線診断科	Utility of deep learning for the diagnosis of otosclerosis on temporal bone CT	Eur Radiol. 2021 Jul;31(7):5206-5211	Original Article
441	Fujima N,Andreu-Arasa VC,Meibom SK,他	放射線診断科	Prediction of the local treatment outcome in patients with oropharyngeal squamous cell carcinoma using deep	BMC Cancer. 2021 Aug 6;21(1):900	Original Article
442	Fujima N,Andreu-Arasa VC,Meibom SK,他	放射線診断科	Prediction of the treatment outcome using machine learning with FDG-PET image-based multiparametric approach	Clin Radiol. 2021 Sep;76(9): 711.e1-711.e7	Original Article
443	Fujima N,Shimizu Y,Yoshida D,他	放射線診断科	Multiparametric Analysis of Tumor Morphological and Functional MR Parameters Potentially Predicts Local	J Med Invest. 2021(Nov); 68(3.4):354-361	Original Article
444	Morita R,Abo D,Kinota N,他	放射線診断科	Successful transvenous embolization for type II uterine arteriovenous malformation: A case report	Radiol Case Rep. 2021 Jun 8;16(8): 2007-2011	Case report
445	Hirata K,Manabe O,Magota K,他	核医学診療科	A Preliminary Study to Use SUVmax of FDG PET-CT as an Identifier of Lesion for Artificial Intelligence	Front Med (Lausanne). 2021 Apr 28; 8:647562	Original Article
446	Uchiyama Y,Hirata K,Watanabe S,他	核医学診療科	Development and validation of a prediction model based on the organ-based metabolic tumor volume on FDG-	Ann Nucl Med. 2021 Nov; 35(11):1223-1231	Original Article
447	Hirata K,Sugimori H,Fujima N,他	核医学診療科	Artificial intelligence for nuclear medicine in oncology	Ann Nucl Med. 2022 Jan 14	Review
448	Yamada R,Nogawa T,Takayama Y,他	予防歯科	Comparison of the prognosis of the remaining teeth between implant-supported fixed prostheses and	Clin Implant Dent Relat Res. 2022 Feb;24(1):83-93.	Original Article
449	Hongbo Z,Hasebe A,Alam A,他	むし歯科	Antibacterial potential of colloidal platinum nanoparticles against Streptococcus mutans	Dental Materials Journal, 25 Jan, 2022	Original Article
450	Ahmed Z,Akter RS,Al-Azad S,他	むし歯科	Effect of conditioning and 3-year aging on the bond strength and interfacial morphology of glass-ionomer cement	J Dent Sci, 22 Jan, 2022 https://doi.org/10.1016/j.jds.2022.01.004	Original Article
451	Toida Y,Kawano S,Islam R,他	むし歯科	Pulpal response to mineral trioxide aggregate containing phosphorylated pullulan-based capping material	Dent Mater J, Oct 1, 2021	Original Article
452	Islam R,Toida Y,Chen F,他	むし歯科	Histological evaluation of a novel phosphorylated pullulan-based pulp capping material: An in vivo study on rat	Int Endod J, July 7, 2021(Epub)	Original Article
453	Kanemoto Y,Miyaji H,Nishida E,他	歯周病科	Periodontal tissue engineering using an apatite/collagen scaffold obtained by a plasma- and precursor-assisted	J Periodontal Res, 57(1), 205-218, 2021	Original Article
454	Miyaji H,Mayumi K,Kanemoto Y,他	歯周病科	Ultrasonic irrigation of periodontal pocket with surface pre-reacted glass-ionomer (S-PRG) nanofiller dispersion	J Oral Biosci. 2022 Jun;64(2):222-228.	Original Article
455	Miyaji H,Oyane A,Narazaki A	歯周病科	Biological modification of tooth surface by laser-based apatite coating techniques.	J Oral Biosci. 2022 Jun;64(2):217-221.	Original Article
456	Tominga T,Tada E,Takahira K,他	歯周病科	Application of high-frequency conduction for persistent apical periodontitis, A case report,	J Dent Oral Disord, 7(4), 1168, 2021.	Case report
457	Toshimitsu Sakuma, Taihiko Yamaguchi,Masana	クラウンブリッジ歯科	Comparison of the Occurrence of Sleep Bruxism under Accustomed Conditions at Home and under Polysomnography	J Prosthodont Res 2021.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
458	Saki Mikami, Taihiko Yamaguchi, Miku Saito, 他	クラウンブリッジ歯科	Validity of clinical diagnostic criteria for sleep bruxism by comparison with a reference standard using masseteric	Sleep and Biological Rhythms, 2022. DOI: https://doi.org/10.1007/s41	Original Article
459	Hiroyuki Hato, Noritaka Ohga, Chiharu Satoh, 他	クラウンブリッジ歯科	Temporoparietal fascia flap was useful for the open surgery of temporomandibular joint mobilization.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	Original Article
460	Endo A, Watanabe Y, Matsushita T, 他	高齢者歯科	Association between Weight Loss and Food Form in Older Individuals Residing in Long-Term Care Facilities: 1-Year	Int J Environ Res Public Health, 18(20), 2021	Original Article
461	Sunakawa Y, Tsugayasu H, Watanabe Y, 他	高齢者歯科	Relationship between weight loss and regular dental management of older adults residing in long-term care	Eur Geriatr Med, 13(1), 221-231, 2022	Original Article
462	Hato H, Sakata KI, Sato J, 他	高齢者歯科	Efficacy of rikkosan for primary burning mouth syndrome: a retrospective study,	Biopsychosoc Med, 15(1), 19, 2021	Original Article
463	Yokoyama A, Hasegawa T, Hiraga T, 他	高齢者歯科	Altered immunolocalization of FGF23 in murine femora metastasized with human breast carcinoma MDA-MB-231 cells	J Bone Miner Metab, 39(5), 810-823, 2021	Original Article
464	Ozaki K, Okada K, Matsushita T, 他	高齢者歯科	Clinical study of risk factors for adherence of Candida to dentures.	JOMSMP. doi.org/10.1016/j.joms.2022.	Original Article
465	Baba H, Watanabe Y, Miura K, 他	高齢者歯科	Oral frailty and carriage of oral Candida in community-dwelling older adults (Check-up to discover Health with	Gerodontology, 39(1): 49-58, 2022	Original Article
466	Abiko Y, Paudel D, Matsuoka H, 他	高齢者歯科	Psychostomatology: The psychosomatic status and approaches for the management of patients with	JOMSMP, 34(2), 200-208, 2021	Original Article
467	Endo R, Nakanishi K, Bando Y, 他	矯正歯科	Ion capture and release ability of glass ionomer cement containing nanoporous silica particles with different pore and	Materials 14(19), 5742, October 2021	Original Article
468	Kato J, Mikoya T, Ito Y, 他	矯正歯科	Dental arch relationship outcomes following 2-stage palatoplasty for Japanese patients with complete	The Cleft Palate-Craniofacial Journal 59(3), 355-364, Mar 2022	Original Article
469	Akasaka T, Tamai M, Yoshimura Y, 他	矯正歯科	Different micro/nano-scale patterns of surface materials influence osteoclastogenesis and actin structure	Nano Reserch 15(5), 4201-4211, May 2022	Original Article
470	Hato H, Sakata K, Sato J, 他	口腔内科	Factors associated with oral candidiasis caused by coinfection of Candida albicans and Candida glabrata A	J Dent Sci, Available online 30 November 2021, in press. https://doi.org/10.1016/j.jd	Original Article
471	Hato H, Sakata K, Sato J, 他	口腔内科	Clinical study of treatment methods and associated factors in mandibular osteoradionecrosis.	J Oral Sci, 63(3), 289-91, 2021. doi: 10.2334/josnusd.21-0154.	Original Article
472	Shimizu T, Fujita N, Tsuji-Tamura K, 他	口腔内科	Osteocytes as main responders to low-intensity pulsed ultrasound treatment during fracture healing.	Sci Rep, 11(1), 10298, 2021. doi: 10.1038/s41598-021-89672-9.	Original Article
473	Yanagiya M, Dawood RH, Maishi N, 他	口腔内科	Correlation between endothelial CXCR7 expression and clinicopathological factors in oral squamous cell carcinoma	Pathol Int, 71(6), 383-391, 2021. doi: 10.1111/pin.13094.	Original Article
474	Tsuchiya E, Hasegawa T, Hongo H, 他	口腔内科	Histochemical assessment on the cellular interplay of vascular endothelial cells and septoclasts during endochondral	Microscopy, 70(2):201-214, 2021, doi: 10.1093/jmicro/dfaa047.	Original Article
475	Nakamura Y, Kikui T, Sugiyama T, 他	口腔内科	Anti-RANKL inhibits thymic function and causes DRONJ in Mice.	Int J Dent. 2022, Article ID 9299602, https://doi.org/10.1155/202	Original Article
476	Torii C, Maishi N, Kawamoto T, 他	口腔内科	miRNA-1246 in extracellular vesicles secreted from metastatic tumor induces drug resistance in tumor endothelial	Sci Rep, 11(1), 1-16, 2021. doi: 10.1038/s41598-021-92879-5.	Original Article
477	Maishi N, Sakurai Y, Hatakeyama H, 他	口腔内科	Novel antiangiogenic therapy targeting biglycan using tumor endothelial cell-specific liposomal siRNA delivery	Cancer Sci., in press. doi: 10.1111/cas.15323.	Original Article
478	Okada M, Sato J, Sakata K, 他	口腔内科	Multiple epulis with erosion of gingiva Case report.	Oral Science in Japan 2021. JAPANESE STOMATOLOGICAL	Original Article
479	Kondo Y, Sakata K, Sato J, 他	口腔内科	Salivary cortisol levels decreased in conjunction with pain levels of tongue in patient with primary BMS.	Oral Science in Japan 2021. JAPANESE STOMATOLOGICAL	Original Article
480	Hida K, Maishi N, Takeda R, 他	口腔内科	The Roles of Tumor Endothelial Cells in Cancer Metastasis. Metastasis.	EXON PUBLICATIONS, Australia, 137-148, 2022.	Original Article
481	Kamaguchi M, Ohga N, Hata H, 他	口腔内科	Treatment of medication-related osteonecrosis of the jaw using segmental mandibulectomy and a reconstruction	Oral Sci Int, 19(1), 52-58, 2022. doi: 10.1002/osi2.1105.	Case report
482	Ohga N, Iori T, Sakata K, 他	口腔内科	Immediate oral surgical management of external dental fistula: Technical note of immediate tooth autotransplantation.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol, 33, 623-625, 2021. https://doi.org/10.1016/j.aj	Case report
483	Ohga N, Satoh C, Hata H, 他	口腔内科	Migration and embedding of dental foreign bodies in the soft tissues of the maxilla: A case series.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol, 34 (1), 66-71, 2021. https://doi.org/10.1016/j.aj	Case report
484	Murai C, Sakata K, Ouchi C, 他	口腔内科	Mandibular carcinoma cuniculatum around the dental implant in a patient with concurrent management for	Oral, 2(1), 49-61, 2022. https://doi.org/10.3390/oral2010007 .	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
485	Kimura T,Sakata K,Sato J,他	口腔内科	Metastatic basal cell carcinoma of buccal mucosa: A report of a rare case.	World J. Surg. Oncol, 21, 20(1):127, 1-8, 2022. https://doi.org/10.1186/s12	Case report
486	Hikasa H,Sakata K,Mizuno T,他	口腔内科	A Case of a Giant Sublingual Epidermoid Cyst Removed by Content Reducing Surgery,	Oral, 2(1), 126-136 ,2022. https://doi.org/10.3390/oral2010013	Case report
487	Hato H,Ohga N,Sato C,他	口腔内科	Temporoparietal fascia flap was useful for the open surgery of temporomandibular joint mobilization.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 34(2),135-140, 2022. https://doi.org/10.1016/j .	Case report
488	Yamagami A,Narumi K,Saito Y,他	口腔外科	Evaluation of the strategies to reduce the third-generation oral cephalosporins on dentistry at a Japanese academic	J Clin Pharm and Ther. (Online ahead), 2022 Mar	Original Article
489	Okuya K,Hattori T,Saito T,他	口腔外科	Multiple routes of antibody-dependent enhancement of SARS-CoV-2 infection	Microbiol Spectr. 10(2), e0155321, 2021	Original Article
490	Kakuguchi W,Nakamichi Y,Kasahara K,他	口腔外科	Peri-operative management of multiple tooth extractions in a patient with congenital hypofibrinogenemia receiving	Oral Sci Int. 19(2) : 106-110, 2022	Case report
491	Seikai T,Takada A,Hasebe A,他	口腔外科	Gargling with povidone iodine has a short-term effect on SARS-Cov-2 in COVID-19 patients	J Hosp Infect. 123:179-181, 2022	Original Article
492	Akiko Takeuchi ,Hideki Hyodoh ,Kotaro Matoba ,他	歯科放射線科	Evaluation of oral air space volume in obstructive sleep apnea syndrome using clinical and postmortem CT imaging	Oral Radiology, 2022 January	Original Article
493	Manabu Murakami,Shigeki Jin,Akiko Takeuchi,他	歯科放射線科	Skills Required of Geriatricians: Why Medical Students Do Not Select Geriatrics as Their Carrer	Acta Med Port, 2022 March	Letter
494	Sugimori H,Kameda H,Harada T,他	歯科放射線科	Quantitative magnetic resonance imaging for evaluating of the cerebrospinal fluid kinetics with 17O-labeled water tracer:	Magn Reson Imaging, 2021 Dec	Original Article
495	Makiko Shibuya,Takayuki Hojo,Yuri Hase,他	歯科麻酔科	Methemoglobinemia caused by a low dose of prilocaine during general anesthesia	J Dent Anesth Pain Med. 2021 Aug;21(4):357-361.	Case report
496	Makiko Shibuya,Rie Iwamoto,Yukifumi Kimura,他	歯科麻酔科	Anesthetic Management of a Patient With Citrullinemia Type I During Dental Treatment.	Anesthesia progress, Oct 1, 2021	Case report
497	Makiko Shibuya,Yukie Nitta,Yukifumi Kimura,他	歯科麻酔科	Utility of a Structured Teaching Approach, Rehearsal, and Training for Patients With Autism Spectrum Disorder	Journal of PeriAnesthesia Nursing, Epub Dec 24, 2021	Case report
498	Takayuki Hojo,Yukifumi Kimura,Keiji	歯科麻酔科	Prolonged washout period for avoiding azilsartan-induced refractory hypotension during general anesthesia	Anesth Prog, 68(4), 2021	Case report
499	Nobuhito Kamekura,Takayuki Hojo,Yukie Nitta,他	歯科麻酔科	Anesthetic Management of a Rett Syndrome Patient at High Risk for Respiratory Complications	Anesth Prog, 68(3), 2021	Case report
500	Yuri Hase,Nobuhito Kamekura,Toshiaki Fujisawa	歯科麻酔科	Effectiveness of intravenous sedation for oral surgery in a patient with multiple sclerosis and a past history of posterior	Spec Care Dentist, Mar 31, 2022	Case report
501	Hamaya E,Kamekura N,Fujisawa T	歯科麻酔科	Suspected bradycardia due to interactions between HIV protease inhibitors and lidocaine: a case report.	J Dent Anesth Pain Med Oct 21(5),2021	Case report
502	Nitta Y,Kamekura N,Takuma S,他	歯科麻酔科	A comparison of the hemodynamic responses between fentanyl and fentanyl-remifentanyl in total intravenous	Hokkaido J. Dent. Sci.2021Sep :42, 58-62	Original Article
503	Kamekura N,Nitta N,Takuma S,他	歯科麻酔科	General anesthesia for dental treatment in a patient with subcortical band heteropia: a case report	J Clin Anesth Pain Manag 6(1), 272-274, 2022 January 26	Case report
504	Nishibata Y,Kushimoto S,Ogaki K,他	検査・輸血部	RNase in the saliva can affect the detection of severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 by real-time	Pathol Res Pract. 2021 Apr;220:153381. doi: 10.1016/j.prp.2021.153381.	Others
505	Kagami K,Ishiguro N,Yamada T,他	検査・輸血部	Clinical outcomes of intervention for carbapenems and anti-methicillin-resistant Staphylococcus aureus	Am J Infect Control. 2021 Dec;49(12):1493-1498. doi: 10.1016/j.ajic.2021.08.011.E	Original Article
506	Mitani A,Iwai T,Shichinohe T,他	検査・輸血部	The Combined Usage of the Global Leadership Initiative on Malnutrition Criteria and Controlling Nutrition Status	Ann Nutr Metab. 2021;77(3):178-184. doi: 10.1159/000516994. Epub	Original Article
507	Murayama M,Iwano H,Obokata M,他	検査・輸血部	Visual echocardiographic scoring system of the left ventricular filling pressure and outcomes of heart failure with preserved	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2022 Apr 18;23(5):616-626. doi:	Original Article
508	Yamanashi K,Katsurada T,Nishida M,他	検査・輸血部	Crohn's Disease Activity Evaluation by Transabdominal Ultrasonography: Correlation with Double-Balloon	J Ultrasound Med. 2021 Dec;40(12):2595-2605. doi: 10.1002/jum.15645. Epub	Original Article
509	Imaizumi K,Homma S,Nishida M,他	検査・輸血部	Transabdominal ultrasonography for the preoperative diagnosis of advanced lymph node metastasis in patients with	Cancer Diagn Progn. 2022 Mar 3;2(2):173-183. doi: 10.21873/cdp.10092.eCollec	Original Article
510	Murayama M,Kaga S,Okada K,他	検査・輸血部	Clinical utility of superior vena cava flow velocity waveform measured from the subcostal window for estimating right	J Am Soc Echocardiogr. 2022 Jul;35(7):727-737. doi: 10.1016/j.echo.2022.02.002.	Original Article
511	Nakano K,Sugita J,Mafune N,他	検査・輸血部	IgG4-IgE complex in a patient with IgG4-related disease.	Clin Chim Acta. 2022 Mar 1;528:52-55. doi: 10.1016/j.cca.2022.01.013.E	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
512	Nakabachi M,Iwano H,Murayama M,他	検査・輸血部	Application of the proximal isovelocity surface area method for estimation of the effective orifice area in aortic stenosis	Heart Vessels. 2022 Apr;37(4):638-646. doi: 10.1007/s00380-021-01945-	Original Article
513	Fujisawa R,Okada K,Kaga S,他	検査・輸血部	Prognostic value of an echocardiographic index reflecting right ventricular operating stiffness in patients with heart	Heart Vessels. 2022 Apr;37(4):583-592. doi: 10.1007/s00380-021-01960-	Original Article
514	Yoshimura T,Nishioka K,Hashimoto T,他	放射線部	Visualizing the urethra by magnetic resonance imaging without usage of a catheter for radiotherapy of prostate	Physics Imaging Radiation Oncology. 2021:18:1-4	Original Article
515	Nishida M,Sugita J,Takahashi S,他	放射線部	Refined ultrasonographic criteria for sinusoidal obstruction syndrome after hematopoietic stem cell transplantation	Int J Hematol. 2021:114:1:94-101.	Original Article
516	Sugimori H,Hamaguchi H,Fujiwara T,他	放射線部	Classification of type of brain magnetic resonance images with deep learning technique	Magn Reson Imaging. 2021:77:180-185.	Original Article
517	Tha KK,Kikuchi Y,Ishizaka K,他	放射線部	Higher Electrical Conductivity of Liver Parenchyma in Fibrotic Patients: Noninvasive Assessment by Electric	J Magn Reson Imaging. 2021:54:5:1689-1691.	Original Article
518	Tsutsumi K,Nakaya U,Koshino Y,他	放射線部	Feasibility of an ultrasound-based method for measuring talar displacement during the anterior drawer stress test	Int J Environ Res Public Health. 2022:19:4:2367.	Original Article
519	Kento Sabashi,Satoshi Kasahara,Harukazu Tohyama,他	リハビリテーション部	Changes in postural control strategy during quiet standing in individuals with knee osteoarthritis.	J Back Musculoskelet Rehabil. 2022;35(3)	Original Article
520	Fukai M,Nakayabu T,Ohtani S,他	臓器移植医療部	The Phenolic Antioxidant 3,5-dihydroxy-4-methoxybenzyl Alcohol (DHMBA) Prevents Enterocyte Cell	J. Clin. Med•2021.5	Original Article
521	Shimamura T,Goto R,Watanabe M,他	臓器移植医療部	Liver Transplantation for Hepatocellular Carcinoma: How Should We Improve the Thresholds?	Cancers•2022.1	Original Article
522	Shibata Y,Matsushima M,Matsukawa T,他	臨床遺伝子診療部、脳神経内科	Adrenoleukodystrophy sibilings with a novel ABCD1 missense variant presenting with phenotypic differences: a	J Hum Genet . 2021 May;66(5):535-537.	Review
523	Yokota I,Shane PY,Teshima T	国際医療部	Logistic advantage of two-step screening strategy for SARS-CoV-2 at airport quarantine.	Travel Med Infect Dis. 2021 Jun 23	Original Article
524	Yokota I,Hattori T,Shane PY,他	国際医療部	Equivalent SARS-CoV-2 viral loads between nasopharyngeal swab and saliva in symptomatic patients.	Sci Rep. 2021; 11: 4500.	Original Article
525	Kanako Hagio ,Toraji Amano ,Hideyuki Hayashi ,他	がん遺伝子診断部	Impact of clinical targeted sequencing on endocrine responsiveness in estrogen receptor-positive, HER2-negative	Sci Rep. 2021 Apr 14;11(1):8109.	Original Article
526	Kanako Hagio ,Kanako C Hatanaka ,Toraji Amano ,他	がん遺伝子診断部	Genetic heterogeneity during breast cancer progression in young patients	Breast.. 2021 Dec;60:206-213.	Original Article
527	Minako Sugiyama,Shinsuke Hirabayashi,Yukitomo	がん遺伝子診断部	Notable therapeutic response in a patient with systemic juvenile xanthogranuloma with KIF5B-ALK	Pediatr Blood Cancer. 2021 Nov;68(11):e29227	Case report
528	Kikuchi J,Ohhara Y,Takada K,他	がん遺伝子診断部	Clinical significance of comprehensive genomic profiling tests covered by public insurance in patients with advanced solid	Jpn J Clin Oncol. 2021 Apr 30;51(5):753-761.	Original Article
529	Fujii Y,Ueda H,Umegaki K,他	医学物理部	An initial systematic study of the linear energy transfer distributions of a proton beam under a transverse magnetic field	Med Phys. 2022 Mar;49(3):1839-1852.	Original Article
530	Nakamura Y,Takayanagi T,Uesaka T,他	医学物理部	Technical Note: Range verification of pulsed proton beams from fixed-field alternating gradient accelerator by	Med Phys. 2021 Sep;48(9):5490-5500.	Original Article
531	Kasamatsu K,Tanaka S,Miyazaki K,他	医学物理部	Impact of a spatially dependent dose delivery time structure on the biological effectiveness of scanning proton therapy	Med Phys. 2022 Jan;49(1):702-713	Original Article
532	Tanemura A,Murayama M,Iwano H,他	超音波センター	Relevance of early-diastolic mitral regurgitation in dilated heart	J Echocardiogr. 2021 Aug 30. doi: 10.1007/s12574-021-00547-4. Online ahead	Case report
533	Omotehara S,Nishida M,Yamanash K,他	超音波センター	A case of immune checkpoint inhibitor-associated gastroenteritis detected by ultrasonography	J Clin Ultrasound. 2021 Jul;49(6):605-609. doi: 10.1002/jcu.22975.Epub	Case report
534	Endo T,Matsui Y,Kawamura D,他	超音波センター	Diagnostic Utility of Superb Microvascular Imaging and Power Doppler Ultrasonography for Visualizing	Front Neurol. 2022 Mar 31;13:832569. doi: 10.3389/fneur.2022.832569	Original Article
535	Yoshikawa M,Kudo K,Harada T,他	超音波センター	Quantitative Susceptibility Mapping versus R2*-based Histogram Analysis for Evaluating Liver Fibrosis:	Magn Reson Med Sci. 2021 Sep 4. doi: 10.2463/mrms.mp.2020-	Original Article
536	Matsui Y,Horie T,Funakoshi T,他	超音波センター	Dynamic Evaluation of Intraneural Microvasculature of the Ulnar Nerve Using Contrast-Enhanced	J Hand Surg Am. 2022 Jul;47(7):687.e1-687.e8. doi: 10.1016/j.jhsa.2021.06.024.	Original Article
537	Shimada S,Kamiyama T,Kakisaka T,他	超音波センター	The impact of elastography with virtual touch quantification of future remnant liver before major hepatectomy	Quant Imaging Med Surg. 2021 Jun;11(6):2572-2585. doi: 10.21037/qims-20-1073	Original Article
538	Chiba Y,Iwano H,Murayama M,他	超音波センター	Presence and Relevance of Midsystolic Notching on Right Ventricular Outflow Tract Flow Velocity Envelopes in	J Am Soc Echocardiogr. 2021 Jun;34(6):690-692.e1. doi:	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
539	Sarashina-Motoi M,Iwano H,Motoi K,他	超音波センター	Functional significance of intra-left ventricular vortices on energy efficiency in normal, dilated, and hypertrophied	J Clin Ultrasound. 2021 May;49(4):358-367. doi: 10.1002/jcu.22938. Epub	Original Article
540	Ishiguro N,Ito YM,Iwasaki S,他	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Three-day regimen of oseltamivir for post-exposure prophylaxis of influenza in hospital wards: a study protocol for a	BMC Infect Dis. 2021 Aug;21(1):887.	Others
541	Hashimoto T,Demizu Y,Numajiri H,他	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Particle therapy using protons or carbon ions for cancer patients with cardiac implantable electronic devices (CIED): a	Jpn J Radiol. 2021 Nov;	Original Article
542	Kato T,Ujiie H,Hatanaka KC,他	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	A novel Tn antigen epitope-recognizing antibody for MUC1 predicts clinical outcome in patients with primary lung	Oncol Lett. 2021 Mar;21(3):202.	Original Article
543	Suzuki T,Kano S,Suzuki M,他	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Enhanced Angiogenesis in Salivary Duct Carcinoma Ex-Pleomorphic Adenoma.	Front Oncol. 603717	Original Article
544	Hatanaka Y,Kuwata T,Morii E,他	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	The Japanese Society of Pathology Practical Guidelines on the handling of pathological tissue samples for cancer	Pathol Int. 725-740.	Original Article
545	Ito S,Asahina H,Yamaguchi N,他	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	A case of radio-insensitive SMARCA4-deficient thoracic undifferentiated carcinoma with severe right heart	Respir Med Case Rep. 101364	Case report
546	Tsukasa Akasaka,Hiroshi Hayashi,Miho Tamai,	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Osteoclast formation from mouse bone marrow cells on micro/nano-scale patterned surfaces.	J Oral Biosci. 2022 Jun;64(2):237-244.	Original Article
547	Shuhei Ishikawa,Ryodai Yamamura,Naoki	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	The type rather than the daily dose or number of antipsychotics affects the incidence of hyperglycemic progression	Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 2022	Original Article
548	Ryo Sawagashira ,Ryodai Yamamura,Ryo	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Subthreshold change in glycated hemoglobin and body mass index after the initiation of second-generation	The Journal of Clinical Psychiatry. 2022 Mar 30; 83(3)	Original Article
549	Tan C,Wang Z,Zheng M,他	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Responses of Immune Organs after Cerebral Ischemic Stroke.	J Nippon Med Sch. 2021 Jun 30;88(3):228-237.	Original Article
550	Yasuyuki Kawamoto ,Hiroshi Nakatsumi,Kazuaki	腫瘍センター	A Phase I Trial of Oxaliplatin, Irinotecan, and S-1 Combination Therapy (OX-IRIS) as Chemotherapy for	Oncologist. 2021 Oct;26(10):e1675-e1682.	Original Article
551	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Masaki Kobayashi,他	薬剤部	Detection of risk factors related to administration suspension and severe neutropenia in gemcitabine and nab-	Supportive Care in Cancer, 2021 Apr, 29(6), 3277-3285	Original Article
552	Masayoshi Kumai,Shungo Imai,Shintaro Kato,他	薬剤部	Construction of a risk prediction model of extended release oxycodone tablet-induced nausea and clarification of	Biol Pharm Bull, 2021;44(4):593-598	Original Article
553	Yoshitaka Saito,Shinya Tamaki,Haruka Hasegawa,他	薬剤部	Safety evaluation of initial CT-P6 administration for 30 min during the switch from reference trastuzumab in	Biol Pharm Bull Communication to the Editor, 2021;44(4):474-477	Original Article
554	Ayako Nishimura,Ayako Furugen,Takeshi	薬剤部	Benzodiazepine Concentrations in the Breast milk and Plasma of Nursing Mothers: Estimation of Relative Infant	Breastfeeding medicine, 2021 May;16(5):424-431	Original Article
555	Yuko Watanabe,Yoshitaka Saito,Takashi	薬剤部	Adding aprepitant to palonosetron does not decrease carboplatin-induced nausea and vomiting in patients with	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 2021 Jun 1, 7 Article	Original Article
556	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Yoshito Komatsu,他	薬剤部	Hypertriglyceridemia induced by S-1: A novel case report and review of the literature	Journal of oncology pharmacy practice, 2021 Jun;27(4):1020-1025	Case report
557	Kazuki Uchiyama,Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,	薬剤部	Alleviation of abdominal pain due to irinotecan-induced cholinergic syndrome using loperamide: a case report	Case Reports in Oncology, 2021;14:806-811	Case report
558	Shinsuke Yamashita,Shungo Imai,Kenji Momo,他	薬剤部	Investigation of the real-world situation and risk factors associated with olanzapine prescribed to diabetes	Biol Pharm Bull, 2021 Aug 1 44(8) :1151-1155	Original Article
559	Yoshitaka Saito,Kazuki Uchiyama,Tatsuhiko Sakamoto,他	薬剤部	Pharmaceutical Intervention According to Strict Management System Can Normalize Decreased Serum Calcium	YAKUGAKU ZASSHI , 2021 Aug 1, 141(8):1023-1030	Original Article
560	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Takashi Takeshita,他	薬剤部	Severe hypertriglyceridemia induced by docetaxel: a novel case report	Case Reports in Oncology, 2021 Sep 9;14(3):1277-1282.	Case report
561	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Megumi Furuta,他	薬剤部	Pregabalin Attenuates Carboplatin-Induced Akathisia-Like Neuropathy: a Novel Case Report	Case Reports in Oncology, 2021;14:1418-1421	Case report
562	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Yoshito Komatsu,他	薬剤部	Risk analysis of denosumab-induced hypocalcemia in bone metastasis treatment: Renal dysfunction is not a	Biol. Pharm. Bull., 2021;44(12):1819-1823. doi: 10.1248/bpb.b21-00653.	Original Article
563	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Masaki Kobayashi,他	薬剤部	Risk factor analysis for taxane-associated acute pain syndrome under the dexamethasone prophylaxis	Supportive Care in Cancer, 2021 Dec;29(12):8059-8067	Original Article
564	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Satoshi Takeuchi,他	薬剤部	Severe hypertriglyceridemia induced by S-1: subsequent case series of four patients and further review of the	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics, 2021	Case report
565	Yoshitaka Saito,Yoh Takekuma,Takashi Takeshita,他	薬剤部	Impact of reducing day 1 dexamethasone dose in anthracycline-containing regimens on acute gastrointestinal	Scientific reports, 2021 Dec 2;11(1):23298.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
566	Kazuki Uchiyama, Yoshitaka Saito, Yoh Takekuma, 他	薬剤部	Pharmacokinetics of mycophenolic acid after haplo-hematopoietic stem cell transplantation in Japanese recipients	Journal of Oncology Pharmacy Practice, 2022 Jan;28(1):31-38	Original Article
567	Kazuki Uchiyama, Yoshitaka Saito, Tatsuhiko, 他	薬剤部	A 5% Glucose Solution for the Liquid Formulation Gemcitabine Solvent Decreases Gemcitabine-induced	Anticancer Res. , 2022 Jan;42(1):343-348. doi: 10.21873/anticancer.15491.	Original Article
568	Ryusei Mikami, Shungo Imai, Mineji Hayakawa, 他	薬剤部	Clinical applicability of urinary creatinine clearance for determining the initial dose of vancomycin in critically ill	J Infect Chemother, 2022 Feb;28(2):199-205	Original Article
569	Takezo Tsutsumi, Shungo Imai, Hitoshi	薬剤部	Investigation of the Risk Factors of Vomiting during Linezolid Therapy: A Retrospective Observational Study	Eur J Clin Pharmacol, 2022 Feb;78(2):279-286	Original Article
570	N. Ishiguro, Y. Akutsu, K. Azuma, 他	感染制御部	Evaluation of a Novel Immunochromatographic Assay Using Monoclonal Antibodies against the	Clin Lab 2021 Vol. 67 Issue 10 DOI: 10.7754/Clin.Lab.2021.2102	Original Article
571	N. Ishiguro, I. Morioka, T. Nakano, 他	感染制御部	Clinical and virological outcomes with baloxavir compared with oseltamivir in pediatric patients aged 6 to < 12 years	BMC Infect Dis 2021 Vol. 21 Issue 1 Pages 777 DOI: 10.1186/s12879-021-06494-	Original Article
572	N. Ishiguro, R. Sato, H. Kikuta, 他	感染制御部	P1 gene of Mycoplasma pneumoniae isolated from 2016 to 2019 and relationship between genotyping and	J Med Microbiol 2021 Vol. 70 Issue 6 DOI: 10.1099/jmm.0.001365	Original Article
573	N. Ishiguro, R. Sato, T. Mori, 他	感染制御部	Point-of-care molecular diagnosis of Mycoplasma pneumoniae including macrolide sensitivity using quenching	PLoS One 2021 Vol. 16 Issue 10 Pages e0258694 DOI: 10.1371/journal.pone.025869	Original Article
574	K. Kagami, N. Ishiguro, T. Yamada, 他	感染制御部	Efficacy and safety of colistin for the treatment of infections caused by multidrug-resistant gram-negative bacilli	J Infect Chemother 2021 Vol. 27 Issue 3 Pages 473-479 DOI:	Original Article
575	Takuya Saito, Mitsuhiro Ishida, Atsushi	児童思春期精神医学研究 部門	Efficacy and Safety of Duloxetine in Children and Adolescents with Major Depressive Disorder in Japan: A	J Child Adolesc Psychopharmacol. 2022 Apr;32(3):132-142. doi:	Original Article

計575件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
<p>・ 手順書の主な内容</p> <p>「国立大学法人北海道大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」に基づき、「北海道大学病院生命・医学系研究倫理審査委員会内規」及び「北海道大学病院生命・医学系研究倫理審査委員会標準業務手順書」を整備し、当倫理審査委員会の運営手続き等について定めている。</p> <p>手順書は総則、審査委員会設置者の責務等、生命・医学系研究倫理審査委員会の役割・責務等、生命・医学系研究倫理審査委員会事務局の各章から構成され、「ヘルシンキ宣言」の趣旨に添い人を対象とする生命科学・医学系研究を審議するための手順を規定している。</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー」及び「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント内規」を整備し、本院において実施する臨床研究に係る利益相反の適切な管理、審査及び指導等について必要な事項を定めている。</p>	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回
---------------------------------------	------

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>【タイトル】 臨床研究法における研究立案のポイント①臨床研究法ならではの留意点②プロトコル雛形の使い方</p> <p>【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育</p> <p>【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者</p> <p>【研修時間】 1時間30分</p> <p>【研修内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療法に基づく「臨床研究中核病院」 ・ 臨床研究法における臨床研究について ・ 臨床研究法対応の研究計画書雛形について <p>【実施日】 令和3年4月16日</p> <p>【タイトル】 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の概要と当院における対応</p> <p>【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育</p> <p>【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者</p> <p>【研修時間】 1時間30分</p> <p>【研修内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 策定の経緯等 ・ 生命・医学系指針策定に係るポイント ・ 新設の項目 ・ 北海道大学病院における審査体制 ・ 生命科学・医学系指針施行後の手続き <p>【実施日】 令和3年5月28日</p> <p>【タイトル】 研究の意義は常に必要なのか：社会的価値論争に学ぶ</p> <p>【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育</p> <p>【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者</p> <p>【研修時間】 1時間30分</p> <p>【研修内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究におけるリスクベネフィット評価-「研究の意義」は「社会的なベネフィット」として概念化 ・ 社会的価値をめぐる論争-研究によっては社会的なベネフィットが厳しく問われなくともよいのではないか、という近年の問題提起 <p>【実施日】 令和3年8月3日</p> <p>【タイトル】 生命科学・医学研究の倫理と審査</p> <p>【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育</p> <p>【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者</p>	

【研修時間】 1時間30分

【研修内容】

- ・ ゲノム情報の特異性と指針統合の経緯
- ・ 新統合指針のポイント
- ・ 臨床研究審査の視点

【実施日】 令和3年9月30日

【タイトル】 臨床研究法と倫理指針の見直しについて

【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育

【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者

【研修時間】 1時間30分

【研修内容】

- ・ 臨床研究法の概要
- ・ 見直しまでの経緯・今後の方向性
- ・ 中間整理の概要

【実施日】 令和4年3月18日

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院は北海道の「最後の砦病院」として高度先進医療を実践するとともに、医育大学として初期臨床研修医のほか、各領域の後期研修医（専攻医）や専門医・指導医資格取得者、さらに国外の医師免許取得者（臨床修練医）に対する高度医療技術の維持・習得を目指し、様々な研修を行っています。教育資源としては、大学病院に特有の稀少症例や難治症例に加えて、北海道内の関連病院と連携して多様な臨床経験ができる様、各領域で研修体制を整備しています。このような体制のもと、全人的な診療能力を有する専門医を育成するとともに、リサーチマインドを涵養するため、大学院での研究活動を推奨し、新たな診断治療法の開発をすすめています。平成30年度から新専門医制度が導入され、当院では総合診療科を除く18の基本領域において基幹施設として研修専門委員会を設置し、専門医制度整備指針に則って専門研修プログラムを取りまとめました。初期臨床研修修了後は、各科専門研修プログラムに沿って、当院および研修連携施設において臨床研修を行なって所定の修了要件を満たしますと、各基本領域の専門医資格試験を受験することが可能になります。尚、専門研修プログラムは、女性医師など専攻医の多彩な背景やニーズを考慮して多様な研修が行える様、配慮されています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	707人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊嶋 崇徳	血液内科	教授	37年	内科
真部 淳	小児科	教授	38年	小児科
氏家 英之	皮膚科	教授	20年	皮膚科
久住 一郎	精神科神経科	教授	38年	精神科
平野 聡	消化器外科Ⅱ	教授	34年	外科
岩崎 倫政	整形外科	教授	34年	整形外科
渡利 英道	婦人科	教授	32年	産婦人科
石田 晋	眼科	教授	31年	眼科
本間 明宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	33年	耳鼻咽喉科
篠原 信雄	泌尿器科	教授	38年	泌尿器科
藤村 幹	脳神経外科	教授	28年	脳神経外科
工藤 與亮	放射線診断科	教授	28年	放射線科
森本 裕二	麻酔科	教授	36年	麻酔科
松野 吉宏	病理診断科	教授	37年	病理
安本 篤史	検査・輸血部	助教	18年	臨床検査 (H31～R5年度受入休止)
早川 峰司	救急科	准教授	25年	救急
山本 有平	形成外科	教授	38年	形成外科
池田 聡	リハビリテーション科	准教授	32年	リハビリテーション

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
無し

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

1 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況

別紙

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
1	北海道大学病院 6-2病棟 急性脳卒中(t-PAなど)勉強会	超急性期脳卒中治療に関する知識習得	年2回	40名
2	消化器内科セミナー	様々な分野の知識習得	年4回	120名
3	院内肺がんボード	知識技術の向上	年1回	25名
4	心電図研修	知識技術の向上	年1回	10名
5	医療技術部他職種研修 Web開催	医療技術職員がより確実な職種間業務連携を意識したチーム医療を推進するため	年1回	201名
6	医療の国際化に対する研修	外国人患者受入れのために医療技術職員として心がけておくべき事項を整理し、医療の国際化を推進できる医療人を育成すること	年1回	377名
7	令和3年度医療技術部の管理業務に関する研修会	診療・職場環境を改善するための管理業務に関する研修	年1回	61名
8	臨床遺伝子診療部・腫瘍センター・がん遺伝子診断部・がんプロ共催 令和3年度講演会	臨床遺伝知識獲得のため	年1回	77名
9	新卒者看護技術研修(呼吸理学療法・廃用症候群の予防)	新卒者看護師への研修	年1回	97名
10	特定行為研修 演習:臨床薬理学 12回	看護師の特定行為習得のための研修	年1回	2名
11	令和3年度第1回薬剤部BLS講習会	一次救命処置(BLS)研修	年1回	10名
12	医薬品に関する講習会	危険薬の取り扱い	年2回	29名
13	MRI安全講習	MRIのオーダ、検査前の金属チェック、検査の説明、検査の付き添いおよび検査室への出入り、検査の施行等に係るMRIの安全利用のための研修	年1回	2000名
14	医療放射線研修	CT検査、核医学検査、血管造影検査のオーダにあたり、検査の正当化と被ばく低減に関する知識を習得する	年1回	2000名
15	PPE学習会	正しいPPEの取り扱い習得	年1回	30名
16	オリンパス鉗子取り扱い学習会	学習・啓蒙目的	年1回	16名
17	看護助手研修	グリッターバグによる手洗い演習	年1回	4名
18	手指衛生演習	グリッターバグによる手洗い演習	年1回	32名
19	ダヴィンチ洗浄ラック学習会	新規導入機器	年1回	12名
20	針刺し・切創・皮膚粘膜汚染予防対策KYT	危険予知能力向上	年1回	9名
21	滅菌バック学習会	滅菌バックの取り扱い習得	年1回	11名
22	滅菌包装材学習会	滅菌包装材の基礎知識	年1回	24名
23	ロボット手術器械洗浄学習会	手術器械の適切な洗浄方法習得	年1回	6名
24	KYT(概論)	知識習得	年1回	26名
25	経食道的エコープローブ取り扱い学習会	経食エコーの取扱い知識再確認	年1回	13名
26	材料室 基礎学習会 「組立て編」、「洗浄編」、「滅菌編」	材料室業務の組立て作業内容の基礎知識習得	年3回	22名
27	滅菌作業工程学習会	滅菌作業手順の基礎知識習得	年1回	13名
28	令和3年度材料室一次救命講習会(DVD)	一次救命処置(BLS)	年1回	40名
29	物流管理センターNC BLS演習(実技)	一次救命処置(BLS)研修	年1回	39名
30	令和3年度初任職員オリエンテーション	新たに本院に採用される医療職員及び事務職員に対して、本院職員として必要な基礎知識を習得させるために実施する	年1回	171名
31	令和3年度第1回新規採用者多職種合同研修(コミュニケーション)	職種間連携の必要性を理解し、組織の一員である医療職者として責任ある行動がとれる	年1回	219名
32	令和3年度第2回新規採用者多職種合同研修(臨床倫理)	医療職者として、臨床倫理の重要性を認識し、患者・家族と行われている医療の倫理的問題について、正しく共有することをめざす	年1回	141名
33	部署内救急シミュレーション	一次救命処置(BLS)研修の実施	年1回	11名
34	北海道緩和ケア研修会(北海道大学病院主催)WEB開催	がん診療連携拠点病院の指定要件のため	年1回	15名
35	J M I P受審に向けた指導・助言	J M I P受審に向けた指導・助言	年1回	68名
36	第17回 北海道HIV/AIDS歯科医療研究会	感染対策の普及	年1回	200名
37	「2021年度日臨技臨床検査精度管理報告会の部内報告会」	知識修得	年1回	52名
38	「ABO主副不適合骨髄移植後のドナー赤血球生着後にレシピエント血液型」	知識習得	年1回	51名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
39	「u-TRIPS説明会」	知識習得	年1回	88名
40	「針刺し・粘膜曝露時の対応」	針刺し・粘膜曝露時の対応	年1回	67名
41	「内部精度管理規定：0-00-rul-19」	知識習得	年1回	62名
42	QMS勉強会	学習・啓蒙目的	年5回	361名
43	検査・輸血部BLS/AED・VVR・災害時避難誘導講習会	BLS/AED・VVR・災害時避難誘導の理解	年1回	65名
44	定期勉強会「コロナ（SARS-CoV-S）当院の検査の現状」	コロナ検査の現状理解	年1回	57名
45	予行会「音響特性を考慮した乳腺病変の最適な超音波画像撮像条件の検討」	学会発表に向けた予行発表	年1回	48名
46	予行会「心内圧波形に基づく拡張早期閉鎖弁逆流の発生機序に関する考察 「乳房皮下に発生した間節リウマチ治療中に発生するリンパ腫の1例」	学会発表に向けた予行発表	年1回	33名
47	予行会「尿沈渣中に針状のヘマトイン結晶を認めた2症例」	学会発表に向けた予行発表	年1回	52名
48	予行会「北海道大学病院における新型コロナウイルス検査～唾液検体運用を中心に～」	学会発表に向けた予行発表	年1回	45名
49	「採血室での治験キットの取り扱いについて」	取り扱い防止	年1回	75名
50	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構職員研修会	機構職員の研修	年1回	50名
51	「重症度、医療・看護必要度」評価指導者研修	部署内で適切な評価ができるよう行動できる	年1回	78名
52	1年目看護職員研修	看護専門職としての自覚を持ち、自ら学び・成長していく必要性が分かる	年1回	97名
53	2年目看護職員フィジカルアセスメント研修	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	71名
54	3年目看護職員研修（グループワーク）	3年目の果たす役割を明確にし、看護に対する自己啓発ができる	年2回	88名
55	育児復帰者対象「職場復帰直前講習」	育児休業者の円滑な職場復帰のために、実践に必要な知識を得て自己のキャリア開発を推進する	年1回	24名
56	医療情報 システム オリエンテーション	医療情報システムについて理解する	年1回	123名
57	院内認定がん看護エキスパートナース養成コース	治療や病期に応じた的確なアセスメント力を身につけ、専門的ながん看護の実践方法を習得する	年4回	34名
58	看護過程研修	看護過程を展開する能力を高め、看護実践の一連の過程を記録できる	年1回	101名
59	看護研究研修	臨床における看護研究の基礎とプロセスを学ぶ	年1回	92名
60	看護倫理研修	チーム医療の中で患者の権利擁護者としての看護師の役割を理解し倫理的視点で看護実践に取り組む	年1回	44名
61	合同副看護師長研修	組織における副看護師等としての役割を体験を通じて理解する	年1回	80名
62	在宅療養支援エキスパートナース認定研修 学びの共有	1. 在宅療養支援のための知識とスキルを学ぶ 2. 患者と家族の視点にたち、次の療養先の場を計画的に調整する能力を高める	年1回	10名
63	指導看護師養成研修ベーシックコース	実習指導や新人看護師等を対象とした指導力の向上を図る	年1回	16名
64	初任職員研修 看護部オリエンテーション	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護業務について理解する	年1回	120名
65	新人看護職員技術研修・補完研修	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年4回	358名
66	新人看護職員技術研修	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年6回	99名
67	新人看護職員フィジカルアセスメント研修	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	97名
68	新任看護職員等 看護必要度研修	看護必要度について理解する	年1回	99名
69	中国語講座	北海道大学病院の国際化に対応できる人材を育成するために、看護職の中国語会話能力を向上する	年1回	7名
70	認知症看護実践力向上研修	認知症看護の実践能力を高める	年1回	20名
71	プリセプター研修	プリセプターシップの概念を理解し、プリセプターを効果的に支援できる	年1回	97名
72	看護部リーダー研修	看護チームにおけるリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	年1回	47名
73	倫理事例検討会	他者の価値観を理解し倫理的行動をとることができる	年1回	24名
74	令和3年度 専門領域別研修会（HIV・エイズ看護）	HIV感染症の基礎知識一診療科別ケアのポイントを学ぶ	年1回	5名
75	令和3年度 専門領域別研修会（感染管理）	標準予防策と血管内留置カテーテル管理を学ぶ	年1回	26名
76	令和3年度 専門領域別研修会（クリティカルケア看護）	ホバーマットを使用した人工呼吸器患者の体位変換（腹臥位、前傾側臥位、完全側臥位）	年1回	6名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
77	令和3年度 専門領域別研修会（認知症看護）	認知症ケア加算と看護ケアの実際を学ぶ	年1回	24名
78	看護助手研修	チーム医療における看護助手の役割を理解し、実践できる	年1回	125名
79	静脈注射エキスパート認定研修	静脈注射に関する高度な知識・技術を持つ静脈注射エキスパートナースを育成する	年1回	45名
80	令和3年度 接遇・コミュニケーション技術研修	接遇に関する基本的な知識習得	年1回	1049名
81	第1回医療安全管理部・感染制御部合同研修	全職員が年2回医療安全および感染対策についての知識を習得するため	年1回	2886名
82	令和3年度感染制御部・医療安全管理部合同講演会(春の講演会)	学習・啓蒙目的	年1回	20名
83	令和3年度第2回医療安全管理部感染制御部合同研修	「医療安全の基本」「BLS/AED講習」「COVID-19への対応」「抗菌薬適正使用について」	年1回	2845名
84	医薬品に関する講習会「危険薬の取り扱い」	医薬品に関する知識を習熟し、効果的な指導が展開できる	年1回	29名
85	新任リスクマネージャー集合講習会	新任リスクマネージャーが知っておいてほしいこと、医療安全に関する知識と体制、役割	年1回	22名
86	医療機器に関する研修「輸液・シリンジポンプ編」	1. 輸液・シリンジポンプの操作に関する知識・技術を習熟する。 2. 部署内で輸液・シリンジポンプが安全に使用できているか評価を行い、インシデント軽減のための効果的な指導が展開できる。	年1回	28名
87	人工呼吸器安全管理講習会 I 基礎課程	人工呼吸器が稼働している部署の管理水準を向上すると共に、現場の人工呼吸器管理に関する指導的人材を育成する	年5回	84名
88	専門領域に関する研修	人工呼吸器安全管理講習会 II 認定過程	年1回	9名
89	院内学級 感染対策講習会	学習・啓蒙目的	年1回	7名
90	看護部新人オリエンテーション	学習・啓蒙目的	年1回	126名
91	感染制御部専門領域別研修会	学習・啓蒙目的	年1回	26名
92	司法精神医療センター入職者看護師オリエンテーション	学習・啓蒙目的	年1回	5名
93	司法精神医療ナースセンター職員オリエンテーション	学習・啓蒙目的	年1回	2名
94	夜間補助者オリエンテーション	学習・啓蒙目的	年1回	1名
95	薬剤部新人オリエンテーション	学習・啓蒙目的	年3回	8名
96	夜間看護補助者研修	学習・啓蒙目的	年4回	8名
97	令和3年度医事課医師事務作業補助員研修	初任者研修	年4回	8名
98	医師事務作業補助者研修会	加算要件の指定研修	年1回	8名
99	保険診療に関する講習（医科）	保険医療に関する知識習得	年2回	800名
100	令和3年度医事課医師事務作業補助員研修	初任者研修	年4回	5名
101	ハラスメント研修会	過ごしやすい職場環境を目指すため、パワハラについて理解し、予防するために気をつけることを学習	年1回	338名
102	病院清掃に関する研修会	病院清掃における基本事項及び留意点を理解し、適切に実践できる	年1回	80名
103	メンタルヘルス研修会	職場における心の健康作りにおけるラインケアについての知識を身につける	年1回	807名
104	腰痛予防学習会	腰痛予防におけるセルフケア方法や介助のコツについての知識習得	年1回	167名
105	安全衛生管理室 BLS研修	一次救命処置（BLS）	年1回	5名
106	HeartMateII, III	特定機能病院における医療機器の定期研修	年8回	24名
107	VN600, TN500	医療機器の新規導入研修	年2回	22名
108	サーボエア	医療機器の新規導入研修	年16回	205名
109	人工呼吸器について	新規導入医療機器の研修	年1回	291名
110	着用型除細動器	新規導入医療機器の研修	年1回	4名
111	ファビアンNIV	医療機器の新規導入研修	年2回	16名
112	閉鎖式保育器	新規導入医療機器の研修	年1回	13名
113	輸液シリンジポンプ	医療機器の操作習得の研修	年1回	14名
114	レサシフロー、インキュアーチ	医療機器の新規導入	年2回	13名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
115	人工心肺装置・補助循環装置	新規導入医療機器の研修	年1回	45名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		

2 業務の管理に関する研修の実施状況

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名	目 的 等		
1	新任看護師長研修	看護師長の役割を理解する	年1回	4名
2	新任副看護師長オリエンテーション	副看護師長の役割を理解し実践できる	年1回	10名

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 秋田 弘俊
管理担当者氏名	総務課長 医事課長 医療支援課長 薬剤部長

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	病院日誌	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・病院日誌は総務課にて保管管理。 ・診療録を病院外に持ち出す際の取扱いについては、「北海道大学病院における個人情報管理に関するガイドライン」を定め、個人が特定できる情報については、個人情報保護管理区域外への一切の持出しを禁止し、相当程度に個人の特定が困難な情報については、保護管理者への届出を行った上でパスワードロックを用いた媒体でのみ持ち出しを許可している。 ・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。 ・平成22年に電子カルテを導入し、それ以前の紙カルテについては、10年間の保存期間を設けて診療録管理室にて保管している。また、紙媒体で生成される説明承諾書等については、スキヤニングして電子カルテに取込み、かつ、原本も保管している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録管理室	
		看護記録	診療録管理室	
		検査所見記録	診療録管理室	
		エックス線写真	診療録管理室	
		紹介状	診療録管理室	
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録管理室			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各課において適切に保管している。
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	臨床研究開発センター	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
	規則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	適切に保管している。

		医療に係る安全管理のための委員会 の開催状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための職員 研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等 の医療に係る安全の確保を目的 とした改善のための方策の状況	医療支援課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	適切に保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	各課において適切に保管している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	医療支援課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療支援課	
		職員研修の実施状況	医療支援課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課、経営企画課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	総務課長 井川 恭輔, 経営企画課長 三浦 順一
閲覧担当者氏名	総務係長 小倉 健二, 経営企画係長 王生 晶子
閲覧の求めに応じる場所	総務課事務室, 経営企画課事務室
閲覧の手続の概要 利用者は必要に応じ, 文書により閲覧責任者に閲覧を申し出, 閲覧担当者は閲覧責任者に確認のうえ閲覧に応じる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 本院の医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療に係る安全管理のための委員会等に関する組織の基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本的事項 4. 医療機関における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応ならびに原因究明のための調査および分析に関すること 2. 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案および実施に関すること 3. 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること 4. 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握および必要に応じた方策の見直しに関すること 5. 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること 6. 医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること 7. その他医療事故等に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する講演会 「採血・穿刺時の神経損傷予防」（2019年度講演会の録画） ・ 受講方法：エルゼビア社のeラーニングツール「Safety Plus」による受講 2. 医療安全・感染管理に関する講習会（必修研修） 「2020年度のインシデントを振り返って」，「北海道大学病院における個人情報管理」， 「COVID-19への対応」，「抗菌薬適正使用について（外来における急性気道感染症）」 ・ 受講方法：対象者を制限した集合形式 エルゼビア社のeラーニングツール「Safety Plus」による受講 3. 医療安全・感染管理に関する講習会（必修研修） 「医療安全の基本」，「BLS/AED講習」，「COVID-19への対応」，「抗菌薬適正使用について」 ・ 受講方法：エルゼビア社のeラーニングツール「Safety Plus」による受講 4. 医療安全の日講演会 「当院の医療安全活動のトピックス」 ・ 受講方法：対象者を制限した集合形式， エルゼビア社のeラーニングツール「Safety Plus」による受講 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

1. 報告書に伴う問題点の把握方法(各部署、安全管理部門の問題点の認識)

インシデント報告に関する分析からフィードバックまでの対応(職員への周知と再発防止)

- 1) 専任リスクマネジャー(GRM)が当該リスクマネジャー(RM)へ事実確認を行い、報告内容の監査・分析を行い、問題事例や有害事象の場合は、当該RMとの検討、患者の影響度、患者への対応状況などを協議し対応している。
- 2) レベル3bの有害事象の場合は、当該部署のRMに当該部署として検討を行った結果と再発防止策について、事例報告書として詳細報告を要請し、事例報告書に基づき原因・起因を分析し、病院長に報告している。
- 3) レベル4、5の有害事象は、GRMが聞き取り・現場検証などの事実調査を行い、当該RM・関係者との事象の検討、患者の影響度、患者への対応などを協議している。GRMが作成した検証資料に基づき、病院長・医療安全管理部長・当該部署の責任者とRMにより原因検討を行い、重篤な事案の場合は医療事故対策特別部会で原因検討の上、病院の見解を明確にしている。

2. 問題点の分析方法(各部署、安全管理部門の問題点の分析方法)

- 1) 必要な事例については、専門分野の委員を指名し、WG、院内医療事故検討会を設置し、原因分析・再発防止策を作成する。
- 2) レベル3a以上の報告は、毎週月曜日にインシデントレポート検討・判定会において、レベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討を行うとともに、報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医療事故報告制度への報告対象事例の判定を行っている。

3. 改善策の検討方法

- 1) 報告の全体的分析は、毎月と年間において実施し、発生レベル・報告状況・場面別に集計し、発生場面別や職種別の発生状況について定量的分析を行い「医療安全に関する報告集計」を作成し、各委員会に周知を図っている。また、病院運営会議においても報告し、周知を図っている。
- 2) 各診療科・部署の安全管理を図るために、前年度の当該診療科・部署での報告について年間集計し、当該診療科・部署での優先的課題を分析し、年度前半で、診療科・部署RM等で対策を検討し、年度末に再度、今年度の当該診療科・部署での報告について集計し、優先的課題の評価を実施し、次年度に向けて継続事項を検討している。
- 3) 医薬品・医療機器に関する事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システム改善・教育体制などの企画を検討している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容： 北海道大学院内感染指針は以下の項目から成っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染対策に関する基本的な考え方 2 院内感染対策に関する管理組織機構 <ul style="list-style-type: none"> (1) 院内感染対策委員会 (2) 院内感染対策特別部会 (3) 感染制御部 (4) 感染防止対策チーム (5) 感染対策マネージャー連絡会議 3 職員研修に関する基本方針 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5 アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針 6 患者等への情報提供と説明に関する基本方針 7 その他院内感染対策の推進のために基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染防止対策の検討及び推進 ・ 院内感染防止の対応及び原因究明 ・ 院内感染等の情報収集及び分析 ・ 院内感染防止等に関する職員の教育・研修 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年20回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回院内感染対策講演会（医療安全管理部と共催）：×2回（①集合形式 ②eラーニング） <ul style="list-style-type: none"> ①「2020年度感染症とその対策を振り返って」「抗菌薬適正使用について」 ②「COVID-19への対応」「抗菌薬適正使用について（外来における急性気道感染症）」 ・ 第2回院内感染対策講演会（医療安全管理部と共催）：eラーニング 「COVID-19への対応」「抗菌薬適正使用について」 ・ 専門領域別研修会： 「標準予防策と耐性菌検出患者の感染対策」「血管内・尿道留置カテーテル管理」 ・ 新入職員オリエンテーション：「COVID-19への対応」×2回 ・ 司法精神医療NC職員オリエンテーション：「北大病院の感染管理」 ・ eラーニング <ul style="list-style-type: none"> 「インフルエンザ(2021年度版)」 「感染性胃腸炎(2021年度版)」 「検体採取(2021年度版)」 「手指衛生、PPE、咳エチケット(2021年度版)」 「標準予防策・感染性経路別予防策(2021年度版)」 「新型コロナウイルス感染対策からみた北大病院の換気状況とその対策」 「WHO手指衛生(2021年度版)」 ・ 部署内研修×6 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「感染症のアウトブレイク発生に伴う保健所への報告基準」を制定し、保健所や大学内の報告に係る基準及び方法等について整備済みである。（平成23年6月17日医政指発第1号に基づき、平成23年8月25日病院執行会議において承認） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施 	

状況の把握と指導を行っている。

- ・耐性菌サーベイランス、COVID-19等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
- ・加算2・3を算定する各連携医療機関とのカンファレンスおよび加算1の連携医療施設と加算2・3の連携医療施設（各加算1連携医療施設の加算2・3医療連携施設を含む）合同カンファレンスの開催等により市内の医療機関および札幌市保健所との連携を図っている。
- ・平成24年4月から、感染制御部専任の医師（医員）1名を新たに配置した。
- ・感染制御部専任の事務補佐員（非常勤職員）1名を継続して配置し、平成24年7月から事務職員（常勤職員）1名を配置した。
- ・平成28年11月から、感染制御部専任の看護師1名を新たに配属した。
- ・平成30年12月から、感染制御部専任の薬剤師1名を新たに配属した。
- ・令和3年1月から、感染制御部専任の医師（助教）1名を新たに配属した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 研修医オリエンテーション「処方全般」 開催回数：1回（2021年4月資料配布のみ）、対象：医師、歯科医師</p> <p>2. 新任職員研修「薬の知識とリスクマネジメント」 開催回数：1回（2021年4月資料配布のみ）、対象：医師以外全職種</p> <p>3. 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」 開催回数：2回（2021年8月18日、9月1日）、対象：看護師</p> <p>4. 異動後医師研修「危険性の高い薬剤の取り扱い」 開催回数：2回（2021年4月、10月オンデマンド）、対象：医師</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全使用に関する手順書</p> <p>1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト</p> <p>(1) 特に安全管理が必要なリスト</p> <p>(2) 配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬</p> <p>(3) 誤認に注意薬剤</p> <p>2) 指示・伝達ルール</p> <p>(1) 指示・伝達ルール</p> <p>(2) 口頭指示は原則禁止</p> <p>3) 内服薬に関する管理基準</p> <p>(1) 内服薬管理基準</p> <p>(2) 薬剤管理指導業務手順書</p> <p>(3) 入院患者の持参薬確認業務手順書</p> <p>(4) 誤調剤に対する調剤室対応手順</p> <p>4) 注射薬に関する管理基準</p> <p>(1) 注射業務管理基準</p> <p>(2) 注射薬混合調製（ミキシング）手順書</p> <p>5) 危険性の高い薬剤に関する手順書</p> <p>(1) 危険性の高い薬剤の取扱い手順書</p> <p>(2) カリウム注射剤取り扱いマニュアル</p> <p>(3) アナフィラキシーショックへの対応</p> <p>(4) 抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および処置・手術時の対応</p> <p>6) 抗がん薬に関する手順書</p> <p>(1) 院内がん化学療法要項</p> <p>(2) がん化学療法実施運用手順書</p> <p>(3) 抗がん薬被爆防止に関するマニュアル</p> <p>(4) 院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決め</p> <p>(5) 血管外漏出およびアレルギー反応発生時の対応について</p> <p>7) 医療安全情報管理</p> <p>(1) 医療安全性情報管理体制</p> <p>(2) 薬剤部における医薬品情報管理マニュアル</p> <p>8) 医薬品管理</p> <p>(1) 病棟における注射剤管理業務手順書</p> <p>(2) 病棟における薬剤業務基準</p>	

- (3) 麻薬管理取扱い手順
- 9) インスリン療法マニュアル
 - (1) インスリン療法マニュアル
 - (2) インスリンラインナップ
 - (3) 各製剤の使い方
 - (4) 参考資料
- 10) 医薬品の採用に関する手順書
- 11) 他施設との連携に関する手順書

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：
 - 1) シドフォビル；造血幹細胞移植後あるいは免疫抑制後に発症した重症アデノウイルス感染症
 - 2) I-131 MIBG注射液；難治性神経内分泌腫瘍
 - 3) 3,4-diaminopyridine；ランバート・イートン筋無力症候群
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 医薬品の情報管理体制として、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として、医薬品医療機器総合機構（PMDA）からの医療安全情報は「PMDA医療安全情報」「緊急安全性情報」「安全性速報」「PMDAから医薬品適正使用のお願い」としてメールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。
 - ・ 医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。
 - ・ 未承認薬に関して、未承認新規医薬品等管理部において当院で使用したことのない医薬品または高度管理医療機器であって「医薬品医療機器法」による承認または認証を受けていないものの提供に関する申請の受理および提供の可否について審査する体制としている。
 - ・ 適応外使用に関しては、薬剤部においては調剤時に確認・記録を実施している。また、医薬品適応外使用（禁忌含む）の把握と申請の徹底を図るため、医薬品適正使用ワーキングを通じて申請状況を親委員会である医薬品安全管理体制専門委員会に諮ることとなっている。また、薬剤部においては適応外ならびに禁忌薬使用状況を疑義照会履歴等で定期的に同委員会に報告し、問題がある場合は適宜、委員会から指導を行う体制としている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年66回+eラーニング
<p>・ 研修の主な内容： 【ME機器管理センター】 医療機器の新規導入と定期研修として医師，看護師，臨床工学技士，診療放射線技師，理学療法士等を対象として対面研修を実施した。令和3年度の実績はECMO装置や人工呼吸器を中心に計57回開催し延べ参加人数は373名であった。 また特定機能病院の定期研修として研修対象者をそれぞれの機器を扱っているがまだ十分使いこなせていない、あるいは、これから扱う可能性のある医師・看護師・医療職などの職員として、人工呼吸器，人工心肺装置，血液透析装置，除細動器，閉鎖式保育器について電子カルテを用いたEラーニングを動画・試験・アンケートの内容で公開し延べ受講人数は445名であった。</p> <p>【放射線部】 診療用高エネルギー放射線発生装置（2021/6/1，7/4，12/17） 診療用放射線照射装置（2021/6/17，7/1，7/19，12/23） 陽子線治療装置（2021/6/10，12/20）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定（有） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 【ME機器管理センター】 診療科・各病棟で購入した医療機器を「各部署管理機器」として登録し，保守点検（内蔵時計の調整含）について，医療機器安全管理体制専門委員会のもと各診療科と各病棟の保守の必要性を調査しその結果に基づきメーカー点検を実施した。中央管理部門はME機器管理センターで集約し院内定期点検もしくはメーカー保守を実施した。</p> <p>【放射線部】 放射線治療機器における、①始業点検、②2回/月以上の出力線量測定、③3ヶ月及び6ヶ月毎に放射線特性及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。他に製造メーカーと保守契約を結び年間4回の定期メンテナンスを実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：該当なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 【ME機器管理センター】 医療機器の添付文書や取扱説明書に記載されている「使用目的と効果」以外の使用方法，「禁忌・禁止」を含む目的外使用の有無を年1回院内全体で調査している。また，適宜上記に該当する内容を含むものは医療安全管理部で相談フォームを設け対応している。令和3年度は医療機器安全管理体制専門委員会にて計24件についての報告・把握・審議を実施した。</p> <p>【放射線部】 月に1回定例で放射線治療品質管理会議を開催。放射線科治療医、医学物理士、診療放射線技師で情報共有を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者として、副病院長（医療安全担当）（医師）を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p> 薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p> 薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師（室長）） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームド・コンセントについては、院内マニュアルに沿って実施し、診療録管理室が現状のモニタリングを行い、指導等を行っている。また、説明する機会も増えていることから、関連部門（各診療科・看護部）・医療安全管理部と協議してマニュアルの改正等（要項を含む）があれば、職員に周知する。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>：診療録の記載内容の確認について、毎年、各部署の診療録点検を実施し指導している。</p> <p>また、点検結果をリスクマネジャー連絡会議において報告し、各部署へ周知し、適切に診療録等の管理が行われるようにしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（６）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（１）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療事故及びインシデント（以下「医療事故等」という。）報告の受理及び分析に関すること。 2 医療安全管理委員会の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 3 リスクマネジャー連絡会議の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他リスクマネジャー連絡会議の庶務に関すること。 4 医療安全に関する教育及び研修に関すること。 5 医療現場からの医療事故等の相談に関すること。 6 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。 7 医療事故等の発生時における患者又はその家族への対応状況の確認及び必要な指導に関すること。 8 医療事故等に対する原因究明の実施状況確認及び必要な指導に関すること。 9 医療安全に係る連絡調整に関すること。 10 医療安全の確保に資する診療の状況の把握に関すること。 11 職員の医療安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。 12 その他医療安全対策の推進に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 - 1 高難度新規医療技術の提供に関する実施申請の受理及び提供の可否について審査すること。
 - 2 高難度新規医療技術の実施における手順等の遵守状況の確認に関すること。
 - 3 その他高難度新規医療技術に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 - 1 未承認新規医薬品等の提供に関する申請の受理及び提供の可否について審査すること。
 - 2 未承認新規医薬品等の提供に関する実施状況の確認に関すること。
 - 3 その他未承認新規医薬品等に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 264 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 105 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- 1 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること。
- 2 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施に関すること。
- 3 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。
- 4 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること。
- 5 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。
- 6 医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること。
- 7 その他医療事故等に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：弘前大学））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：福島県立医科大学））
- ・技術的助言の実施状況

※自己チェックシートによる書面審査を実施，自己チェックシートへの記載内容についての質問および回答。

<自己チェックシート（I）医療安全>

1 I-1 “・アクシデントの報告体制が分かる資料があればご提示ください。また、昨年度のアクシデント件数をご教示ください。（過去5年程度）”

回答：“病院情報システム内に「医療安全報告書」の入力フォームがあり、すべてのインシデント（アクシデントも含む）事象を入力（報告）することになっています。レベル3b以上の事象については過失がない合併症など、有害事象が発生した場合にはオンラインでの報告だけではなく直接医療安全管理部に電話報告をする事になっています。報告された事象は事実内容を確認し、検討会をへてアクシデントとするかを決定しています。

当院では、インシデントレベル3b以上かつ過誤があるものをアクシデントと定義しております。2020年度のアクシデント件数は1件。（2016年度は6件、2017年度は7件、2018年度1件、2019年度5件）”

2 I-2 “・オカレンスシステムは採用していないとのことですが、代わりになるシステムがありますか。・ある場合、医療安全管理部に報告された事象はどのようにフィードバックされているでしょうか。

回答：“・オカレンスシステムの変わりになるシステムは有りません。

3 I-2 “・M&Mカンファランスなどは行われていますか。また医療安全管理部はどのように把

握し、介入していますか。

回答：・M&M カンファレンスは各診療科毎に実施されています。医療安全管理部での把握・介入はしていません。

4 I-3 “死亡事例はどのような仕組み（プロセス）で報告されるでしょうか。・安全管理部門で確認する具体的な方法（フロー図）があればご提示ください。・外来死亡患者は含むでしょうか。”

回答：“医師は入院患者が死亡（死産）した場合、過失の有無に関係なく、全事例を病院情報システム内の「死亡・死産事例報告書」を用いて 48 時間以内に報告することとなっております。死亡死産事例報告書が入力されると自動で、医療安全管理部員全員へ通知されるシステムになっています。（入力項目は 別紙 1 テンプレートをご参照ください）

外来死亡は含みません。”

5 I-5 抽出されたインシデント事例は医療安全管理部門内でどのように共有されているでしょうか。

回答：判定会の構成員全員へ院内で発生した事例が報告される仕組みになっております。毎週月曜日に判定会を開催し、GRM が抽出した事例の内容を検討しております。判定会は、医療安全管理部員（医師 2 名、歯科医師 1 名、薬剤師 2 名、看護師 2 名）、手術部副部長、ME 機器管理センター副部長、医療支援課（診療録管理室）、臨床研究支援部門長で構成されています。

6 I-5 “患者誤認防止の取り組みについて

①外来患者の誤認防止策として行っている取り組みはありますか

②入院患者はリストバンド以外で患者認証をしていますか。小児や皮膚が脆弱などのリストバンドを使用できない患者へはどのように対応していますか。ベットネームに患者バーコードは印字がありますか。”

回答：“①外来患者は ID カード・外来受診時に携帯する「患者基本カード」を携帯しているため、患者にフルネームを名乗ってもらい、さらに ID 番号を照合し患者確認を行っています（2 つ以上の個人識別情報で確認する事を原則としています）。

②小児科では小児用の柔らか素材リストバンドを導入しております。素材を変え装着可能か試すこと、装着困難な場合はネームホルダー等にリストバンドを入れ携帯したり、輪ゴムを利用し伸縮可能な状態にして衣類の上からリストバンドをつけるなど、「何らかの方法で身に着ける」方法を検討いただいています。それでも装着不可である場合には、患者へリストバンド装着の意義・装着しないことの不利益を説明し、都度フルネームを名乗り生年月日を伝える事、ID カードを携帯する事を説明します。診療科医師・看護師は、説明内容・装着できない理由を診療録に記載し、医療安全管理部に当該患者の氏名・ID 番号・入院期間を報告する事としています。

現在ベッドネームに患者バーコードの印字はありません（リストバンドでの認証を徹底するためにベッドネームのバーコードは廃止しました）。”

7 II-1 医療安全管理委員会をメール会議または資料配布で行ったとのことですが、開催方法を具体的に教えていただけないでしょうか？ また、その開催方法によるメリットや課題および課題への対応策について教えてください。

回答：“報告・審議事項など議題・関連資料を添付し委員へメール配信。回答票に質疑をとりまとめ・承認の有無を確認する。追加審議が必要な事は再度メールを追加配信し再審議を行う。

メリットは日程調整・委員会開催場所の確保が不要であること。課題は審議が深まらない為、検討内容が限られる。”

8 II-4-①～③ “・全職員対象の研修は通常は年に何回開催しているのでしょうか。昨年度は1回でしょうか。・集合研修会に参加できない職員にはどのように対応されているのでしょうか。受講率が96%ですが、残りの4%にはどのようにしていますか。・1回の研修時間はどのくらいに設定しているのでしょうか。・集合研修会の開始時間はどのように設定しているのでしょうか。（日中もあるのでしょうか）・研修テーマですが、カテゴリで「3」「7」「2」が選択されていますが、具体的にいったテーマを教えてください。”

回答：“・全職員対象の研修は通常年2回開催する事となっています。昨年度の開催は1回のみです。・集合研修に参加できない職員に対しては、通常はDVD視聴を行い、全員が受講できるようにしています。昨年度は市販のeラーニングシステムを試験導入であった為、システムの使用期限があり、残りの4%の職員は当該研修ツールを利用することができませんでした。その為受講できなかった職員への個別研修は実施出来ていません。・医療安全関連と感染制御関連合同で実施しており、1回の研修時間は15分×4種類の講義で、トータル1時間となるように構成しています。・上記の全職員対象の集合研修の開始時間は17:30となっています。・昨年度の研修テーマについてカテゴリ「3」は「指差し呼称について」、カテゴリ「7」と「2」のチェックは誤記です（感染制御関連）。”

9 II-5-① “・BLS研修会は、例年はどのように行っていますか。（回数、時間、内容、対象者など）・研修はどのくらいの間隔で再受講としていますか。（例えば、5年毎に再受講など）・委託職員に対しては行っていますか。”

回答：“・BLSに関する講義（座学）は毎年全員が視聴することとしています。・実技を伴うBLS訓練は、新規入職時に全員行う。それ以外は、部署単位でBLSを含む事例を緊急シミュレーションとして実施。または、医療安全管理部・救急科が企画するBLS・AED講習に参加する事となっています（年3～4回企画）。・BLEの実技について再受講の期間は定めていませんでしたが、今年度より5年に1回は実技訓練をおこなう事を決定しました。・委託職員に対しては、上記座学で使用する資料を配布

し閲覧してもらう。警備員は外部のBLS講習を受ける事が契約条件となっています。”

10 Ⅱ-5-② ・院内にCVC認定制度がありますか。ある場合、どのような内容ですか。

回答：・なし

11 Ⅱ-5-② ・CVC留置時の記録の書式（テンプレート）は設けていますか。あればご提示ください。

回答：・CVC留置の記録書式テンプレートは設けていません。

12 Ⅲ-1-① ・モニタリング項目のデータにはどのような傾向及び課題があるでしょうか

回答：・モニタリング項目は前年度との比較など、傾向の把握にはつながりますが、増加・減少の要因・改善策等は、部署毎に分析しなければわからない事が多く、院内全体の質の向上につなげることに困難さを感じています。

13 Ⅲ-1-① ・モニタリングではカルテ内容など、質的確認も行っていますか。行っている場合は、誰が担っていますか。例）医療情報管理士など

回答：“・カルテについては毎年全診療科を対象に診療録点検を実施しております。質的監査は5症例抽出し実施しております。・GRMと診療録管理士”

14 Ⅲ-1-① “インフォームド・コンセント（以下IC）について

当院ではICの遵守状況をモニタリングしていますが、貴院ではどのように対応していますか

①IC文書の院内の書式の取り決めがありますか。あればご提示をお願いします。

②ICに関するマニュアルはありますか。また侵襲がある手技は明文化されていますか。あればご提示をお願いします。

③申請する文書の承認までのフローはどのようになっていますか。”

回答：“①IC用のテンプレートあります（別紙2参照）。

上記「診療録点検」の際にICの実施・記録の内容を確認し、改善が必要な場合にはリスクマネジャーへ通知しています。

②ICに関するマニュアルがあります。侵襲のある手技の明文化はありません。

③説明承諾書の作成フローは別紙3をご参照ください。”

15 Ⅲ-1-① “インフォームド・コンセント（以下IC）について

④看護師の同席の基準を設けていますか。

⑤承諾書の有効期限についてはどのような考えでされていますか。

⑥入院中に同じ処置する場合に、毎回取得していますか。一入院ごとですか。

⑦外来患者の場合は、入院との違いはありますか。”

回答：“④看護師同席の基準については、治療方針の変更・病状悪化時の説明、危険性が高い手術に

については、基本的に説明時に同席するとしています。同席できなかった場合には、IC 後説明の理解・受け止め・質問の有無を確認し記録することとしています。

⑤手術は、基本的に手術毎に承諾を取得しています。ただし精神科のm-ECTなどは1入院中に複数回行われるため、その場合は一度取得した承諾書を複数回流用しています。

また同一疾患で2期的に分けて手術をする場合も、承諾書は初回に取得したものを2回目の手術時も有効なものとして取り扱っております。

⑥入院中に同処置をする場合には、毎回取得はしていません、ただし、病態の変化や合併症のリスクが高まるなど状態の変化がある時には、説明を追加し再取得する場合があります。

⑦外来患者と入院患者で違いはありません。”

16 IV-1 「その他の兼任」とありますが、どのような職種の方ですか。またどのような業務を担っていますか。

回答：その他の兼任は、診療情報管理士です。

17 IV-3 “専従の薬剤師に関して、専従の定義を業務時間の8割とすると、薬剤部内の基本業務に従事することは難しいのではないか。”

回答：薬剤部内の業務は月1~2回の日当直業務のため、8割は確保できています。

<自己チェックシート（Ⅱ）医薬品等>

I-3-③ “6 院外薬局からの疑義照会・トレーシングレポートにチェックが入っています。その点について伺います。院外薬局からの疑義照会・トレーシングレポートを薬剤部が受け、内容を確認し情報収集されているということでしょうか。そのための、薬剤部の体制を教えてください。

回答：“トレーシングレポートは、現在、検討中であり、門前の薬局から毎月疑義照会情報を提供してもらおう体制をとっています。

II-1-② “1) 申請や相談がありWGで判断されたもの。との記載について伺います。

WGとは、どういうものでしょうか。未承認・適応外の申請について判断する組織があるということなのでしょうか。”

回答：医薬品管理体制専門委員会の下部組織として「医薬品適正使用に関するWG」を設置し、ここで未承認新規医薬品に当たらない、適応外使用について協議し、エビデンスがあり安全に使用ができるもの、ガイドライン等に記載があるもの、海外で承認されているものなどを問題なしと判断しています。エビデンスが不十分やガイドライン等で使用すべきでないなどの記載があるものは、使用を推奨しないと判断し、それでも使用したい場合は、病院倫理委員会に申請し承認を得るように対応しています。

Ⅲ-2 “病院機能評価（3rdG：Ver2.0一般病院3、評価項目1.5.4）において、新規治療として未承認医薬品や医薬品の適応外使用の導入にあたっては、短期のみでなく、中長期的な臨床経過も確実にフォローされるべきとされております。当院では、使用期間終了時及び使用終了から1年後に報告（使用患者の有害事象の有無等）を求めています。ついては、貴院において中長期的な経過（特に使用終了後）のフォローがどのように行われているかご教示ください。”

回答：未承認新規医薬品については、使用毎に使用実施報告書を提出してもらい、長期的にフォローしています。適応外使用については、ガイドラインに記載があり、通常診療で使用しているものなどは、カルテに説明内容を記載してもらうなどの運用を行い、リスクが高いものなどは、別途、使用報告を求めるなどしており、事案別の対応をしています。また、有害事象があった場合は別途報告をすることとしています。

Ⅲ-2-① 未承認新規医薬品等の担当部門・評価委員会の開催実績（令和2年度分）が「0件」です。当院では、特に昨年度は新型コロナウイルス感染症の治療のための適応外医薬品の申請が多くありました。貴院では、それらの使用にあたり、どういう運用で使用を許可されたのか教えて頂けますでしょうか。実際、申請から使用希望日までが短期間で、さらにエビデンスも少ない中での審査でありましたので苦慮しました。参考にさせて頂けますと幸いです。

回答：医薬品適正使用に関するWGで検討し、厚労省の出す治療指針や海外のデータを参考に協議し、患者説明文書を作成し同意書を取得する条件等をつけて使用可と判断しました。

Ⅲ-2-② 申請件数が「2件」ありますが、委員会の開催は「0件」でした。この2件の審査はどのようにされたのでしょうか。

回答：必要資料が不足しているため追加資料を要望しているものと、急ぎの案件ではなかったため、次回他の協議の際に一緒に行うこととしたため、次回協議予定となっています。

Ⅲ-2-④ マイトマイシン点眼薬の原料を試薬とされた理由を教えてくださいませんか。現在流通はしていませんが、メーカーに申請することで医薬品の提供を受けることも可能と思います。

回答：緑内障に使用する場合のみ、メーカーより提供可能となっています。試薬を原料として使用するものは角膜腫瘍など悪性腫瘍に対する点眼になるため、メーカーからの供給が受けられないためです。

Ⅲ-2 - ④ 病院機能評価（3rdG:Ver.2.0一般病院3、評価項目2.1.5）では、C評価となりうる状況として「カリウム製剤の使用について安全性が確保されていない」ことがあげられており、カリウム製剤を添付文書記載の濃度を超えた濃度を使用する場合には、適応外使用の申請、承認が必須とされております。臨床上、添付文書記載を超えた濃度や速度、1日の最大投与量を投与することが発生しますが、それに対する貴院の体制あるいは機能評価受審の際の対応等についてご教示ください。

回答：添付文書の記載を超える場合は、患者から同意文書を取得し、使用を行っている。さらに、高濃度で使用の場合は、アンプル型製剤を使用することになるため、あらかじめ使用届を提出してもらい、使用届の有無を確認したうえで、薬剤部から払出を行っています。また、アンプル製剤を使用した場合は、その使用について有害事象がなかったかなど使用報告書を提出してもらい、適正に運用されたかを確認する体制をとっています。

<自己チェックシート（Ⅲ）高難度>

Ⅲ 令和2年度の申請4件は2回の委員会（メール会議）で審査されたと考えてよろしいでしょうか？

回答：3件を2回の評価委員会にて審査し、1件は年度末の申請であったため、翌年度の評価委員会にて審査をしております。

Ⅳ-8-① 高難度新規医療技術に係るIC文書の審査方法は、高難度新規医療技術ではない手術等に係るIC文書の審査方法と異なるのでしょうか？

回答：まず診療科に説明承諾文書（素案）を作成いただき、医療安全管理部で内容を確認し、弁護士へ監修を依頼し、再度診療科に承諾書（案）を修正いただくところまでは、高難度新規医療技術ではない手術に係る文書作成の流れと同様です（I医療安全に添付しました別紙3参照）。その後、高難度新規医療技術管理部および医療評価委員会にて審議が行われる際に、承諾書の記載内容についても検討され、変更・追加が必要な点があれば修正がおこなわれ、承認される流れとなります。

Ⅳ-9-①～③ 「開催なし」と記載ありますが、メール審査も委員会を開催したものとみなすことができると思いますので、本院が大阪大学あて提出する訪問調査シートにおいては「特になし」などと変更してもよろしいでしょうか？

回答：当院の高難度新規医療技術は「医療評価委員会」または「手術支援ロボット専門委員会」にて審議される事となっております。令和2年度は手術支援ロボットを用いた技術の申請であった為、医療評価委員会での審議はなく「開催なし」と回答しましたが、手術支援ロボット専門委員会で審議をおこないましたので、調査シートの記載内容を修正いたします（添付した調査票(資料9-3_ピアレビュー_自己チェックシート(Ⅲ高難度)_北海道大学(差替え版))をご参照ください）。

V-4 迅速審査と通常審査の区別はどのようにされているのでしょうか？

回答：迅速審査については、「申請の時点で既に実施対象となる患者がおり、かつ当該患者の状態から高難度新規医療技術管理部長が速やかな対応が必要と判断した場合」実施するとしております。

Ⅵ-1 病院機能評価 一般病院 3<3rdG:Ver. 2.0>においては、中長期的な臨床経過もフォローするよう求めています（評価項目1.5.4）。当院ではこれに沿って制度を整えることが課題となっております

が、貴院ではどのように対応されているかご教示ください（例えば、実施症例を何年後まで確認するのか、確認対象を当初のモニタリング症例に限るのか等）。

回答：実施承認時に設定した症例数等の条件を満たすまでは高難度新規医療技術として扱い、以降は通常技術として、実施診療科が管理しております。

<自己チェックシート（Ⅳ）外部監査>

Ⅱ-1-⑥ 医療放射線安全管理責任者について、病院の安全管理体制の中でどのように位置づけているでしょうか？（例：医療安全管理委員会の委員である、医薬品安全管理責任者等と並立する位置づけとしている、など）

回答：医療安全管理委員会とは別に医療放射線管理委員会を組織し、医療安全管理部と連携している。

Ⅱ-1-② “SafetyPatrol はそのような内容を実施されているのでしょうか。また、参加されるメンバー構成はどのようになっているのでしょうか。SafetyPatrol 時に使用される用紙等がありましたら、ご提示いただけないでしょうか。”

回答：“SafetyPatrol の参加メンバーは、医療安全管理部員・診療録管理士・各診療科・病棟のリスクマネージャーで実施します。SafetyPatrol の方法は、まず事前に、診療科・病棟毎に前年度のインシデント分析と今年度の取り組みを検討し、医療安全業務改善計画書を記載いただきます。Patrol の際に計画書をもとに、取り組みの詳細、実践状況、追加確認事項についてディスカッションを行います。必要に応じて現場の環境・システム・実践状況を実際に確認します。医療安全業務改善計画書に記載いただく内容は、毎年変わります。別紙 4 医療安全業務改善計画書参照（赤字の箇所が前年度と違う内容となっております）”

Ⅱ-1-③ 宗教的理由による輸血拒否患者の対応について記載ありますが、医療安全管理部として臨床倫理関係の業務にはどのような関わり方をされているでしょうか？

回答：“本院における宗教的理由による輸血拒否患者への基本的な考え方・対応フローが決まっております。それに従い患者の輸血拒否の範囲・信条や、ご家族の信条・同意の有無、継続的委任状の取得状況を確認し、診療科に治療内容と出血のリスクを確認後、必要に応じて小委員会を開催し当院での治療の受け入れの可否を検討します。（別紙 5 ポケットマニュアルの P14 フロー参照）。

宗教的輸血拒否患者の対応以外の臨床倫理に関する業務については、医療安全管理部に相談いただき、内容に応じて倫理委員会や他委員会での審議とするか検討を行っています。”

<自己チェック>

1-2) 画像検査の適正な実施に関して、依頼診療科と協議して検査を取りやめる、過剰の場合には連絡すると回答がありますが、具体的な基準、事例等を教えていただけますでしょうか。

回答：ほぼ、オーダのミスに起因しており、主に重複オーダや造影不要（不可）オーダの造影依頼の取りやめです。

3-3)-(2), (3) “入院のCT、MRI、核医学検査は読影していませんが、画像診断管理加算2を取得は可能なのでしょうか？”

回答：入院のCT、MRIは依頼分のみ読影、核医学は全例読影と回答しております。入院のCT、MRIに関しても8割ほどが読影依頼あり、という状況です。

3-3) 救急外来のCT、MRIはほぼ全例読影とのことですが、夜間・休日の入院患者のCT、MRIも依頼があれば撮影後速やかに読影レポートが作成されるでしょうか。

回答：夜間・休日については、基本的には翌診療日以降の読影レポート作成としています。読影の希望がある場合は、口頭でのコメントやカルテ記載で対応し、正式なレポートは翌診療日以降となります。

3-8) 夜間、休日（通常の勤務時間外）の読影体制について教えてください。

回答：上記回答の通りで、夜間・休日分の撮像に関しては、正式なレポートは原則翌診療日以降です。当直は放射線診断科、核医学診療科、放射線治療科の共通の当直であるため、放射線診断医以外や専攻医が当直の場合は、読影に対応できる当番を定めており、依頼があった際にはその当番医が遠隔で画像を確認し、コメントするという体制をとっています（正式レポートは翌診療日以降）。

3-8) 読影に際して放射線科医によるダブルチェックは行われていますでしょうか。行われている場合、全例か、基準を決めてか教えてください。

回答：専攻医のダブルチェックは当然行いますが、診断専門医では原則的には行っていません。専門性の高い領域や、相談症例の場合に行います。

4-2) どのような疾患、病態が依頼医に電話連絡をすることを原則とするとしているか教えてください。

回答：穿孔、出血、血栓などの緊急性の高い疾患に加え、偶発的に発見された癌が疑われる病変

4-4) 画像検査で緊急連絡が依頼医につながらなかった場合、クラークに電話することになっているとのことですが、医師に伝わったことを確認する仕組みがあれば教えてください。

回答：放射線科として医師に伝わったことを確認する仕組みはありません。クラークからどのような連絡体制を取るかは各診療科で定めるようお願いしています。

9-12) 一部の診療科で診療録監査を実施しているとのことですが、どのように実施しているが、具

体的に教えてください。」

回答：歯科の一部の診療科では画像検査を行った際に、所見等の必要なコメントがカルテに入力されているかどうか定期的にチェックされ、不足があれば担当医師に通知されている。

9 診療録監査を病院としては行っていないとのことですが、貴院で読影レポートに記載の重要事項の見逃しに対し、どのような対策・取り組みを行っているか、教えてください。

回答：“・最長3か月前から最短2か月前の未読レポートを医療安全管理部で確認する。・医療安全管理部で診療科毎に未読レポートのリスト（入院・外来）を作成して、各診療科のリスクマネージャーに連絡する。・2か月後に再度確認し、未読のままのレポートがある場合に、医科は医療安全管理部長、歯科は医療安全管理副部長から直接リスクマネージャーに連絡する。”

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談室を設置し、医療支援課が対応している。医療支援課長が室長となり、業務を総括している。窓口の周知方法は、外来ホールにポスターを掲示し周知している。なお、医療安全に係る情報は、GRMIに連絡し、調査を行う。また、医療支援課と患者相談窓口・医療安全管理部合同会議を月1回開催し、情報を共有している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 医療安全に関する講演会

「採血・穿刺時の神経損傷予防」（2019年度講演会の録画）

2. 医療安全・感染管理に関する講習会（必修研修）

「2020年度のインシデントを振り返って」、 「北海道大学病院における個人情報管理」、 「COVID-19への対応」、 「抗菌薬適正使用について（外来における急性気道感染症）」

3. 医療安全・感染管理に関する講習会（必修研修）

「医療安全の基本」、 「BLS/AED講習」、 「COVID-19への対応」、 「抗菌薬適正使用について」

4. 医療安全の日講演会

「当院の医療安全活動のトピックス」

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全管理責任者：2021.12.8 受講済（継続）

医薬品安全管理責任者：2021.12.8 受講済（継続）

医療機器安全管理責任者：2021.11.10 受講済（新規）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2018年に日本医療評価機構が実施する病院機能評価（機能種別版評価項目 一般病院33rdG:V.2.0）の訪問審査のうえ、病院機能評価の認証を受けている。病院機能評価に係る改善審査及び期中の確認について書面による受審。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

日本医療評価機構を通じ公表。

・評価を踏まえ講じた措置

期中の確認について自己評価書作成

審査結果報告書における評価Cの項目に対する改善の取組報告書作成

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<p>・ 基準の主な内容 医療法第10条に規定する者であつて、人格が高潔で、学識に優れ、かつ、組織管理能力等の病院を管理する上で必要な資質及び能力並びに医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 公表の方法 本学ホームページで公表。</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 公表の方法 本学ホームページで公表。</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
山口 淳二	北海道大学理事	○	総長が指名する理事	無
畠山 鎮次	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院長	無
八若 保孝	北海道大学大学院 歯学研究院		歯学研究院長	無
秋田 弘俊	北海道大学病院		病院長	無
岩崎 倫政	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	無
田中 伸哉	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	無
北川 善政	北海道大学大学院 歯学研究院		歯学研究院教授会が推薦する教授	無

高橋 久美子	北海道大学病院看護部		病院執行会議が推薦する職員	無
西村 敏信	北海道大学病院事務部		病院執行会議が推薦する職員	無
中村 隆	札幌総合法律事務所		学外有識者	無
松村 明	茨城県立医療大学		学外有識者	無
大島 寿美子	北星学園大学		学外有識者	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 1. 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること。 2. 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施に関すること。 3. 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。 4. 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること。 5. 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。 6. 医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること。 7. その他医療事故等に関すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・審議の概要の従業者への周知状況 1. 病院運営会議 2. リスクマネジャー連絡会議 <ul style="list-style-type: none"> ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 無 ） ・公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
秋田 弘俊	○	医師	病院長
平野 聡		医師	副病院長／臨床研修センター長
北川 善政		歯科医師	副病院長（歯科担当）
南須原 康行		医師	医療安全管理責任者／ 医療安全管理部長 ゼネラルリスクマネジャー（医師）
根岸 淳		歯科医師	医療安全管理部副部長 ゼネラルリスクマネジャー（歯科医師）
藤原 晶		医師	ゼネラルリスクマネジャー（医師）
古藤 幸子		看護師	ゼネラルリスクマネジャー（看護師長）
岡本 千秋		看護師	ゼネラルリスクマネジャー（看護師長）

沖 洋充		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー（薬剤師）
植田 孝介		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー（薬剤師）
石田 晋		医師	手術部長
武富 紹信		医師	物流管理センター部長
遠藤 晃		教員	医療情報企画部長
豊嶋 崇徳		医師	国際医療部長
安斉 俊久		医師	ME 機器管理センター部長
菅原 満		薬剤師	薬剤部長／未承認新規医薬品等管理部長
高橋 久美子		看護師	看護部長
西田 睦		臨床検査技師	医療技術部長
石黒 信久		医師	感染制御部長
篠原 信雄		医師	高難度新規医療技術管理部長
佐藤 典宏		医師	臨床研究開発センター長
西村 敏信		事務	事務次長
渡利 英道		医師	教授（産科，婦人科）
本間 明宏		医師	教授（耳鼻咽喉科）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 無 ）
 - ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 - 病院長は、副病院長を総長へ推薦、病院長補佐を指名、診療科長、中央診療施設等の長を命ずる権限を有している。
 - 病院執行会議、病院経営委員会、病院教員人事委員会等病院の管理運営・経営・人事に係る重要な会議において議長となり議決している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長（総務担当）は、病院全体の運営にかかる連絡調整を行い、副病院長（医科担当）は、医科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（歯科担当）は、歯科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（医療安全担当）は、医療安全にかかる総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（看護業務担当）は、看護部の総括及び他部署との連絡調整を行っている。

 - また、病院長補佐（再開発担当、歯科担当、企画、経営・財務担当、経営戦略担当、経営・事務担当、国際医療、国際交流、研究担当、臨床研究中核病院、産学官連携、研究支援担当、広報、地域連携、100周年記念事業担当、薬剤部担当、医療技術部担当）は、病院長が特に命じた事項について、企画及び立案並びに病院に各部署間の連絡調整を行っている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 本院職員のうち、長年職務に精通し、経験豊富な者から人選する。
 - 研修は組織管理、働き方改革に関するシンポジウム等に参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 北海道大学病院の医療に係る安全管理の業務執行の状況について、北海道大学病院長等から報告を求め、又は必要に応じて確認を実施すること。 2. 北海道大学病院の医療に係る安全管理について、北海道大学総長及び病院長に報告し、必要に応じて是正措置を講じるよう意見を述べること。 3. 前2号に掲げる業務について、その結果を公表すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有） ・ 委員名簿の公表の有無（有） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法：北海道大学ホームページ 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律相談事務所	○	法律に関する識見を有する者	無	1
橋本 暁佳	札幌医科大学		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
萩原 正子	日本医療大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受ける者	無	2
生駒 一憲	北海道大学病院		医療を提供する者	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
既存の大学規程や内部規程で対応。
- ・ 専門部署の設置の有無（ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）
- ・ 公表の方法
本院ホームページ上に掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>平成30年10月に「国立大学法人北海道大学病院管理運営協議会」を設置し、年1回、特定機能病院としての管理・運営状況について調査・審議している。</p> <p>なお、構成員は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る識見を有する者 若干名 (2) 法律に関する識見を有する者 若干名 (3) 病院の管理及び運営に関する識見を有する者 若干名 (4) その他総長が必要と認めた者 ・ 会議体の実施状況（年1回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有）（年1回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法 本学HP上（全学規則集）に掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人北海道大学病院管理運営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
中村 隆	札幌総合法律事務所	○	無
長瀬 清	北海道医師会長		無
土橋 和文	札幌医科大学附属病院長		無
吉見 宏	北海道大学理事・副学長		無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・ 通報件数（年2件）※令和3年度実績・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">→ リスクマネジャー連絡会議にて年に2回必ず周知している院内専用端末にて掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>広報誌及びウェブサイトにて、本院の理念と目標、地域の中核としての役割、先進的な医療に関する情報提供を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>診療科間の連携についてのルールが整備されており、他診療科への受診依頼、依頼先においての検査結果等の患者情報が電子カルテを通して共有されている。患者の情報が不足している場合は補足説明を電話で直接行う等により緊密かつ緊急に連携できる体制を整えている。</p>	